平成 28 年度　スポーツ庁委託事業

# オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業報告書

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

(WASEDA ROPE :　WASEDA RESEARCH CENTER FOR OLYMPIC & PARALYMPIC EDUCATION)

平成 29 年 3 月

本報告書は、スポーツ庁委託「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターが実施した平成 28 年度の事業成果を取りまとめたものです。
したがって、本書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要となります。

# はじめに

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター（WASEDA ROPE：WASEDA RESEARCH CENTER FOR OLYMPIC & PARALYMPIC EDUCATION）は、スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを全国に波及させることを目的に 2016（平成 28）年 7 月に設立されました。

本センターでは今年度、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、オリンピック・パラリンピック並びにスポーツに対する市民の理解を深め、その興味・関心を高めるために、岩手県、広島県、熊本県の 3 県を対象に、フォーラムを開催し、さらに、各県の小・中・高等学校や特別支援学校で、下記に記しております様々な体験や活動を通したオリンピック・パラリンピック教育（以下、オリ・パラ教育）を実施して参りました。

今年度の主な活動内容と致しましては、

①岩手県、広島県、熊本県の 3 県におけるオリンピック･パラリンピック推進校（以下、オリ・パラ推進校）の選定
②オリ・パラ推進校の児童･生徒を対象としたオリ･パラ教育の実施
③オリ・パラ推進校における教員セミナー並びにワークショップ等の開催
④オリンピック・パラリンピック推進啓発に向けた市民フォーラムの開催
⑤本センターのホームページでのオリ・パラ教育に資する各種情報提供
⑥岩手県、広島県、熊本県の 3 県におけるオリ・パラ教育の成果に関する検証

等を行って参りました。

今年度は、これらの取り組みを通して、本センターから各県にオリンピック・パラリンピックの魅力やスポーツの素晴らしさを発信することに鋭意、努めて参りました。今年度の本センターの取り組みによって、各県の児童・生徒、先生方、そして市民の方々がオリンピック・パラリンピックを身近に感じて頂き、また興味・関心を高めて頂ければ、私どもセンタースタッフ一同の望外の喜びでもあります。

末筆になりましたが、本センターの事業推進にあたりまして、多大なご協力を賜りました岩手県教育委員会、広島県教育委員会、熊本県教育委員会並びに熊本市教育委員会の各位、岩手大学・清水将准教授、広島大学・齊藤一彦教授、熊本大学・中川保敬教授に心からお礼を申し上げます。

本報告書は、今年度の本センターが取り組んで参りました各事業についての報告ではありますが、是非ご一読頂き、忌憚のないご意見等を賜れば幸甚に存じます。

平成 29 年 3 月

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
センター長　　友添　秀則

# 目次

事業概要 …… 1
１．本事業の目的と方法 …… 1
２．事業体制 …… 2
３．本事業の実施スケジュール …… 3
４．【資料】オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート調査用紙 …… 5

教員セミナー・ワークショップ　実施報告 …… 7
１．岩手県教員セミナー兼ワークショップ　実施報告 …… 7
２．広島県教員セミナー・ワークショップ　実施報告 …… 9
３．熊本県教員セミナー　実施報告 …… 15

市民フォーラム　実施報告 …… 17
１．岩手県市民フォーラム　実施報告 …… 17
２．広島県市民フォーラム　実施報告 …… 20
３．熊本県市民フォーラム　実施報告 …… 22

オリンピック・パラリンピック教育推進校事業　実施報告 …… 25
１．岩手県 オリンピック・パラリンピック教育推進校　実施報告 …… 25
２．広島県 オリンピック・パラリンピック教育推進校　実施報告 …… 41
３．熊本県 オリンピック・パラリンピック教育推進校　実施報告 …… 69

資料　推進校実施アンケート自由記述（抜粋） …… 125

## 事業概要

### １．本事業の目的と方法

本事業の目的は、地域の人々のオリンピック・パラリンピック、さらにはスポーツに対する興味・関心を高め、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けての機運を盛り上げることであった。

具体的には、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター（以下、早大オリ・パラセンターと略す）が国内３か所に県コンソーシアムを設立し、以下の3つの事業実施を依頼した。

#### Ⅰ．オリンピック･パラリンピック教育推進校の児童･生徒を対象としたオリ･パラ教育の推進

各県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校にオリンピック･パラリンピック教育推進校（以下、オリ・パラ推進校と略す）として、岩手県5校、広島県15校、熊本県20校の学校を指定し、そこでオリ･パラ教育事業を実施した。各オリ･パラ推進校にはオリンピアンまたはパラリンピアンを派遣し、講演や実技指導を依頼した。講演では、オリンピアン・パラリンピアンに、オリンピック・パラリンピックに出場するまでの過程や、テレビ等では報道されないオリンピック・パラリンピックの舞台裏、実際に体験したことやエピソード等を紹介してもらいながら、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさやスポーツの価値について児童・生徒が考える機会を提供した。実技指導では、児童・生徒がオリンピックやパラリンピック競技種目を実際に体験することで、オリンピックやパラリンピックを身近に感じさせるとともに、パラリンピックや障がい者スポーツに対する理解を深め、関心を高めることを目的とした。具体的には、派遣したオリンピアン・パラリンピアンの競技種目や、関連するパラリンピック競技種目の体験教室を行った。

また、事業終了後には早大オリ・パラセンターで事業の成果と課題を抽出し、教育方法の改善や、よりよいオリ・パラ教育プログラムを開発することを目的とし、児童・生徒に対して授業評価アンケートを実施した。アンケートでは、①オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まったか、②障がい者を含めた多くの市民とともに、生涯にわたってスポーツに対して主体的に参画したいと思えたか、③スポーツを通して、自分で考え行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができるか等について５問+自由記述のアンケート用紙を用いて調査した（※p.5-6の資料参照）。

#### Ⅱ．オリ･パラ推進校における教員セミナー並びにワークショップ等の開催

学校におけるオリ・パラ教育を推進するため、早大オリ･パラセンターから、スポーツ教育学、及びスポーツ倫理学の教育研究を専門とする早稲田大学教員（以下「早大教員」と略す）が出向き、オリ･パラ推進校の教員を対象とした教員セミナーを開催し、オリンピック・パラリンピックやスポーツに関する児童・生徒の興味・関心を高めたり理解を深めたりする方法、さらに生涯を通した「する・みる・支える」というスポーツへの多様な関わり方について指導を行った。加えて、オリ･パラ推進校で実践された教育事業の内容や、アンケート調査によって明らかとなった事業の成果と課題について紹介・共有し、近隣の学校におけるオリ・パラ教育の推進・普及を図るため、各県コンソーシアム内にある、すべてのオリ･パラ推進校並びに近隣にある学校の教員に呼びかけてワークショップを開催した。

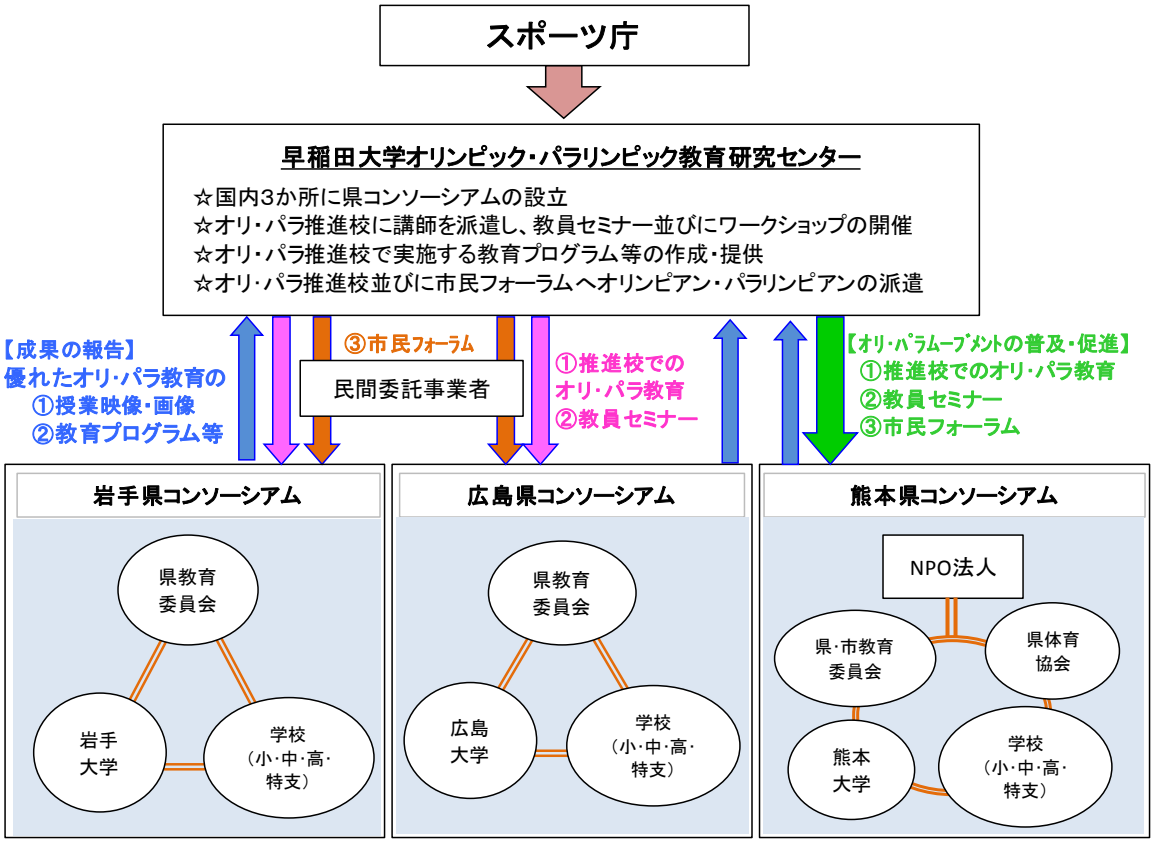
### Ⅲ．オリンピック・パラリンピック推進啓発に向けた市民フォーラムの開催

オリンピアン・パラリンピアンをシンポジストに招いて、オリンピック・パラリンピックを推進啓発するための市民フォーラムを開催した（各県 2～3 名のオリンピアン・パラリンピアンを派遣することとし、このうち 1 名以上必ずパラリンピアンが含まれるように派遣調整を行った）。オリンピアン・パラリンピアンには、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさやスポーツの価値について市民の理解を深めるために、オリンピック・パラリンピックに出場するまでの過程や、テレビ等では報道されないオリンピック・パラリンピック大会の舞台裏、実際に選手が体験したことやエピソード等について、シンポジウム形式でお話しいただいた。

## ２．事業体制

以下に示す事業体制に基づいて本事業を実施した。

【早稲田大学オリンピック･パラリンピック･ムーブメント全国展開事業】




＜ネットワーク内の各メンバーの役割分担＞

①岩手県コンソーシアム

県教育委員会

・県コンソーシアムの立ち上げ

・オリ･パラ推進校の指定

・オリ･パラ教育に関わるオリンピアン・パラリンピアンの選定

・市民フォーラムの会場・シンポジストの選定、参加動員、後援

学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）
・児童・生徒に対するオリ･パラ教育の実施
・教員セミナー並びにワークショップ等の開催
岩手大学
・市民フォーラムの開催・進行

②広島県コンソーシアム
県教育委員会
・県コンソーシアムの立ち上げ
・オリ･パラ推進校の指定
・オリ･パラ教育に関わるオリンピアン・パラリンピアンの選定
・市民フォーラムの会場・シンポジストの選定、参加動員、後援
学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）
・児童・生徒に対するオリ･パラ教育の実施
・教員セミナー並びにワークショップ等の開催
広島大学
・市民フォーラムの開催・進行

③熊本県コンソーシアム
ＮＰＯ法人 ひとづくりくまもとネット
・県コンソーシアムの幹事団体、事務処理・会計担当
・オリ･パラ推進校並びに市民フォーラムにおけるオリンピアン・パラリンピアンの招聘
県教育委員会・市教育委員会
・県コンソーシアムの立ち上げ
・オリ･パラ推進校の指定
・オリ･パラ教育に関わるオリンピアン・パラリンピアンの選定
・市民フォーラムの会場・シンポジストの選定、参加動員、後援
学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）
・児童・生徒に対するオリ･パラ教育の実施
・教員セミナー並びにワークショップ等の開催
県体育協会
・市民フォーラムの参加動員、後援
熊本大学
・市民フォーラムの開催・進行

## ３．本事業の実施スケジュール

本事業は 2016（平成 28）年 7 月 29 日付でスポーツ庁より早稲田大学（代表　学校法人早稲田大学理事長　鎌田薫）に委託契約が締結されて以降、下記のスケジュールに沿って実施された。

・8月から11月にかけて、各県教育委員会に出向き、県・市教育委員会、拠点大学、県体育協会等のメンバーと県コンソーシアムの立ち上げの発会式を行い、県コンソーシアムの事業内容の確認・調整

を行った。また、同時期にはオリ･パラ推進校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）を決定し（岩手県5校、広島県15校、熊本県20校）、推進校の教員を対象とした教員セミナーを行った。

・9月には、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターのWEBサイト（https://www.waseda.jp/prj-w-olypara/）を立ち上げ、各県や推進校におけるオリ・パラ教育事業について情報公開をする基盤を整えた。

・10月から11月にかけて、オリ・パラ推進校での教育事業の日程ならびに派遣オリンピアン・パラリンピアンに関する希望調査をもとに、各校での教育事業の詳細について調整を行った。

・12月から3月にかけて、上記調整にもとづき各オリ･パラ推進校にオリンピアン・パラリンピアンを派遣し、オリ･パラ教育事業を実施した。同時に事業終了時にはアンケート調査を実施し、随時集計をしながら、各校での教育事業の成果と課題について検討した。

また同時期には、各県においてオリンピアン・パラリンピアンを派遣し、シンポジウム形式で市民フォーラムを実施したほか、教員を対象としたワークショップを開催し、オリ・パラ推進校での教育事業についての情報共有を図り、今後のオリ・パラ教育事業の展望についてディスカッションを行った。

・3月には、各推進校での事業報告やアンケート調査の結果、市民フォーラムや教員セミナー・ワークショップの事業報告をまとめ、報告書を作成した。

〈本事業の実施スケジュール〉

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="5">平成28年</th><th colspan="3">平成29年</th></tr>
<tr><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="4">・発会式並びに教員セミナーの開催<br>・各県オリ･パラ推進校の決定</td><td colspan="4">・オリ･パラ推進校での教育事業の実施<br>・市民フォーラムの開催<br>・ワークショップの開催<br>最終報告</td></tr>
<tr><td>早大オリ･パラセンター</td><td colspan="4">・各県コンソーシアムとの事業内容の調整<br>・教員セミナーへの講師派遣<br>早大 オリ･パラセンター ホームページ 公開</td><td colspan="4">・オリ･パラ推進校へのオリンピアン･パラリンピアンの派遣<br>・オリ･パラ推進校でのアンケート調査の実施<br>・市民フォーラムの準備<br>・ワークショップの企画<br>報告書の作成<br>オリ･パラ推進校での事業日程ならびに派遣オリンピアン･パラリンピアンの調整</td></tr>
</table>

## ４．【資料】オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート調査用紙

### （１）小学校、特支児童・特支（知的）生徒用アンケート調査用紙

# オリンピック･パラリンピック教育に関するアンケート

（　　）年（　　）組　（ 男 ・ 女 ）

今日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。（それぞれ１つ選んでください。）

**1　2020 年　東京オリンピック･パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**2　オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**3　2020 年　東京オリンピック･パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを１つ選んでください。**

□試合会場に行っておうえんしたい
□スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい
□自分の家のテレビなどでおうえんしたい
□テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない
□おうえんしない

**4　これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**5　スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**6　今日の授業に対する意見や感そうを書いてください。**

| |
|---|
| |

（２）中学校、高等学校、特支生徒用アンケート調査用紙

# オリンピック･パラリンピック教育に関するアンケート

（　　）年（　　）組　（ 男 ・ 女 ）

本日の授業を受けた、あなたの感想を聞かせて下さい。以下の質問をよく読んで、あてはまるものにチェックを入れて下さい。(それぞれ１つ選んで下さい)

**1　2020 年　東京オリンピック･パラリンピック競技大会に対する理解･関心が高まりましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**2　オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**3　2020 年　東京オリンピック･パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを１つ選んでください。**

□試合会場に行って観戦したい
□パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい
□自宅のテレビなどで観戦したい
□テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない
□関心があまりない

**4　障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**5　スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか。**

□とてもそう思う　□ややそう思う　□あまりそう思わない　□まったくそう思わない

**6　本日の授業に対するご意見、感想を書いてください。**

| |
|---|
| |

## 教員セミナー・ワークショップ　実施報告

### １．岩手県教員セミナー兼ワークショップ　実施報告

2017（平成 29）年 2 月 10 日（金）に「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県教員セミナー兼ワークショップが開催されました。今回は、岩手県教育委員会主催の第 60 回 岩手県教育研究発表会の体育／保健体育分科会に合わせて実施されました。桐蔭横浜大学教授の佐藤豊氏、岩手県教育委員会の鈴木雅孝氏、岩手県立一戸高等学校の吉田哲氏、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの吉永武史氏の 4 名の講師が、オリンピック・パラリンピックの価値等について講演されました。会場には、岩手県教育委員会の方々や岩手県内の公立学校教員等 59 名にご参加いただき、下記の要領で開催されました。

**【開催概要】**

日時：2017（平成 29）年 2 月 10 日（金）13 時 15 分～16 時 25 分
会場：岩手県立総合教育センター
プログラム：13:15～13:20　オリエンテーション
13:20～13:40　講演①　吉田哲氏（岩手県立一戸高等学校　教諭）
13:40～13:55　協議
13:55～14:10　助言　　馬場隆太氏（岩手県教育委員会）
14:10～14:40　講演②　鈴木雅孝氏（岩手県教育委員会）
吉永武史氏（早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授）
14:40～14:50　休憩
14:50～16:20　講演③　佐藤豊氏（桐蔭横浜大学　教授）
16:20～16:25　閉会

今回の分科会のねらいは、「実践発表や研究協議を通じて、小中高の現状や課題、指導実践成果の共有を図るとともに、授業改善についての理解を深め、岩手県の体育・保健体育教育の振興に資する。体育授業における『オリンピックの 3 つの価値』『パラリンピックの 4 つの価値』等の指導のあり方、保健授業における『思考・判断』の評価のあり方について、校種（小・中・高・特支）の枠を超え、実践発表、協議、講演を通して考える機会とする」というものでした。

講演①では、「保健授業における生徒の思考力へのアプローチ：資料を活用した情報解釈を通じて」というテーマで、岩手県立一戸高等学校の吉田哲氏より実践報告がありました。吉田氏の講演後には、岩手県教育委員会の馬場隆太氏の進行のもと、児童・生徒の「思考・判断」を促す保健授業の方法について、参加者一同で協議を行いました。

吉田哲氏

馬場隆太氏

講演②では、「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」というテーマで、岩手県教育委員会の鈴木雅孝氏と本センターの吉永武史氏が講演を行いました。はじめに、本事業が、スポーツ庁の推進する「スポーツ・フォー・トゥモロー推進プログラム」の一環として行われている点、また、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを全国に波及させることが主な目的である点について紹介しました。その後、本センターが今年度に行ってきた岩手県の小・中・高等学校での実践を通して、児童・生徒たちが、夢や目標をもち、努力することの大切さについて学ぶ機会となった点等について、実践校で行ったアンケート調査の結果をもとに報告しました。講演のまとめとして、オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの価値を享受すること、共生社会の実現に必要な態度を形成することが重要であると述べました。

鈴木雅孝氏

吉永武史氏

講演③では、「オリンピック・パラリンピック教育の意味と価値」というテーマで桐蔭横浜大学の佐藤豊氏が講演されました。佐藤氏は、小・中・高等学校でオリンピック・パラリンピック教育を行っていくにあたって、児童・生徒たちから出てくると予想される質問を掲示し、それらに対して佐藤氏自身の回答を示していく形でお話をすすめられました。たとえば、「オリンピック・パラリンピックの種目に入らないスポーツはやっても意味がないのですか？」という問いに対して佐藤氏は、オリンピック・パラリンピックで採用されている種目に限らず、様々なスポーツに取り組むことに価値がある点を強調されました。また、「スポーツは、戦わないと価値がないのですか？」という問いに対しては、オリンピック・パラリンピック教育は、スポーツの多様な価値を伝えることが大切であるため、公正に競争するだけでなく、表現したり、協働したりすることなどもスポーツの重要な意義や価値であるという点を児童・生徒たちに教えていく必要があると述べられました。最後に、「オリンピック・パラリンピックのボランティアと地域の運動会のボランティアは意義や価値が違いますか？」という問いに対しては、何のために「支えるスポーツ」に取り組むかが重要であり、社会貢献や生きがいとして、あるいは、自己実現として「支えるスポーツ」に取り組むのであれば、オリンピック・パラリンピックに限らず、あらゆる競技会のボランティアに意義や価値があると述べられました。また、スポーツの発展・振興は、多くの人々のサポートによって支えられていることを力説され、講演をまとめられました。

分科会に参加された多くの現職教員や教育関係者の方々もオリンピック・パラリンピック教育の重要性について深く考えるきっかけになったようでした。

佐藤豊氏

会場の様子

## ２．広島県教員セミナー・ワークショップ　実施報告

### （1）広島県第一回教員セミナー　実施報告

2016（平成 28）年 10 月 25 日（火）に、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」広島県第一回教員セミナーが、広島県教育委員会事務局　教育部スポーツ振興課　課長補佐　黒田康弘氏、同指導主事　光橋健氏、ならびに広島県オリンピック・パラリンピック教育推進校より 12 名の先生方にご参加いただき、下記の要領で開催されました。

**【開催概要】**

日時：2016（平成 28）年 10 月 25 日（火）13 時 30 分～16 時 30 分
会場：広島県立総合体育館ミーティングルーム
主催：広島県教育委員会
　　早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
参加者：14 名（推進校教員 12 名、広島県教育委員会 2 名）
プログラム：
13:30～　開催挨拶
　　黒田康弘氏（広島県教育委員会事務局　教育部スポーツ振興課　課長補佐）
13:35～　事業説明
　　光橋健氏　（広島県教育委員会事務局　教育部スポーツ振興課　指導主事）
14:00～　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の取組について
　　深見英一郎氏　（早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授）
15:15～　「体育理論」領域におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進について
　　杉山正明氏　（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長）
16:15～　質疑応答

はじめに広島県教育委員会の黒田康弘氏より教員セミナー開催にあたってのご挨拶をいただいた後、広島県コンソーシアムにおける今後の活動方針や事業の全体像について、広島県教育委員会の光橋健氏よりご説明いただきました。

**開催挨拶　黒田康弘氏**

**事業説明　光橋健氏**

光橋指導主事からは、広島県コンソーシアムとしては、今後の事業展開を通して、広島県の子供にスポーツそのものの意味や意義、これからのスポーツの在り方についての深い学びを促し、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運を高めていきたい旨のお話しいただきました。

また今後の事業の進め方について、推進校、広島県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの 3 者の連携を図り、今年度については 2016（平成 28）年 11 月～2017（平

成 29）年 2 月を目途に、推進校における授業実施や県内の教員向けのワークショップ等を開催していきながら、2020 年まで継続的に事業を展開していくビジョンをご提示いただきました。

続いて、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　副センター長の深見英一郎氏より、改めて本事業の実施に至った背景等を踏まえながら、事業の全体概要ならびにコンソーシアムへの依頼内容や、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けたロードマップについて、1964 年の東京オリンピック・パラリンピック当時の取り組みを踏まえ、具体的にご説明いただきました。

その中で、特に本事業は“オリンピック教育”ではなく、“オリンピック・パラリンピック教育”であるため、オリンピックのみならずパラリンピックへの機運醸成をはかることも重視するものであることや、「スポーツ・フォー・トゥモロー」の理念のもと、広島県と協力して 2020 年に東京オリンピック・パラリンピックが開催された後にも、レガシーとして残っていくような取り組みを推進したい旨のお話しいただきました。

休憩の後には、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長の杉山正明氏より、今後の授業実施の事例として、「体育理論」領域におけるオリンピック・パラリンピック教育の具体像についてお示しいただきました。

事例紹介に先立ち、杉山事務局長からはオリンピック・パラリンピック教育を推進していくうえで柱となる、オリンピックの 3 つの価値（卓越、友情、敬意／尊重）や、パラリンピックの 4 つの価値（勇気、決意、平等、鼓舞）についてご説明いただいた後、IOC の取り組みである「オリンピックの価値教育プログラム」（OVEP）をご紹介いただきました。

**事業展開について　深見英一郎氏**

**取り組み事例について　杉山正明氏**

また、具体的な授業展開の例として、学習指導要領の内容に準拠した「体育理論」領域の系統的な授業づくりの方法や、児童・生徒向けに本研究センターで作成したポートフォリオ形式の学習資料であるオリンピック・パラリンピックノートの活用方法についてご説明いただきました。

**集合写真**

**オリンピック・パラリンピックノート**

**（2）広島県第二回教員セミナー　実施報告**

2016（平成 28）年 12 月 5 日（月）に、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」広島県第二回教員セミナーが開催されました。今回は、広島県高等学校教育研究大会保健体育部会第 2 回研究大会を兼ねて実施されました。広島県教育委員会スポーツ振興課　指導主事光橋健氏、吉松千穂氏　広島県立高等学校の学校長並びに保健体育教員 31 名の先生方にご参加いただき、下記の要領で開催されました。

**【開催概要】**

日時：2016（平成 28）年 12 月 5 日（月）13 時 30 分～16 時 30 分
会場：広島県情報プラザ　第 2 研修室
主催：広島県教育委員会
　　早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
プログラム：
　13:30～ 開会行事（挨拶）
　　中川実氏　（広島県立湯来南高等学校長）
　13:40～ 講義①「広島県コンソーシアム推進校の取組について」
　　光橋健氏　（広島県教育委員会スポーツ振興課　指導主事）
　14:10～ 講義②「オリンピック・パラリンピック教育の意義について」
　　杉山正明氏　（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長）
　14:50～ 講義③「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」
　　大越正大氏　（東海大学　体育学部　体育学科　准教授）
　16:20～ 閉会行事

はじめに広島県立湯来南高等学校長 中川実氏より、教員セミナー開催にあたってのご挨拶をいただきました。中川氏からは、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが終わりいよいよ 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けての動きが進む中で、今回のセミナーが広島県における「学びの変革 アクションプラン」に役立つものと確信し、各学校での保健体育の授業等に生かして欲しい旨のお話をいただきました。なお、閉会行事では広島県立世羅高等学校長　堀健太郎氏より、閉会のお言葉をいただきました。

**開催挨拶　中川実氏**

**閉会のお言葉　堀健太郎氏**

講義①では、広島県教育委員会スポーツ振興課　指導主事の光橋健氏から、広島県における「学びの変革　アクションプラン」と「オリ・パラ教育」の在り方についてご説明いただきました。

はじめに広島県の進めている「学びの変革　アクションプラン」が、広島県内に発展していって欲しい旨のお話があり、続けて「なぜ、今、オリ・パラ教育なのか、オリ・パラ教育とは何か」についての

説明があり、「学びの変革　アクションプラン」と「オリ・パラ教育」を関連付けて体育理論の授業における主体的な学び、協働的な学び、深い学びについて、丁寧に説明していただきました。そして、今後の事業展開を通して、広島県の子供にスポーツそのものの意味や意義、これからのスポーツの在り方についての深い学びを促し、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運を高めていきたい旨のお話しいただきました。

講義②では、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長の杉山正明氏より、クーベルタンの理念やスポーツの力に触れながら「オリンピック・パラリンピック教育」の具体像についてお示しいただきました。

特に、オリンピック・パラリンピック教育を推進していくうえで柱となる、オリンピックの 3 つの価値（卓越、友情、敬意／尊重）や、パラリンピックの 4 つの価値（勇気、決意、平等、鼓舞）についてご説明いただいた後、IOC の取り組みである「オリンピックの価値教育プログラム」（OVEP）をご紹介いただきました。また、今後の各推進校における具体的な授業展開の例として、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」に関する具体的な資料について紹介がありました。

**左：広島県コンソーシアム推進校の取組について　光橋健氏**
**右：オリンピック・パラリンピック教育の意義について　杉山正明氏**

講義③では、東海大学体育学部体育学科　准教授　大越正大氏より、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて」と題して、特に「スポーツの価値観を磨く！体育理論の授業づくり」について丁寧に解説していただきました。

講義のはじめには、大越氏とのじゃんけんや隣の受講生とのじゃんけんなどのアイスブレークがあり、受講生の先生方の気持ちがほぐれ、講義への意欲が高まったところで、体育理論の授業の現状分析や体育理論の授業の必要性の解説、より良い授業の構造を家に例えるとどういう構造なのかという視点からの素材概念と教材化のポイントについて、さまざまな角度から体育理論の授業づくりについて解説していただきました。また、アクティブラーニングのとらえ方やカリキュラムマネジメントの概念についても解説していただいた後に、受講生のペアでの体育理論のミニワークショップがあり、受講された先生方にとって、とても充実した講義となりました。

**次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて　　大越正大氏**

### （3）広島県ワークショップ　実施報告

2017（平成 29）年 3 月 2 日（木）に、下記要項にて広島県ワークショップを開催しました。広島県教育委員会の黒田康弘氏、光橋健氏、オリンピック・パラリンピック推進校並びにそれ以外の小学校・中学校の教員合わせて 14 名が参加されました。

【開催概要】

日時：平成 29 年 3 月 2 日（木）13：30～16：30

会場：県立総合体育館　ミーティングルーム

プログラム：

13:30～開催挨拶

深見英一郎氏　（早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授）

13:40～平成 29 年度推進校の取り組みについて

光橋健氏　（広島県教育委員会スポーツ振興課　指導主事）

14:00～【協議】オリンピック・パラリンピック教育推進について

16:20～講評

深見英一郎氏（早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授）

まず、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの深見氏が、今年度の事業実践にご協力いただいた広島県教育委員会並びにオリ･パラ推進校に対して御礼のご挨拶と､来年度も引き続き本事業へのご協力をお願いしました。今年度、県内 8 つの高校へオリンピアンの派遣と、1 校へ教材資料を提供したこと、来年度は単にオリンピアン・パラリンピアンの派遣に留まらない、現場の先生方によるオリ･パラ授業に積極的にチャレンジしていただききたい旨をお話しました。

その後、広島県教育委員会の光橋氏が、今年度の事業の振り返りをし、来年度の変更点などをお話されました。今年度は高等学校での実践のみであったため、来年度は他の校種でも事業を行い、推薦校の数も増やしていきたいこと、広島県内のみの交流ではなく、他県で行われる全国セミナーや全国ワークショップにも積極的に参加し交流を図っていきたい旨のお話がありました。また、選手の派遣事業を一過性のイベントで終わらせてしまうことのないよう、オリパラ教育のノウハウを確実に蓄積し展開していきたいと、話していただきました。

**挨拶　深見英一郎氏**

今年度の振り返りと来年度の事業説明　**光橋健氏**

次に、本年度に事業を実施した推進校の先生方から、実施内容とオリパラ教育の効果、次年度に向けての改善点などを順に話していただきました。多くの先生方から、実施前はオリンピック・パラリンピックに対して興味を持っていない生徒が多かったが、目の前でトップアスリートの実技を見たり講演内容を聴いたりすることで、生徒たちのスポーツに対する関心が高まったこと、自身の生き方・考え方を振り返り成長の糧にすることができた生徒が多かったことなど、大変有意義な時間を送ることができたと評価していただきました。改善点として、派遣選手やオリンピック・パラリンピックについて事前学習を十分に実施するようにしたら、また違った視点で生徒が思考することができたのではないかというご意見をいただきました。

取組みについての発表のあとは、推進校の先生方に 3 つのグループに分かれてもらい、オリンピック・パラリンピック教育のモデル授業を作成するというグループワークを実施しました。指導案作成に当たっては、①「スポーツ」「オリンピック」に対する深い理解、②「オリンピックムーブメント」への主体的な参加、③2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会への参画という 3 つの観点を意識していただきました。およそ 90 分という作成時間でしたが、その間に積極的にグループ内で意見を出し合い、どのようなテーマや発問をするのがよいか、熱心に討論をされていました。過去のオリンピックやパラリンピックの映像を見せ、スポーツを通して公正・公平な態度や他者への尊重について考えさせるような授業や、メディアがスポーツへ与える影響について、良い側面と負の側面の両方について生徒に考えさせた上で、スポーツのあり方や価値を再構築する授業、スポーツやオリンピック・パラリンピックの持つ価値について、生徒自身が自分なりに価値観を見出し、自身の生活へと落とし込むことができるような授業など、大変質の高い指導案を作成していただきました。

最後に、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの深見氏から、本日交流していただいた知識を各学校へ持ち帰り、今後もさらに学校の教員全体でムーブメントを起こしていってほしいと総括の言葉がありました。

校種を越えた指導案検討会

オリ・パラ授業指導案のプレゼン

## ３．熊本県教員セミナー　実施報告

2016（平成 28）年 11 月 4 日（金）に、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県教員セミナーが開催されました。熊本県教育庁教育指導局　体育保健課長　平田浩一氏　他 2 名、熊本市教育委員会　学校教育部　健康教育課長　森田一孝氏　他 4 名、公益財団法人熊本県体育協会　事務局次長　松本健司氏、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会　事務局太田黒尚子氏、熊本県障害者スポーツ・文化協会　事務局長　竹下智之氏、特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット　理事長　中川保敬氏、ならびに熊本県オリンピック・パラリンピック教育推進校より 23 名の先生方にご参加いただき、下記の要領で開催されました。

**【開催概要】**

日時：2016（平成 28）年 11 月 4 日（金）14 時 15 分～16 時 45 分
会場：ホテル熊本テルサ　たい樹
主催：特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット
　　早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
参加者：43 名（推進校教員 23 名、コンソーシアム構成関係団体等 20 名）
プログラム：
14:15～ 開催挨拶
　　平田浩一氏　（熊本県教育庁教育指導局　体育保健課　課長）
14:30～ 講義 1「オリンピック・パラリンピック教育の概要について」
　　深見英一郎氏　（早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授）
15:15～ 講義 2「オリンピック・パラリンピック教育の進め方について」
　　杉山正明氏　（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長）
16:15～ 質疑応答・意見交換

はじめに､熊本県教育庁の平田浩一氏より､教員セミナー開催にあたってのご挨拶をいただきました。平田課長からは、過日開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックにも熊本県出身の選手が多数出場し、地震からの復興に向けて大きく前進していること、さらに本事業を通してより一層、熊本県の士気を高めていきたい旨のお話をいただきました。

**開催挨拶　平田浩一氏**

続いて、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　副センター長の深見英一郎氏より、改めて本事業の実施に至った背景等を踏まえながら、事業の全体概要ならびにコンソーシアムへ

の依頼内容や、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けたロードマップについて、1964 年の東京オリンピック・パラリンピック当時の取り組みを踏まえ、具体的にご説明いただきました。

**オリンピック・パラリンピック教育概要について　深見英一郎氏**

その中で、「スポーツ・フォー・トゥモロー」の理念のもと、子供たちとオリンピアンとの交流を通して積極的に事業を展開し、熊本県と協力して 2020 年に東京オリンピック・パラリンピックが開催された後にも、レガシーとして残っていくような取り組みを推進したい旨のお話しいただきました。

休憩の後には、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　事務局長の杉山正明氏より、クーベルタンの理念やスポーツの力に触れながら「オリンピック・パラリンピック教育」の具体像についてお示しいただきました。

特に、オリンピック・パラリンピック教育を推進していくうえで柱となる、オリンピックの 3 つの価値（卓越、友情、敬意／尊重）や、パラリンピックの 4 つの価値（勇気、決意、平等、鼓舞）についてご説明いただいた後、IOC の取り組みである「オリンピックの価値教育プログラム」（OVEP）をご紹介いただきました。

また、今後の各推進校における具体的な授業展開の例として、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」に関する具体的な資料について紹介がありました。そして、児童・生徒向けに本研究センターで作成したポートフォリオ形式の学習資料であるオリンピック・パラリンピックノートの活用方法についてもご説明いただきました。

**左：オリンピック・パラリンピック教育の進め方について　杉山正明氏**
**右：質疑応答　吉永武史氏**

## 市民フォーラム 実施報告

### １．岩手県市民フォーラム 実施報告

2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）に、「いわてスポーツコンベンション 2017」の一環として、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県市民フォーラムが開催されました。岩手大学　准教授の清水将氏をコーディネーターとして、オリンピアンの小椋久美子氏（バドミントン）、パラリンピアンの芦田創氏（陸上競技）、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　センター長の友添秀則氏をパネリストとしてシンポジウムが行われました。当日は、地域の生徒や市民など約 300 名の方々にご参加いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

**【開催概要】**

日時：2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）15 時 10 分～16 時 40 分
会場：アイーナ　いわて県民情報交流センター
主催：岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県体育協会、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県コンソーシアム、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
参加者：約 300 名
プログラム：

15:10～ シンポジウム　　テーマ「“地方発”オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」
コーディネーター　清水将氏（岩手大学　准教授）
パネリスト
小椋久美子氏　（北京オリンピック　バドミントン競技　第 5 位）
芦田創氏　（リオデジャネイロパラリンピック　陸上競技　銅メダル）
友添秀則氏　（早稲田大学スポーツ科学学術院　教授）

シンポジウムの冒頭では、芦田氏がリオデジャネイロパラリンピック競技大会で獲得した銅メダルを掲げながら、パラリンピックのメダルには鈴が入っており、障がいがあってもメダルを実感できるように作られていると、パラリンピックにまつわるお話をしていただきました。

パラリンピックの銅メダルについて語る芦田氏

会場の様子

コーディネーターの清水氏には、主にスポーツのすばらしさについて、パネリストへ質問をしながら進行していただきました。パネリストの小椋氏からは、オリンピックの舞台は様々な犠牲を払って努力してきた人が出場できる場であり、出場できる喜びの他にも緊張感や責任も伴うものであると、トップアスリートだからこそ経験した栄光と苦悩や葛藤、それらを乗り越えた先にある成長についての話をしていただきました。芦田氏からは、障がいを負った自身の生い立ちも交え、スポーツとは努力した分だけ必ず自分に成果が返ってくるものであり、自分が輝けるもの、自分を好きになれるものであると、力強い話をしていただきました。

**コーディネーター　清水将氏**

**記念撮影**

また、小椋氏・芦田氏の双方から、声援は力となり勇気を与えてくれるという話をしていただきました。特に、海外での試合は、離れていても応援してくれる人々の存在や、ボランティアとして試合の運営などを支えてくれる人々の存在が非常に大きく、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでも、ぜひ岩手県から多数のサポーターが出てくれることを期待していますとお話していただきました。また、アスリートとして自身が強くなること、あるいは指導者として子供たちに競技を教えることを通して、子供たちに活力を与え地域の復興に貢献していきたいという抱負も語っていただきました。

そして本センターの友添秀則氏からは、スポーツは時代の流れとともに変容してきており、健常者・障がい者という枠組み自体も変化してきているということや、スポーツには「する」ということ以外にも多様な関わり方があり、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに岩手県からどれだけ多くの若い人々がボランティアとして参加し、彼/彼女らがそこでの体験をもとにその後も岩手県にどのように関わっていくことができるかという点が、復興に繋がる重要なポイントではないかと、総括の言葉をいただきました。

**質疑応答の様子（参加者からの質問に答える小椋氏）**

【新聞掲載記事】

# 「東京」へ機運醸成、地方から

## 盛岡 元五輪選手ら意見交換

「オリンピック・パラリンピックに岩手が何をできるか」意見を交換する（左から）友添秀則教授、小椋久美子さん、芦田創選手

いわてスポーツコンベンション（県教委、県体協など主催）は7日、盛岡市のアイーナで開かれ、元五輪選手や現役のパラリンピック選手が地方から2020年東京五輪・パラリンピックの機運を盛り上げようと意見を交わした。

「地方発オリンピック・パラリンピックムーブメント」をテーマとしたシンポジウムは3人が討論。リオデジャネイロパラリンピック陸上男子400メートルリレーで銅メダルを獲得した芦田創選手は「練習が結果に跳ね返り、自分を好きになれる」とスポーツの魅力を語り「『何でこんなことができるんだ』という超人的なパフォーマンスを見せたい」と3年後に意欲を示した。

名実ともに復興五輪とするために、北京五輪バドミントン女子ダブルス5位の小椋久美子さんは「子どもたちがスポーツに親しむ機会を増やすことで復興や元気につながっていくのではないか」と提言した。

本県は何をできるか。早大スポーツ科学学術院の友添秀則教授は「若い岩手の高校生、学生がどれだけボランティアに参加するか。それが震災を乗り越えたかどうかのバロメーターになる」と被災地と五輪の関わりを説いた。

北京五輪陸上男子400メートルリレー銅メダルの朝原宣治さんは「夢を追い続けて」と題して講演。左足の疲労骨折から復帰してメダルを獲得した経験を交え「失敗から学んだ」競技人生を振り返った。朝原さんたちを超える銀メダルに輝いたリオ五輪組のチームワークの良さも詳述し、中高生ら約300人の聴衆も熱心に聞き入った。

岩手日報　平成 29(2017)年 1 月 8 日付　朝刊

## ２．広島県市民フォーラム 実施報告

2017（平成 29）年 1 月 20 日（金）に、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」広島県市民フォーラムが開催されました。広島大学　教授の齊藤一彦氏がコーディネーターを務め、シンポジストにオリンピアンの荻野正二氏（バレーボール）と星奈津美氏（競泳）、パラリンピアンの横澤高徳氏（チェアスキー）をお招きし、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの吉永武史氏の進行のもとシンポジウムが行われました。当日は、大雪の中にも関わらず、地域の方々に多数ご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

**【開催概要】**

日時：2017（平成 29）年 1 月 20 日（金）18 時 30 分～20 時 20 分
会場：北広島町　千代田開発センター
主催：早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
共催：広島県教育委員会
後援：北広島町教育委員会
参加者：約 60 名

プログラム：

15:10～ シンポジウム　　テーマ「“広島発”スポーツの力」

| | | |
|---|---|---|
| コーディネーター | 齊藤一彦氏 | （広島大学　教授） |
| シンポジスト | 荻野正二氏 | （バルセロナ・北京オリンピック　バレーボール競技　出場） |
| | 星奈津美氏 | （ロンドン・リオデジャネイロオリンピック　競泳競技 3 位） |
| | 横澤高徳氏 | （バンクーバーパラリンピック　アルペンスキー競技　出場） |
| 進行 | 吉永武史氏 | （早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授） |

シンポジウムの冒頭では、進行の吉永武史氏より、「“広島発”スポーツの力」というシンポジウムのテーマのもと、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、広島からスポーツの価値をいかに発信していくことができるかについて考えを深めていく時間にしたいと開会の趣旨について説明がありました。

シンポジウムの序盤では、それぞれのシンポジストに用意された質問に答えていただきました。星氏には、甲状腺の全摘出手術を乗り越えてリオデジャネイロオリンピックで銅メダルを獲得するまでの過程について伺いました。星氏は、当たり前のように毎日練習ができることに対して感謝の気持ちを持つことで、自分を極限まで追い込むことができたと答えられました。荻野氏には、ドーピング検査の経験について伺いました。荻野氏からは、目薬一滴だけでもドーピング違反になってしまう可能性があるため、重圧を背負いながら検査を受けていたというお話をいただきました。横澤氏には、障がい者スポーツの課題について伺いました。横澤氏からは、障がい者スポーツを支える人や環境を整備していくことの重要性についてお話をいただきました。

シンポジウムの最後には、広島の地域の方々が 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックにどのように関わっていけるのかについて、各シンポジストのお考えをお聞きしました。星氏は、オリンピック開催地の人々からの声援が力になったという自身の経験から、外国人選手に対して声援を送ることも良いのではないかと述べられました。荻野氏は、日本の選手だけではなく、海外のトップ選手同士の試

合観戦を提案されました。横澤氏は、パラリンピアンとして、多くのボランティアに助けられてきた経験から、ボランティアとして東京オリンピック・パラリンピックに関わることもできるのではないかと述べられました。最後に、コーディネーターの齊藤一彦氏は、東京に直接足を運ぶことができない人でも、スポーツの価値について理解し、広島にスポーツを根付かせ、スポーツを通して若い世代を育てていくことが、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとなっていくのではないかと述べ、シンポジウムをまとめられました。

荻野正二氏

星奈津美氏

横澤高徳氏

コーディネーター 齊藤一彦氏と進行 吉永武史氏

シンポジウム終了後の質疑応答では、来場者から、緊張した時や落ち込んだ時の気持ちの切り替え方についてご質問をいただきました。荻野氏は、親身になって相談に乗ってくれるような人を見つけること、星氏は、緊張はしても不安にはならないように、常に試合を想定しながら練習に取り組むこと、横澤氏は、初心にかえることのできる「原点」を見つけておくことが大切なのではないかと述べられました。3 名のシンポジストのお言葉は、大雪の中いらしてくださった広島の地域の方々の心に響いているようでした。

集合写真

## ３．熊本県市民フォーラム 実施報告

2017（平成 29）年 2 月 24 日（金）に、「スポーツ庁　オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県市民フォーラムが開催されました。オリンピアンの荻原次晴氏（スキー・ノルディック複合）、パラリンピアンの廣瀬誠氏（柔道）をシンポジストとしてお招きし、熊本大学　教授の中川保敬氏がコーディネーターを務められました。当日は、熊本県内学校関係者、熊本県体育協会加盟競技団体関係者、熊本県内総合型地域スポーツクラブ関係者、障がい者スポーツ関係者の方々等にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

**【開催概要】**

日時：2017（平成 29）年 2 月 24 日（金）13 時 30 分～16 時 50 分
会場：ホテル熊本テルサ　テルサホール
主催：早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター、くまもと元気アップアソシエイツ―オリパラムーブメント―
参加者：約 120 名
プログラム：

13:30～13:45　開会行事
13:45～14:45　講演①　荻原次晴氏　「次に晴れればそれでいい」
14:45～14:55　休憩
14:55～15:55　講演②　廣瀬誠氏　「パラリンピアンとして伝えたいこと」
15:55～16:10　休憩
16:10～16:45　シンポジウム　テーマ「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」
16:45～16:50　閉会

開会行事では、熊本県教育委員会教育指導局体育保健課審議員の松本幸寛氏より主催者挨拶があり、続いて早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター　センター長の友添秀則氏より、本事業の概要が説明されました。

**松本幸寛氏**

**本センター長　友添秀則氏**

講演①では、長野オリンピック（1998 年）スキー・ノルディック複合に出場された荻原次晴氏より、「次に晴れればそれでいい」という題目でご講演いただきました。荻原氏は、アルベールビル（1992 年）・リレハンメル（1994 年）オリンピックで 2 大会連続の金メダルを獲得した双子の兄、荻原健司氏と見間違えられることで、サイン攻めに合うなどの苦労をされたことについてお話しされました。金メダリストの兄とオリンピックに出場できない自分とを比較してしまい悩むこともあったそうです。しか

し、その苦悩を乗り越えるために懸命に努力したため、長野オリンピック（1998 年）への出場を果たすことができたといいます。そして、オリンピックへの出場を通して、兄の健司氏や両親をはじめとする多くの人たちの支えに対して感謝の気持ちをもつことができるようになったとお話しされ、講演をまとめられました。

講演②では、パラリンピックの柔道競技に 4 大会連続で（アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロ）出場された廣瀬誠氏より、「パラリンピアンとして伝えたいこと」という題目でご講演いただきました。廣瀬氏は、自身がリオデジャネイロパラリンピック（2016 年）で獲得した銀メダルを掲げながら、パラリンピックのメダルには、鈴が入っており、目が見えない人への配慮がなされていることについてお話しされました。また、ヘレン・ケラーの「障がいは不便だが不幸ではない」という言葉を紹介し、日常にあふれている「当たり前」に感謝することの大切さについてお話しいただきました。

荻原次晴氏

廣瀬誠氏

お二方には講演後に再度ご登壇いただき、熊本大学の中川保敬氏がコーディネーターを務め、「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」というテーマでシンポジウムが行われました。東京オリンピック・パラリンピックに向けて熊本で何ができるのかについて深く議論する場となりました。

シンポジウムの様子

中川保敬氏

花束贈呈

集合写真

【新聞掲載記事】

# スポーツに関心持って

## 熊本市で市民フォーラム

２０２０年の東京五輪、パラリンピックに向けた市民フォーラムが24日、熊本市中央区のホテル熊本テルサであった。早大オリンピック・パラリンピック教育研究センターの主催で、地域の人々のスポーツに対する関心を高めるのが狙い。県内の学校や競技団体の関係者ら約１２０人が参加した。

１９９８年の長野五輪スキーノルディック複合日本代表の荻原次晴さん、リオデジャネイロ・パラリンピックの柔道男子60キロ級で銀メダルを獲得した広瀬誠さんが、五輪出場時の体験談などを交えながら講演。荻原さんは「いろんな苦しみを味わったけど、その全てのおかげで目標にたどり着けた」と双子の兄・健司さんと比較されることに苦しみながら五輪を目指した経験を語った。

リオ大会後に競技生活を引退した広瀬さんは「今後パラリンピックが障害者理解を進めるきっかけになってほしい」などと話した。

また、熊本大教育学部の中川保敬教授を交えて「熊本からオリンピック・パラリンピックムーブメント」と題したシンポジウムもあった。

（丁将広）

講演する荻原次晴さん＝熊本市中央区のホテル熊本テルサ

熊本日日新聞　平成 29（2017）年 2 月 25 日付　朝刊

## オリンピック・パラリンピック教育推進校事業 実施報告

### １．岩手県 オリンピック・パラリンピック教育推進校 実施報告

（1）2016 年度岩手県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

| | |
|---|---|
| 小学校<br>（２校） | 山田町立山田南小学校<br>二戸市立福岡小学校 |
| 中学校<br>（１校） | 盛岡市立松園中学校 |
| 高等学校<br>（１校） | 岩手県立盛岡南高等学校 |
| 特別支援学校<br>（１校） | 岩手大学教育学部付属特別支援学校 |

（計５校）

## （２）岩手県盛岡市立松園中学校　事業報告

１　学校名：岩手県盛岡市立松園中学校

２　実施日時：2016（平成 28）年 12 月 13 日（火）

３　対象：全校生徒 282 名

４　派遣パラリンピアン：横澤高徳さん
（チェアスキー大回転座位　バンクーバーパラリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

チェアスキー　大回転座位でバンクーバーパラリンピック（2010 年）に出場され、現在は全国の学校などでの講演活動をはじめ、新聞やラジオ、テレビなどで精力的に活動されている横澤高徳さんは、この度、なぜ、自分がパラリンピックに出場するようになったのか、また、夢を叶えるためにはどういうことが大切なのかについて、中学校生徒 282 名を対象にお話ししてくださいました。

横澤さんは、もともとモトクロスの選手として全日本選手権大会で入賞するなどの実力者でしたが、ご自身が自宅近くに作ったモトクロスコースのテスト走行中、ジャンプの着地に失敗し、脊椎を損傷して下半身不随となってしまいました。入院中は「できないこと探し」をしていたそうです。

そのような時に、リハビリをしていて両腕や両脚のない人たちに出会い、頑張っている姿を見て「できない、できない」という思いから、「できることからやってみよう」と自分の考えを変えたそうです。

また、この時期にリハビリ担当の医師やスタッフから「スピード好き」の横澤さんにぴったりのスポーツがあると勧められたのが、チェアスキーでした。はじめはあまり気乗りしなかったようですが、岩手のスキー場に行って体験することで、モトクロスと同様な挑戦する気持ちになったそうです。

横澤さんからは、「夢を叶えるためには努力することが大切であり、必ず実現できるので、あせるな！諦めるな！チャンスを待て！」という言葉や「できないこと探しからできること探しへというポジティブな思考の大切さ」、「夢は周りの人の支えによって叶うもの」というメッセージを全校生徒に伝えられました。

また、講演の後には横澤さんがご用意されたチェアスキーや車いすバスケットボール用の車いす、車いすマラソン用の自転車などを使って、数名の生徒が実技体験を行いました。生徒は乗ったことのない用具に戸惑いながらも、体験を通じてパラリンピックの世界に触れ、大変胸を躍らせていました。

講演を聞いた生徒からは、事後のアンケートにおいて、今までほとんど知ることのなかったパラリンピックに対して興味が湧いたと言った意見や、2018 年の平昌パラリンピックや 2020 年東京パラリンピックはテレビや実際の競技会場で観戦しようと思うなど、パラリンピックに対する関心の高まりが見られました。また、横澤さんの話を受けて、自分でも目標を立てて夢に向かって頑張ろうと思った、自分もたくさんの人を支えられるようになりたいと思った、など自身の今後の人生に重ね合わせ、今回の講演で学んだことを活かしていきたいといった旨の感想も大変多くあげられました。

横澤さんの発した「できること探しをする」とのメッセージは多くの生徒の心に響いたようでした。

6　事業の様子

横澤さんはチェアスキーに取り組むようになった経緯から
「ポジティブな生き方の大切さ」を熱心にお話しされました

生徒からは多くの質問がありました。
また、横澤さんからも生徒にいろいろと質問をしながらお話しされました

初めて乗るチェアスキー

車いすバスケットボールのルールを教える横澤さん

車いすマラソン用自転車で疾走する生徒

講演後の横澤さんと全校生徒との集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 206 | 名 | 82.4 | % |
| ややそう思う | 40 | 名 | 16.0 | % |
| あまりそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 206 | 名 | 82.4 | % |
| ややそう思う | 37 | 名 | 14.8 | % |
| あまりそう思わない | 5 | 名 | 2.0 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

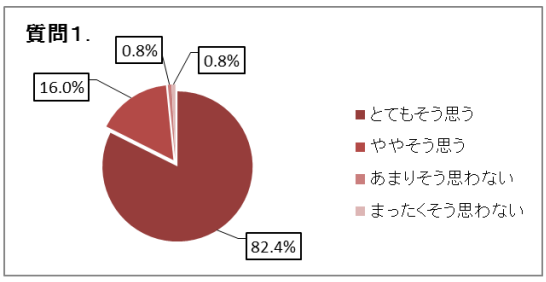
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 80 | 名 | 32.1 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 8 | 名 | 3.2 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 136 | 名 | 54.6 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 19 | 名 | 7.6 | % |
| 関心があまりない | 6 | 名 | 2.4 | % |

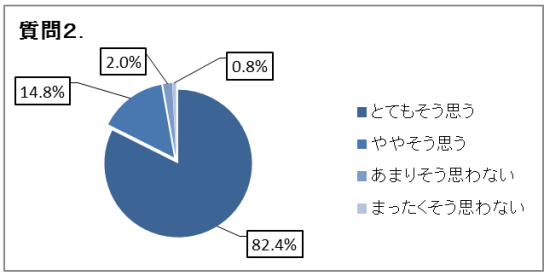
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

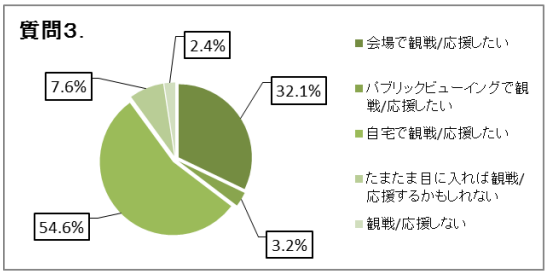
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 151 | 名 | 60.4 | % |
| ややそう思う | 82 | 名 | 32.8 | % |
| あまりそう思わない | 14 | 名 | 5.6 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 1.2 | % |

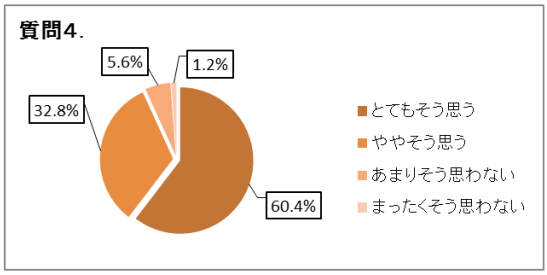
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

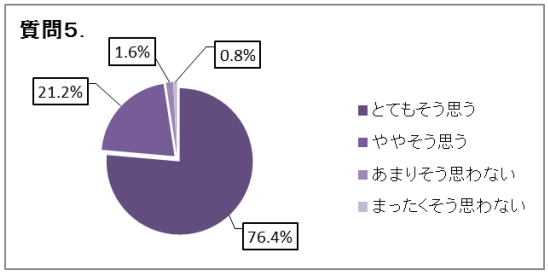
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 191 | 名 | 76.4 | % |
| ややそう思う | 53 | 名 | 21.2 | % |
| あまりそう思わない | 4 | 名 | 1.6 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |



## （3）岩手県下閉伊郡山田町立山田南小学校　事業報告

1　学校名：岩手県下閉伊郡山田町立山田南小学校

2　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 26 日（木）

3　対象：講演 全校児童 164 名
　　実技 6 年生 30 名

4　派遣オリンピアン：平瀬智行さん（サッカー　シドニーオリンピック日本代表）

5　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 1 月 26 日に岩手県下閉伊郡山田町立山田南小学校にて、シドニーオリンピック（2000 年）のサッカー日本代表であり、現在はベガルタ仙台でアンバサダーとしてご活躍されている平瀬智行さんをお招きし、全学年児童（164 名）を対象とした講演、ならびに 6 年生児童（30 名）を対象としたサッカーの実技体験を行っていただきました。

平瀬さんがプロのサッカー選手になろうと思ったのは、小学校 4 年生の時にテレビでマラドーナ選手の活躍を見た時だったと言います。それからすぐに平瀬さんは、日本代表になるという目標と、そこに至るまでのステップを事細かにノートに書き出すと、そのノートをいつも見返していたそうです。また高校生のころは、辛い練習の日々の中、辞めてしまいたいと毎日のように思っていたそうですが、3 年間やりきればＪリーガーになれると信じ、逃げずに頑張り続けるうちにノートに描いた自分の夢が現実になっていったと振り返りました。また、鹿島アントラーズに入団後、4 年間で 1 試合しか出ていない辛い日々が続く中でも、決して諦めず、時間外練習など人一倍努力を続けたそうです。転機が訪れたのは 1999 年、ほかの FW の選手の怪我などが重なり、はじめてスタメンとして試合に出ることになった際、ここがチャンスだと信じてプレーをし、結果的に 1 試合で 4 得点を挙げた時だったと言います。その試合をたまたま見に来ていた当時の日本代表のトルシエ監督の目に留まり、代表入りを果たした末にシドニーオリンピックへの道が開けたとお話しされました。

こうした経験を踏まえて平瀬さんは、夢や目標をしっかり持ち、それを目指す過程に苦しいことがあっても、正面から向き合って日々努力を続けることが大事だと児童にメッセージを伝えられました。

講演を聞いた児童からは、事後のアンケートで「努力すれば必ず夢は叶うという大切なことを学んだ」（2 年生）、「自分も努力を惜しまずに頑張りたい」（5 年生）など、夢や目標、努力の大切さを学んだと言う意見が多く挙げられました。また、「スポーツに興味がなかったけど、何か自分もスポーツをやってみようと思った」（2 年生）や、「障がい者も一緒にスポーツをして仲良くなる場が作れればいいと思った」（3 年生）など、スポーツやオリンピック・パラリンピックへの関心の高まりも見られました。

6　事業の様子

夢をもつ事や細かな目標設定をすること、夢や目標の実現に向けて努力を惜しまないことの
大切さについてお話をされた平瀬智行さん

実技では、6 年生児童を対象とし、ゲーム性のあるウォーミングアップやボール操作の基本などを指導され、最後には平瀬さんも交えながらミニゲームも行いました。
平瀬さんは実技の間、「やってみよう！」「チャレンジ！チャレンジ！」「惜しい！もう少し！！」など積極的に児童に声をかけており、挑戦することの大切さについて実技を通しても児童に伝えられました。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 90 | 名 | 59.2 | % |
| ややそう思う | 47 | 名 | 30.9 | % |
| あまりそう思わない | 13 | 名 | 8.6 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.3 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 92 | 名 | 60.5 | % |
| ややそう思う | 46 | 名 | 30.3 | % |
| あまりそう思わない | 13 | 名 | 8.6 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

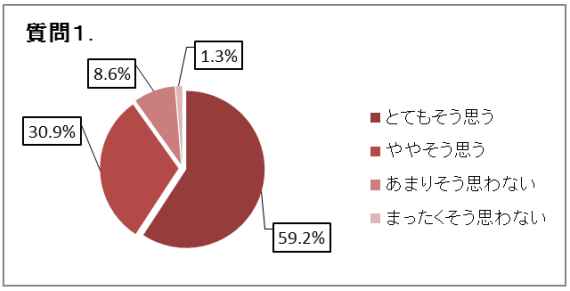
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 27 | 名 | 17.9 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 4 | 名 | 2.6 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 91 | 名 | 60.3 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 28 | 名 | 18.5 | % |
| おうえんしない | 1 | 名 | 0.7 | % |

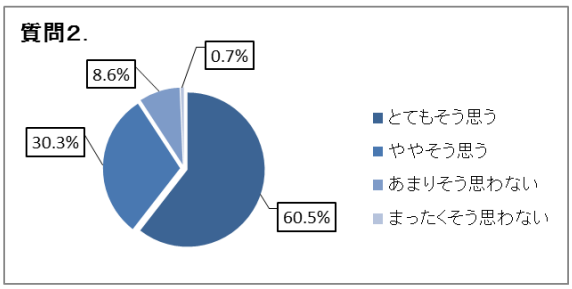
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

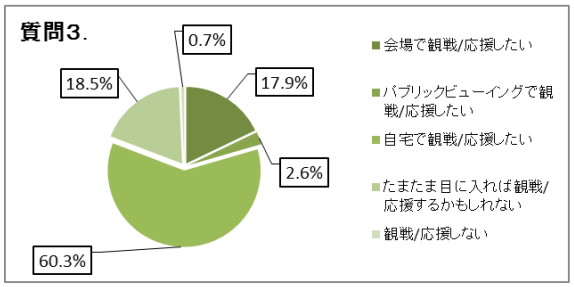
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 70 | 名 | 46.1 | % |
| ややそう思う | 54 | 名 | 35.5 | % |
| あまりそう思わない | 23 | 名 | 15.1 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 3.3 | % |

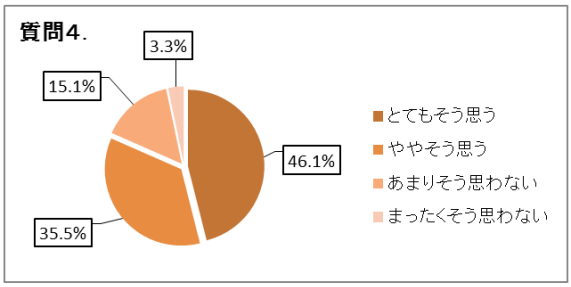
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

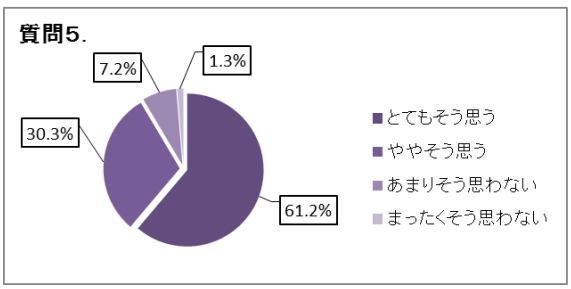
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 93 | 名 | 61.2 | % |
| ややそう思う | 46 | 名 | 30.3 | % |
| あまりそう思わない | 11 | 名 | 7.2 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.3 | % |



# 一流のサッカー教室

## 山田南小　平瀬さん（元日本代表）と交流

山田

シドニー五輪に出場した元日本代表、平瀬智行さん（ベガルタ仙台アンバサダー）のサッカー教室（早稲田大五輪・パラリンピック教育研究センター主催）は26日、山田町飯岡の山田南小（近藤尚樹校長、児童163人）で開かれた。

平瀬さんは全校児童の前で講話し、夢を持つ大切さや基本を大事にすることを説いた。児童は「スポーツと勉強の両立で大事なことは」「試合で緊張しない方法」など、熱心に質問していた。

6年生を対象にサッカー指導もあり、子どもたちはリフティングやミニゲームで体を動かし、元日本代表と触れ合った。6年生の川村優依さんと阿部滉士君は「基本を丁寧に教わった。またみんなでサッカーを楽しみたい」と喜んだ。

事業はスポーツ庁2020東京五輪・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の一環。松園中に続き県内で2回目の開催となった。

山田南小の児童と交流し、ハイタッチを交わす平瀬智行さん

岩手日報　2017（平成29）年1月27日付　朝刊

## （4）岩手県立盛岡南高等学校　事業報告

１　学校名：岩手県立盛岡南高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 2 日（木）

３　対象：体育科・普通科体育コース生徒　164 名

４　派遣オリンピアン：千田健太さん（フェンシング　ロンドンオリンピック団体 銀メダル）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 2 日に、岩手県立盛岡南高等学校に、ロンドンオリンピック（2012 年）フェンシング男子フルーレ団体 銀メダリストの千田健太さんをお招きし、ご講演ならびに実技体験を実施していただきました。

はじめに千田さんは、高校生が普段あまり触れることのないフェンシング競技について、フルーレ、エペ、サーブルの 3 種目があることやそれらのルール、具体的な攻防の展開の仕方、各種目の醍醐味について映像を交えて詳しくご説明くださいました。

千田さんは、中学校の時にフェンシングをはじめたものの、その時には自分が何に向いていて、どうなりたいかという具体的な目標があるわけではなかったと言います。しかし、負けず嫌いな性格のため、とにかく周りの選手よりも強くなりたい一心で練習に励み、たった 3 人しかいないフェンシング部に所属していた高校時代も、21 歳で代表入りを果たしてからも、練習時間外に個人で練習をするなど、人一倍努力をしていたとお話しされました。

その後、北京オリンピック（2008 年）での 2 回戦敗退の経験を経て、自身の課題であるメンタルコントロールのトレーニングをしたり、小柄な体格を活かし、相手との距離に応じた技の習得をはかるなど、ロンドンオリンピックに向けて順調に準備を進めていた中で、故郷の気仙沼市が東日本大震災の被害を受けたと言います。この時、千田さんは故郷が被災する中で自分がスポーツをしていて良いのか、との思いに駆られ、辛い日々を過ごしていたそうですが、家族やコーチの支えを受けて、再びロンドンオリンピックに向けて立ち上がることができたと振り返りました。こうした経緯を経て、ロンドンオリンピックの団体戦ではそれまでで最高のパフォーマンスを発揮して銀メダルを獲得した後、故郷の気仙沼で凱旋パレードを行った際には、集まった多くの人たちの笑顔を見て、震災があったものの、スポーツの力で元気を与えることができて本当に良かったと思ったと語られました。

最後に千田さんは、勝ち負けも、うまくいかない時もあるのがスポーツ、常に良い時があるわけではないが、その一つ一つの勝ち負けを次につなげて成長していくことこそが本当に大事なことなのだと、高校生に向けてメッセージを伝えられました。

6　事業の様子

フェンシングのルール等も交えてご自身の経験についてご講演された千田健太さん
講演では、競技用の剣やロンドンオリンピックの銀メダルも回覧させてくださいました

実技体験では、フェンシングの基本動作の練習から、テニスボールを使った攻防の練習、
また、練習用の防具や剣を使った試合形式の体験などを行いました。
千田さんご自身も生徒の代表と試合形式で実技を行うなど、生徒ははじめて
フェンシング競技やオリンピアンのパフォーマンスに触れ、大いに盛り上がりました。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 96 | 名 | 67.1 | % |
| ややそう思う | 45 | 名 | 31.5 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 106 | 名 | 74.1 | % |
| ややそう思う | 35 | 名 | 24.5 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

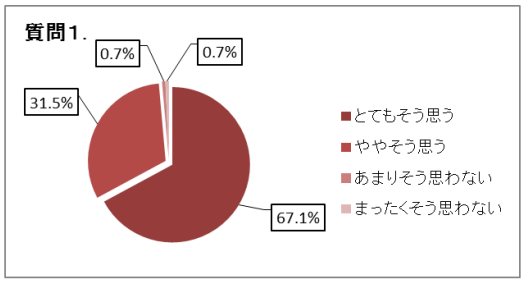
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 89 | 名 | 62.2 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 1 | 名 | 0.7 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 45 | 名 | 31.5 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 7 | 名 | 4.9 | % |
| 関心があまりない | 1 | 名 | 0.7 | % |

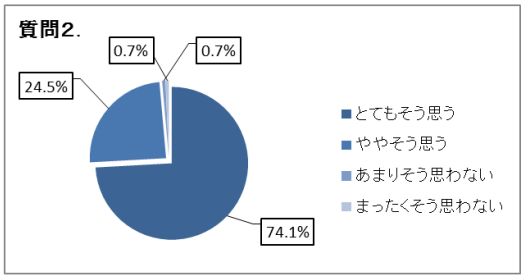
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

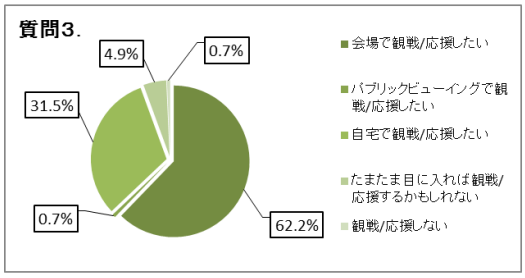
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 77 | 名 | 53.8 | % |
| ややそう思う | 62 | 名 | 43.4 | % |
| あまりそう思わない | 3 | 名 | 2.1 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |

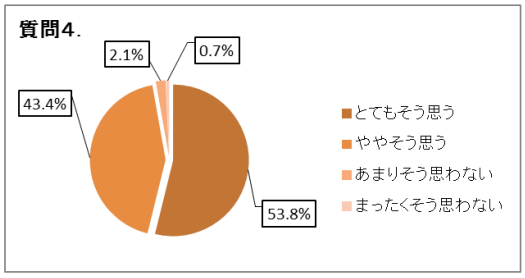
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

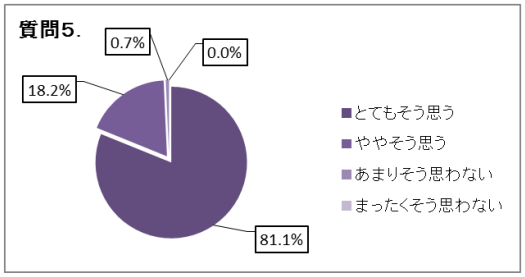
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 116 | 名 | 81.1 | % |
| ややそう思う | 26 | 名 | 18.2 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



# これぞ五輪「銀」の技

## 盛岡南高　千田さん（フェンシング）指導

**盛岡**　フェンシングの元日本代表・千田健太さん(31)は2日、盛岡市西見前の盛岡南高（岩沢健二校長、生徒722人）を訪れ、五輪出場の経験や競技生活について講演した。実技体験の指導も行い、生徒たちと交流した。

体育科と普通科体育コースの1、2年生163人が参加。千田さんは欧州の選手との試合で体格差に苦しんだ経験や、けがや挫折を乗り越え、ロンドン五輪フルーレ団体で銀メダルを獲得したことを紹介した。

生徒たちには「負けの経験が次につながる。目標に向かって、勝っても負けても学びながら生かしていくことが大切」と助言した。

生徒たちは実際に千田さんの指導を受け、フットワークなどを練習。千田さんとの対戦に挑んだ体育科2年の吉田慧冬（けいと）さんは「貴重な体験。講演を聞き、メンタルトレーニングも大事だと思った」と話した。

イベントは東京五輪に向けたスポーツ庁の事業。本県と広島県、熊本県の小中高校計40校に元日本代表選手らが訪問し、五輪を身近に感じてもらう。

千田健太さん（左）の指導でフェンシングを体験する盛岡南高の生徒

岩手日報　2017（平成29）年2月3日付　朝刊

## （5）岩手県二戸市立福岡小学校　事業報告

１　学校名：岩手県二戸市立福岡小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 21 日（火）

３　対象：講演 5・6 年生 100 名
　　実技 6 年生 50 名

４　派遣オリンピアン：山本隆弘さん（バレーボール　北京オリンピック日本代表）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 21 日に岩手県二戸市立福岡小学校にて、北京オリンピック（2008 年）バレーボール日本代表の山本隆弘さんをお招きし、5・6 年生児童約 100 名の生徒を対象に「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」をテーマにしたご講演と、6 年生児童約 50 名を対象に実技指導を行っていただきました。

山本さんは、幼少期に体が弱かったことから両親にスポーツをすることを勧められ、小学校から中学校にかけて野球、サッカー、陸上競技と様々なスポーツを経験したそうです。しかし、どれもうまくいかずに辞めてしまう中、友人から誘われて中学 3 年生から入ったバレーボール部では、人数も少なく決して強いチームではなかったものの、6 人で 1 つのボールを追いかける楽しさにのめり込んでいったと、バレーボールとの出会いを振り返ってお話しされました。

その後、バレーボールの強豪高校に進学し、3 年間連続全国大会に出場するなど、輝かしい競技生活を送る中で、オリンピック出場を目標に、バレーボール選手としての道を歩む決意を固めたと言います。しかし、大学時代には競技を辞めてトラック運転手として働いていた時期があるほか、復帰後日本代表に選ばれた後にも肩の故障で選手生命が危ぶまれたこともあったなど、数度の挫折を経験されたそうです。しかし、“志あるところに道ありき”というご自身の座右の銘の下、後悔するよりは自分の信じた道を貫こうとの思いから、日本人初となるプロ選手となり、必死の努力で北京オリンピック出場の夢を掴むに至ったと、挫折を乗り越え夢を叶えるまでの道のりをお話しされました。

こうしたお話を踏まえ、山本さんは児童に対して、毎日どんなに小さなものでもいいから目標を持ち、そして目標を達成したときの嬉しさをたくさん感じてほしいとの願いを話されました。また、自分がたてた夢や目標は、周りに宣言することで必ず親や先生が応援し、協力してくれること、そして決して諦めずに最後までやりきることできっと夢は叶うことなど、児童に対して、夢や目標、希望をもつことや、努力の大切さについて力強く伝えられました。

6　事業の様子

「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」をテーマにご講演された山本隆弘さん

８名の代表児童からの質問にもそれぞれ丁寧に、また力強いメッセージを添えて答えられました。

実技では、スパイクなどのデモンストレーションを見せていただいたほか、パス（アンダー・オーバー）の基本などの練習、練習したパスを使ったゲームなどを児童と一緒に行い、大変盛り上がりました。

講演後、５・６年生との集合写真

実技後、６年生との集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 38 | 名 | 79.2 | % |
| ややそう思う | 9 | 名 | 18.8 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 2.1 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 40 | 名 | 83.3 | % |
| ややそう思う | 8 | 名 | 16.7 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

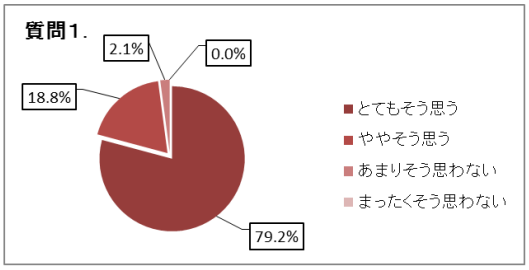
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 13 | 名 | 27.1 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 2 | 名 | 4.2 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 29 | 名 | 60.4 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 3 | 名 | 6.3 | % |
| おうえんしない | 1 | 名 | 2.1 | % |

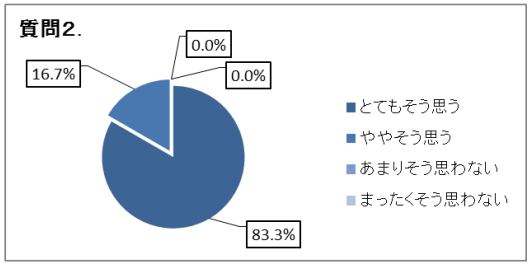
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

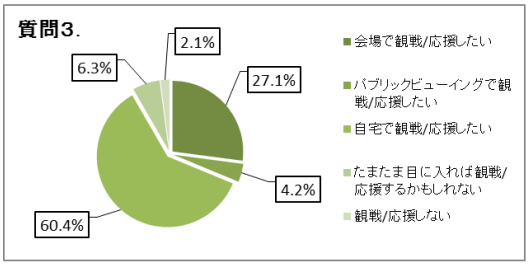
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 30 | 名 | 62.5 | % |
| ややそう思う | 17 | 名 | 35.4 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 2.1 | % |

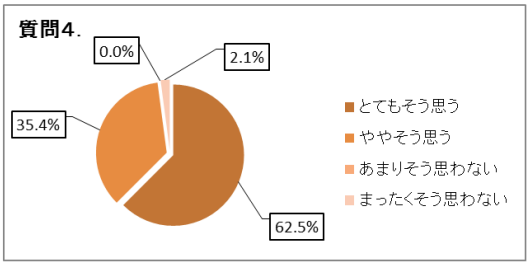
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

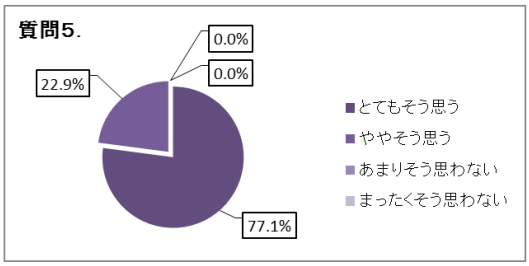
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 37 | 名 | 77.1 | % |
| ややそう思う | 11 | 名 | 22.9 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



# 学んだアタック精神

## 福岡小　山本さん（バレー男子元日本代表）指導

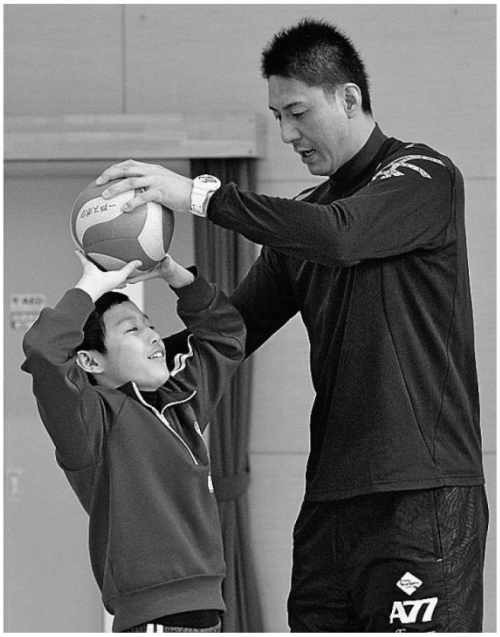
二戸

北京五輪に出場したバレーボール元日本男子代表の山本隆弘さん(38)が21日、二戸市の福岡小（太田郁夫校長、児童316人）で講演と実技指導を行った。早稲田大が主催する東京五輪関連の事業で、子どもたちは夢や目標を持つ大切さを学んだ。

講演は5・6年生99人が聴講。山本さんはバレーボールを始めたきっかけや挫折経験を紹介し、「小さくてもいいから、毎日目標を持ってほしい。そして諦めずに最後まで、一段一段大きな夢にたどり着いてほしい」とエールを送った。

6年生対象の実技指導では、オーバーパスなどを丁寧に指導。迫力のレシーブの披露には歓声が上がった。長畑瑛留（えいる）さん（6年）は「きれいなフォームで、まねしたいと思った。普段の生活でもバレーボールでも、目標を持って頑張りたい」と目を輝かせた。

事業はスポーツ庁2020東京五輪・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業の一環。2016年度から始まり、県内では同校のほか3校で行われた。



福岡小の児童にオーバーパスのポイントを指導する山本隆弘さん

岩手日報　2017（平成29）年2月23日付　朝刊

## ２．広島県 オリンピック・パラリンピック教育推進校 実施報告

### （1）2016 年度広島県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

| | |
|---|---|
| 高等学校<br>（１０校） | 広島県立広島皆実高等学校<br>広島県立福山葦陽高等学校<br>広島県立世羅高等学校<br>広島県立三次高等学校<br>広島県立五日市高等学校<br>広島県立高陽高等学校<br>広島県立神辺旭高等学校<br>広島県立湯来南高等学校<br>広島県立庄原実業高等学校<br>広島県立尾道商業高等学校 |

（計１０校）

## （２）広島県立三次高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立三次高等学校

２　実施日時：2016（平成 28）年 12 月 2 日（金）

３　対象：全校生徒 630 名

４　派遣オリンピアン：星奈津美さん
（競泳：200m バタフライ　ロンドン・リオデジャネイロオリンピック　銅メダル）

５　事業内容：講演

ロンドン（2012 年）・リオデジャネイロ（2016 年）オリンピックの競泳 200m バタフライ銅メダリストであり、現在はミズノスイムチームのアシスタントコーチをされている星奈津美さんは、この度、「水泳が私に教えてくれたもの」というテーマで全校生徒 630 名を対象に講演をされました。

星さんは、ご自身と水泳との関わりについて、１歳半から兄の影響で水泳をはじめたこと、はじめはオリンピックに出場するような素質はないと思っていたものの、誰よりも水泳が好きであり、また小学１年生時の作文には既に“オリンピックに出場する”という夢をつづっていたこと、200m バタフライという種目に出会い、その後の競技生活への希望をもつ事ができたことなどをお話しされました。

また、オリンピック２大会連続銅メダルを果すまでの過程においては、バセドウ病との闘いや、世界水泳で 0.01 秒差でメダルを逃した悔しさ、手術や練習拠点を移すといった大きな決断などがあったこと、その中で当たり前のように自分が競技をすることができていることや、支えてくれる家族、コーチ、周囲の方々への感謝の気持ちを強く持ったと言います。

このようなお話を踏まえ、最後には、悔しさを乗り越え、自分に負けない強い気持ちを持つことや、感謝の気持ちとともに謙虚な姿勢でひたむきに努力し、夢・目標を持ち続けることの大切さについて、全校生徒にメッセージを伝えられました。

講演を聞いた生徒からは、事後のアンケートにおいて、「星さんの講演を通して、スポーツの良さを改めて感じることができた」、「スポーツへの関心が高まった」、「大人になっても何かスポーツを続けて行こうと思った」などのほか、「オリンピックを身近に感じることができた」、「2020 年東京オリンピック・パラリンピックは、是非生で観戦したくなった」、「ボランティア等で関わりたいと思う」といった感想が挙げられるなど、スポーツやオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった様子が見られました。

また、「自分も夢や目標に向かって頑張ろうと思った」、「スポーツに限らず、今後の人生においても夢や目標を持ち、後悔のないように努力しようと思う」など、苦難や挫折を乗り越え、後悔のない競技生活を送られた星さんの姿に感銘を受けた感想も見られるなど、生徒にとってはスポーツのみならず、自身の今後の生活についても考える良い機会となったようでした。

6　事業の様子

自身の経験をもとに、夢や目標に向かって努力することの尊さを伝えた星さんの講演では、
生徒全員が真剣な眼差しで聞き入っていました。

質疑応答や代表生徒による謝辞では、星さんの講演を踏まえた自分なりの質問や考えを
星さんに伝えていました。

講演後には、全校生徒との集合写真撮影や、水泳部員との記念撮影を行いました。
星さんの講演を聞いた生徒の表情はとても輝いており、大変有意義な講演となりました。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 305 | 名 | 51.1 | % |
| ややそう思う | 241 | 名 | 40.4 | % |
| あまりそう思わない | 42 | 名 | 7.0 | % |
| まったくそう思わない | 9 | 名 | 1.5 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 316 | 名 | 52.8 | % |
| ややそう思う | 240 | 名 | 40.1 | % |
| あまりそう思わない | 35 | 名 | 5.9 | % |
| まったくそう思わない | 7 | 名 | 1.2 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

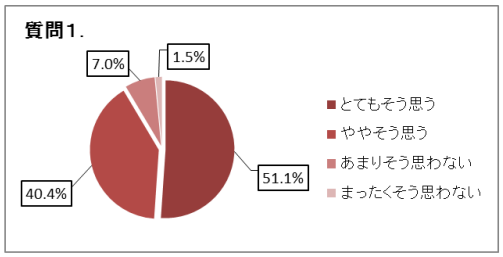
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 207 | 名 | 34.7 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 27 | 名 | 4.5 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 267 | 名 | 44.7 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 80 | 名 | 13.4 | % |
| 関心があまりない | 16 | 名 | 2.7 | % |

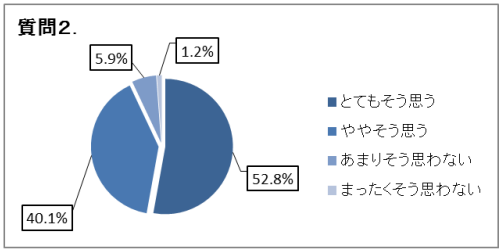
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

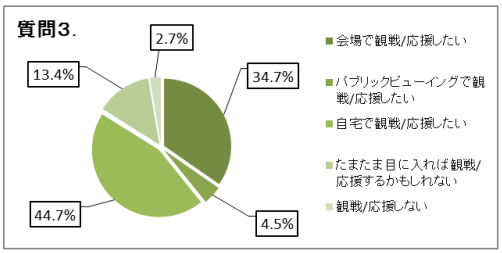
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 198 | 名 | 33.1 | % |
| ややそう思う | 290 | 名 | 48.5 | % |
| あまりそう思わない | 97 | 名 | 16.2 | % |
| まったくそう思わない | 13 | 名 | 2.2 | % |

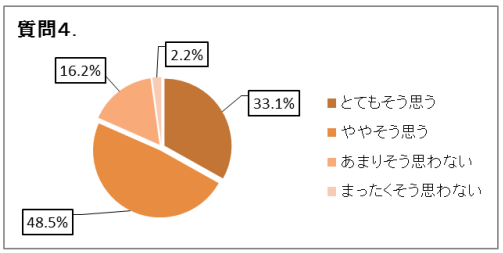
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

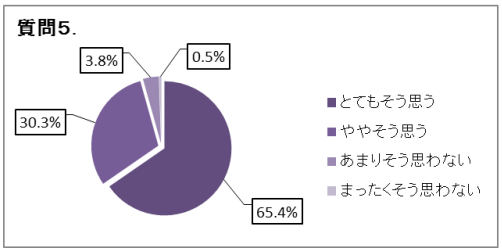
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 391 | 名 | 65.4 | % |
| ややそう思う | 181 | 名 | 30.3 | % |
| あまりそう思わない | 23 | 名 | 3.8 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.5 | % |



## （３）広島県立福山葦陽高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立福山葦陽高等学校

２　実施日時：2016（平成 28）年 12 月 7 日（水）

３　対象：全校生徒 960 名

４　派遣オリンピアン：青木愛さん
（シンクロナイズドスイミング　北京オリンピック　チーム出場）

５　事業内容：講演

北京オリンピック（2008 年）のシンクロナイズドスイミング　チーム 5 位に入賞され、現在は京都踏水会にてシンクロナイズドスイミングの指導を行うなど、様々なフィールドで活躍されている青木愛さんは、この度、「私とオリンピック」という内容で、4 名の代表生徒とのトークショー形式の講演をされました。

青木さんは、小学校 2 年生の時から京都踏水会でシンクロナイズドスイミングをはじめ、小学 4 年生で国内大会のジュニアオリンピックで優勝。京都文教高校 1 年生の時より指導の厳しさで有名な井村雅代さんが率いる『井村シンクロクラブ』に所属し、競技に打ち込みました。

また、シンクロナイズドスイミングを始めたきっかけについて、もともとは、普通のスイミングクラブで競泳の練習をしていましたが、「綺麗なお姉さんに憧れてシンクロを始めた」と、少女の憧れ的な動機ではあったものの、始めた時からオリンピック出場が目標だったと語られました。こうして自身で決めた目標を持ち続け、その目標に向かって人一倍努力するという姿勢や持ち前の芯の強さが 4 名の代表生徒との対談のなかで感じられました。

また、チームで出場した北京オリンピックは 5 位という結果に終わったことについて、「夢の舞台に立てたことは良かったが、メダルがとれずに悔しさしか残らなかった」と振り返ってお話しされました。それでもこれから、「2020 年に向けてシンクロナイズドスイミングの魅力を伝えていきたい」と今後の抱負を語っていただきました。その上で全校生徒には、「スポーツは社会生活のあり方を教えてくれる。苦しいことがあっても頑張ることが大切。周囲の人の支えが自分を支えてくれる」など、ご自身の経験からの力強いメッセージを伝えられました。

講演を聞いた生徒からは、事後のアンケートにおいて、「実際にオリンピック会場で試合をした人にしか分からない雰囲気やオリンピックの様子など、貴重な話が聞けて良かった」、「シンクロだけでなく、色々なスポーツやオリンピックに対して興味が湧いてきた」、「オリンピックを身近に感じるようになった」といった感想があげられるなど、なかなか知ることのないオリンピックや競技スポーツのことについて、とても興味を持ったようでした。また、青木さんのようなオリンピアンでさえ、自分たちと同じように練習や競技をやめたいと思う気持ちがありながらも、そうした気持ちを乗り越えてオリンピック出場を果たした青木さんの姿に感銘を受けた生徒も多く、「自分も何か一つ熱中できることを見つけようと思った」、「続けて頑張れるスポーツや、尊敬する人を見つけ、目標に向かって頑張りたい」といった意見も見られました。

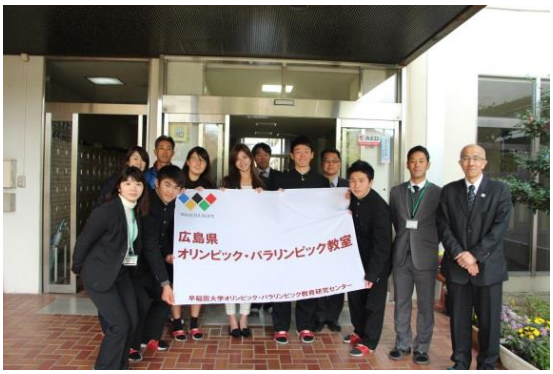
6　事業の様子

4 名の代表生徒の質問に丁寧にお答えする青木さんと真剣な眼差しで聞き入る全校生徒

テニス部・サッカー部・水泳部の代表生徒、ならびにフロアーの生徒から多くの質問がありました

保健体育科の栗田先生（水泳部顧問）の質問

心のこもった感謝の謝辞と花束贈呈




講演後の全校生徒との集合写真撮影、ならびに代表生徒および保健体育科の先生方との記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 380 | 名 | 41.6 | % |
| ややそう思う | 443 | 名 | 48.5 | % |
| あまりそう思わない | 70 | 名 | 7.7 | % |
| まったくそう思わない | 20 | 名 | 2.2 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 398 | 名 | 43.6 | % |
| ややそう思う | 437 | 名 | 47.9 | % |
| あまりそう思わない | 59 | 名 | 6.5 | % |
| まったくそう思わない | 19 | 名 | 2.1 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

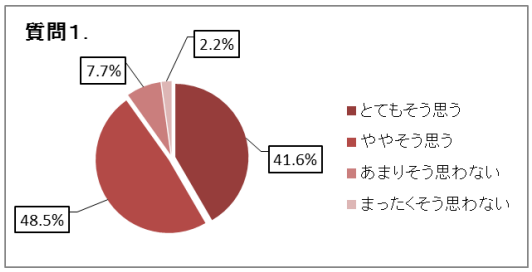
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 362 | 名 | 39.7 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 35 | 名 | 3.8 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 356 | 名 | 39.0 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 118 | 名 | 12.9 | % |
| 関心があまりない | 41 | 名 | 4.5 | % |

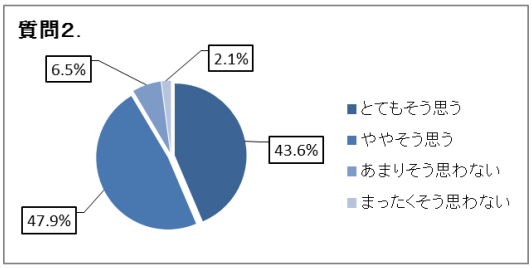
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

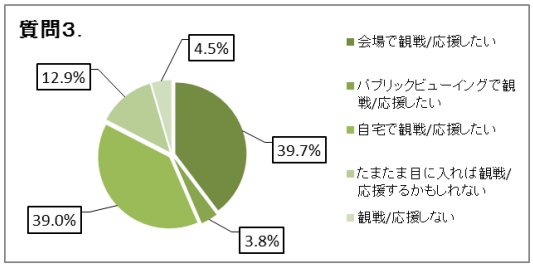
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 269 | 名 | 29.5 | % |
| ややそう思う | 450 | 名 | 49.3 | % |
| あまりそう思わない | 171 | 名 | 18.7 | % |
| まったくそう思わない | 23 | 名 | 2.5 | % |

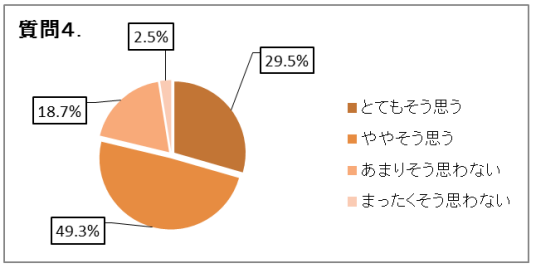
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

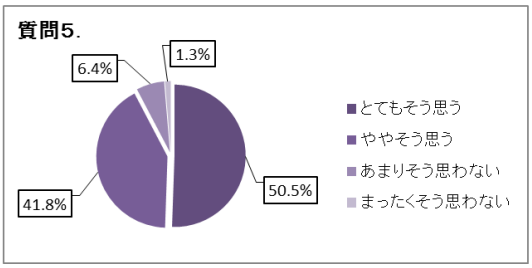
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 461 | 名 | 50.5 | % |
| ややそう思う | 381 | 名 | 41.8 | % |
| あまりそう思わない | 58 | 名 | 6.4 | % |
| まったくそう思わない | 12 | 名 | 1.3 | % |



# 目標持つ大切さ紹介

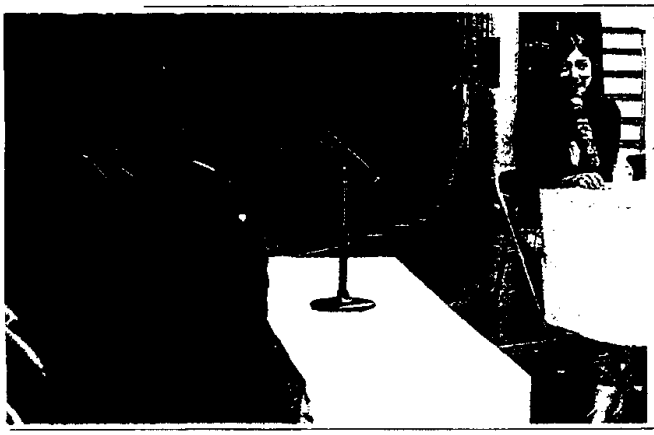
## シンクロで北京五輪出場　青木さん講演会

福山・葦陽高

シンクロナイズドスイミング日本代表として2008年の北京五輪に出場した青木愛さん(31)が7日、福山市久松台の葦陽高を訪れ、全校生徒約960人に大舞台でのエピソードを披露し、生徒たちの将来にエールを送った。

高校生にスポーツの価値を学んでもらい、東京五輪の機運を高める目的で、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター主導で取り組む事業の一環。講演会は生徒代表4人の質問に青木さんが答える形で行われた。

「シンクロを始めた小学2年から五輪出場が目標だった」と言う青木さんは、チームで出場した北京五輪で5位に終わったことについて、「夢の舞台に立てたことは良かったが、メダルが取れずに悔しさしか残らなかった」と振り返った。それでも、その思いをバネに現在スポーツコメンテーターなどとして活躍しており、「20年の東京五輪に向けてシンクロの魅力を伝えていきたい」と目標を語った。



北京五輪のエピソードなど生徒の質問に答える青木さん（右）

「高校時代にしておくべきことは」という生徒の質問には、「外国人選手とのコミュニケーションでも英語が必要だった。高校時代から幅広く勉強しておくことが大事」と答えた。

生徒代表として質問した3年熊田尚登さん(17)は「競技を始めたときから五輪出場を目指していたことなどを聞き、自分も高い目標を持つことが大切だと思った」と話した。

（南原久人）

山陽新聞　平成28(2016)年12月8日付　朝刊

## （4）広島県立湯来南高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立湯来南高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 12 日（木）

３　対象：全校生徒 88 名

４　派遣オリンピアン：岩崎恭子さん
（競泳：200m 平泳ぎ　バルセロナオリンピック 金メダル）

５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 1 月 12 日（木）に広島県立湯来南高等学校にて、バルセロナオリンピック（1992 年）の競泳 200m 平泳ぎ金メダリストであり、競泳史上最年少金メダリスト（当時 14 歳）でもある岩崎恭子さんが全校生徒 88 名を対象に、「幸せはいつも自分でつかむ」というテーマでご講演されました。

岩崎さんは、はじめは水泳をする気はなかったものの、お姉さんに憧れて 5 歳でスイミングスクールに入ったことや、全国大会に出場する姉の姿を見て、「自分にもできるのではないか」と思うようになり、オリンピック出場を目標に掲げて次第に競技力を伸ばしていったことなど、ご自身と水泳との関わりにおいては、姉の存在は欠かすことはできないとお話しされました。

また、競泳史上最年少の 14 歳での金メダル獲得を果たしたバルセロナオリンピックでは、必ず強くなれると信じて代表合宿での厳しい練習に必死についていったことが自信につながり、当時の世界記録保持者とのレースでも緊張せずに自分らしい泳ぎができたと言います。その後、周囲から注目を浴びて生活も大きく変わる中で、一度は目標を見失い、練習にも身が入らない日々が続いたそうですが、1994 年のアジア大会の出場を逃したことが契機となり、もう一度自分を見つめ直して練習に励んだことで、アトランタオリンピック出場を果たすことができたと、ご自身の経験を振り返りました。

こうした経験を踏まえ、講演を聞く高校生には、自分で限界を決めず目標を持って努力を続けることの重要さや、自分から行動を起こすことの大切さについて伝えられました。また、岩崎さんご自身も今後は、“する”側ではなく“伝える”側として、1 人でも多くの人にオリンピック・パラリンピックやスポーツに興味を持ってもらうための活動をしていきたいと、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた目標を語ってくださいました。

事後のアンケートでは、生徒から「目標を持つ事の大切さに気付いた」、「自分も目標を立てて頑張ろうと思った」などの感想が挙げられたほか、「自分が将来目標にしている職業でパラリンピアンのサポートをしたい」といったコメントも見られました。また、輝かしい経験だけでなく苦しい経験もされ、それらを乗り越えてきた岩崎さんのお話しから、「勇気が出た」、「自分に自信が持てるようになった」といった感想も見られるなど、生徒には岩崎さんの前向きなメッセージが深く伝わったようでした。

6　事業の様子

「幸せはいつも自分でつかむ」をテーマにご講演された岩崎恭子さん。
講演には、バルセロナオリンピックの金メダルもお持ち下さり、生徒は本物の金メダルを手にしながら
岩崎さんのお話しに聞き入りました。

また、生徒からの多くの質問にも熱心に回答される中で、ご自身の今後の目標も語ってくださいました。

講演後には全校生徒との記念撮影や、学校のマスコットキャラクターの「ユキナンチョウ助」との
記念撮影を行いました。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 26 | 名 | 35.6 | % |
| ややそう思う | 36 | 名 | 49.3 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 9.6 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 5.5 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 31 | 名 | 42.5 | % |
| ややそう思う | 31 | 名 | 42.5 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 11.0 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 4.1 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

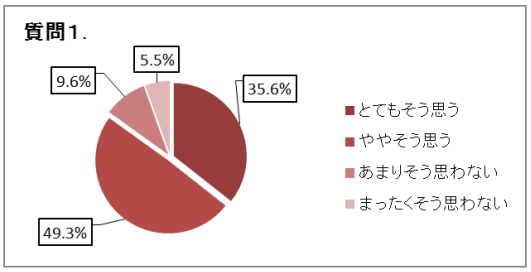
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 19 | 名 | 26.0 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 4 | 名 | 5.5 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 26 | 名 | 35.6 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 15 | 名 | 20.5 | % |
| 関心があまりない | 9 | 名 | 12.3 | % |

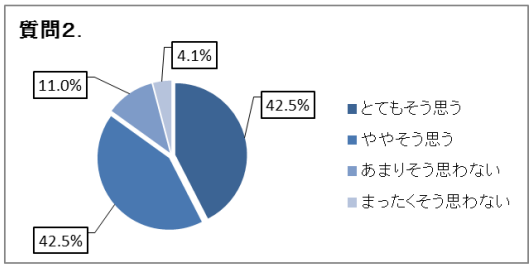
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

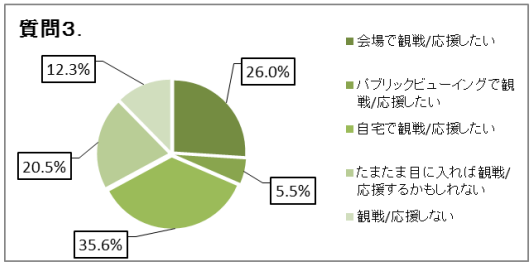
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 15 | 名 | 20.5 | % |
| ややそう思う | 33 | 名 | 45.2 | % |
| あまりそう思わない | 18 | 名 | 24.7 | % |
| まったくそう思わない | 7 | 名 | 9.6 | % |

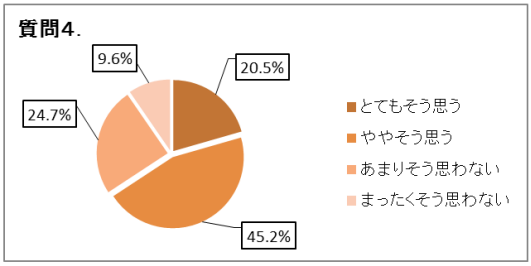
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

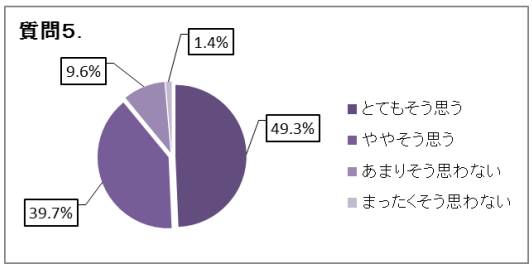
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 36 | 名 | 49.3 | % |
| ややそう思う | 29 | 名 | 39.7 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 9.6 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 1.4 | % |



# 夢と努力 岩崎さん語る

## 92年五輪競泳金メダリスト 湯来南高で講演

1992年のバルセロナ五輪競泳金メダリストの岩崎恭子さん(38)が12日、広島市佐伯区の湯来南高で講演した。夢に向かって努力を続ける大切さを生徒約80人に説いた。

五輪競泳史上、最年少の14歳で金メダリストになった岩崎さん。五輪後は家の電話が鳴り続けるなど生活が一変し、「大好きな水泳に気持ちが入らなくなった」と打ち明けた。

金メダルを手に努力の大切さを説く岩崎さん

転機は94年の広島アジア大会出場を逃したこと。「次の五輪には出たいという気持ちが芽生え、『やらされている』と思っていた練習も前向きに取り組めた」と、目標を持って挑戦するよう訴えた。

生徒は岩崎さんが渡したメダルを触れながら、約1時間の話に聞き入った。2年広岡和樹さん(17)は「世界の頂点に立つ大変さ、その後の苦労が聞くことができた。笑顔で語る言葉に重みを感じた」と話した。

中国新聞　平成 29（2017）年 1 月 13 日付　朝刊

## （5）広島県立五日市高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立五日市高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 20 日（金）

３　対象：1 年生女子 25 名、1・2 年生男女バレーボール部員 37 名

４　派遣オリンピアン：山本隆弘さん（バレーボール　北京オリンピック日本代表）

５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 1 月 20 日に広島県立五日市高等学校にて、北京オリンピック（2008 年）のバレーボール日本代表であり、現在は V リーグの排球大使（アンバサダー）として様々な活動をされている山本隆弘さんをお招きし、約 60 名の生徒を対象に「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」というテーマでご講演いただきました。

はじめに山本さんは、中学生の時に友だちに誘われてバレーボールをはじめ、部員が 2 名しかいない時期もあったものの、「楽しい」という思いに支えられ、毎日工夫して練習をしていたと、バレーボールを始めたころのエピソードをお話しされました。その後、バレーボールの強豪高校へ進学をしてさらに練習に励む中で、出身の鳥取県からバレーボールでオリンピックに出た人はいないと聞いたことから、バレーボール選手としてオリンピックを目指すことを決意し、それまで以上にどうしたらオリンピックに出ることができるのかを常に考え、短期目標・中長期目標を細かく決めて練習に励んだと言います。

また、大学時代には半年間バレーボールを辞めてしまったことや、パナソニック入社後には肩の怪我で選手生命が危ぶまれたこと、また日本人初のプロ選手になってからも、結果を残せず一度は代表から外されたことなど、数度の挫折を経験されたものの、「『志』あるところに道ありき」という思いを胸に、決して諦めずに夢を追い求め続けた結果、北京オリンピックに日本代表として出場するに至ったと、ご自身が歩んできた決して平坦ではない道のりを語られました。

こうした経験から、講演を聞く高校生に向けては、自分で目標をたて、どうありたいのかをよく考えながら大事な場面で自分にとって良い選択をしていくことの大切さを伝えられたほか、来る 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは、選手として出場を目指す、あるいはボランティアなどそれぞれの形で携わり、日本中でオリンピック・パラリンピックを盛り上げていってほしいとお話しされました。

講演を聞いた高校生からは事後のアンケートにおいて早速、「2020 年東京オリンピックで行われることになった空手で選手として出場したい」という目標を掲げる生徒が見られたほか、「部活動を続けようか悩んでいたけど、自分に打ち勝って頑張ろうと思った」など、夢や目標に向かって、壁にぶつかっても乗り越えていきたいという旨の感想が多く挙げられました。

6　事業の様子

「夢・目標に向かって～挑戦することの大切さ～」をテーマにご講演された山本隆弘さん

バレーボール部員からの質問にも身振りを交えながら具体的にお答えされていました

山本さんの座右の銘である「『志』あるところに道ありき」というメッセージから、
多くの生徒が夢や目標を持つことの大切さを学んだようでした。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 51 | 名 | 89.5 | % |
| ややそう思う | 6 | 名 | 10.5 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 52 | 名 | 89.7 | % |
| ややそう思う | 6 | 名 | 10.3 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

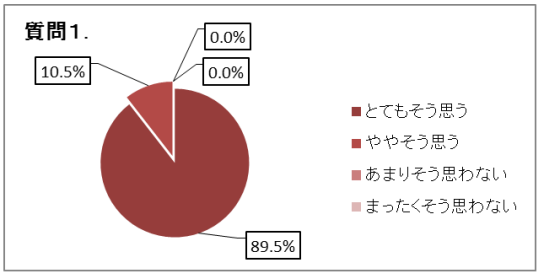
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 42 | 名 | 72.4 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 1 | 名 | 1.7 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 13 | 名 | 22.4 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 2 | 名 | 3.4 | % |
| 関心があまりない | 0 | 名 | 0.0 | % |

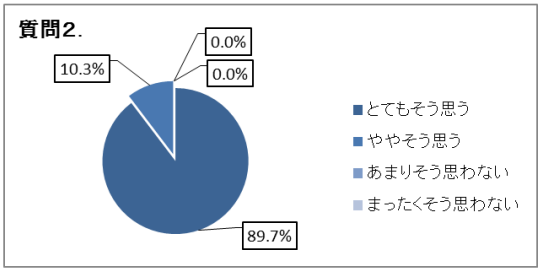
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

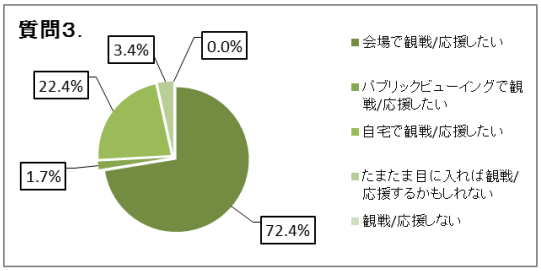
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 41 | 名 | 70.7 | % |
| ややそう思う | 17 | 名 | 29.3 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

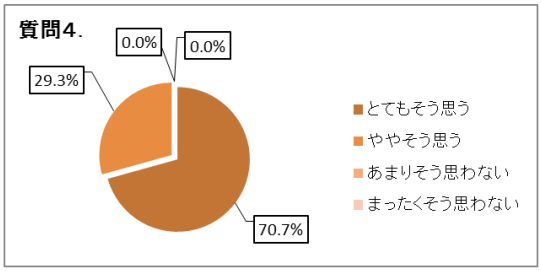
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

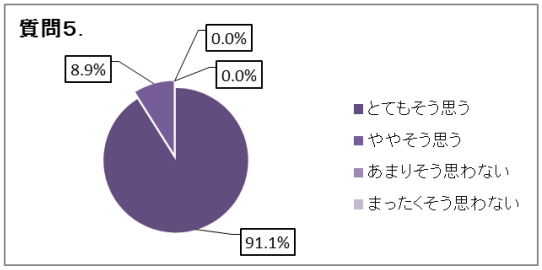
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 51 | 名 | 91.1 | % |
| ややそう思う | 5 | 名 | 8.9 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## 五輪出場 バレー選手

# 「夢を信じ進んで」

### 五日市高で山本さん講演

生徒を前に講演する山本さん

バレーボールの元日本代表で2008年の北京五輪に出場した山本隆弘さん(38)が20日、広島市佐伯区の五日市高で講演した。バレーボール部員たち約60人に、夢に向かって挑戦する大切さを説いた。

山本さんは、04年のアテネ五輪への出場を逃した悔しさなどから練習に打ち込んだ4年間を振り返り、「志あるところに道は開ける。自分の夢や目標を信じて進んでほしい」とアドバイスした。

バレーボール部1年の百富敏恵さん(16)は「部活はつらいが、山本選手のように諦めず頑張りたい」と話していた。

20年の東京五輪に向けてスポーツ庁が進めるムーブメント全国展開事業の一環。県内では水泳やスキーなどを含む元五輪代表選手が10高校で講演する。

(佐藤憲佑)

中国新聞　平成 29（2017）年 1 月 21 日付　朝刊

## （6）広島県立神辺旭高等学校　事業報告

1　学校名：広島県立神辺旭高等学校

2　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 24 日（火）

3　対象：1・2 年生 480 名

4　派遣オリンピアン：齋藤信治さん（バレーボール　北京オリンピック日本代表）

5　事業内容：講演

2017（平成 29）年 1 月 24 日（火）に、広島県立神辺旭高等学校にて 1・2 年生 480 名を対象とし、バレーボール 北京オリンピック（2008 年）日本代表の齋藤信治さんに「オリンピックへの道」をテーマにご講演いただきました。

齋藤さんは中学校 3 年生のときにテレビで W 杯を観たことがきっかけで高校生からバレーボールをはじめたものの、高校では県大会に出場することすらできず、自身の競技人生も高校までで終わりにしようと考えていたそうです。しかし、高校最後の試合をたまたま見に来ていた東レの監督からチームに誘われたことや、さらにその後、基礎づくりのために進学した日本体育大学時代、ユニバーシアードの補欠として合宿に行った際に、隣で練習していた日本代表チームの監督に声をかけられ、急に日本代表のメンバー入りをすることになったことなど、長い競技人生の中にいくつかの大きな転機があったことについてお話しされました。

続けて齋藤さんは 14 年間に渡る日本代表時代について、決して良い思い出だけではなく、ほとんどは苦しさや悔しさとの戦いであり、一度はバレーボールを辞めようと実家に逃げ帰ったこともあったと振り返りました。しかし、多くの人に支えられて自分は競技をできていたことに気づき、毎日毎日うまくなりたい一心で必死に練習をしてきたことを思い返し､諦めずに最後の瞬間まで頑張ろうと心に誓い、改めて努力を続けられたと言います。そうした苦しい日々を乗り越えて、北京オリンピックの出場を決めた時は本当に嬉しかったとオリンピック出場に至るまでの様々な経験や思いをお話しされました。

また、様々な挫折を味わいながらも壁を乗り越えて出場を果たしたオリンピックの舞台は夢のように素晴らしい場所だったと言い、その経験から齋藤さんは、2020 年にはもう一度、マネージャーでも、ボランティアでもどんな形であってもオリンピックの場所に立ちたいとご自身の今後の夢をお話しされると同時に、講演を聞く高校生に向けても、いろんな形で 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに興味を持ち、それぞれの形で関わりを持つことで、オリンピック・パラリンピックの雰囲気を肌で感じてほしいと語られました。そして最後は、周囲への感謝の気持ちを忘れずに、やり遂げれば必ず目標は実現すると信じ、諦めずに努力することが大切であることを生徒へのメッセージとして伝えられました。

6　事業の様子

「オリンピックへの道」をテーマにご講演された齋藤信治さん

長きに渡る競技生活を振り返りながら、努力することの大切さを生徒に伝えられました

事業実施後のアンケートでは、「自分も周囲への感謝を忘れずに何事も頑張ろうと思った」、「自分を信じ、周りを信じ、諦めずに頑張ることが大切だと感じた」、「オリンピックに出る人は才能のある人ばかりだと思っていたけど、本当は努力を続ける人や自分の信念を貫ける人がオリンピックに出ることができるのだと感じた」など、高校時代までは全く無名の選手だったという齋藤さんの話を聞き、驚くと同時に、諦めずに努力することの尊さを学んだといった旨の意見が多く挙げられました。

また、「オリンピック・パラリンピックにはボランティアやスタッフとしての関わり方もあることを知った」、「2020 年の東京オリンピック・パラリンピックではボランティアをしてみたい」、「いま学んでいる語学を活かしてボランティアとして携わりたい」、「広島は東京からは遠いからといって何もしないのではなく、自ら進んで積極的に関わるようにしたい」など、齋藤さんがお話しされたオリンピック・パラリンピックとの関わりについて、自身の将来に照らして具体的に目標を思い描く生徒も多く見られました。

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 240 | 名 | 56.7 | % |
| ややそう思う | 174 | 名 | 41.1 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 239 | 名 | 56.5 | % |
| ややそう思う | 173 | 名 | 40.9 | % |
| あまりそう思わない | 9 | 名 | 2.1 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.5 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

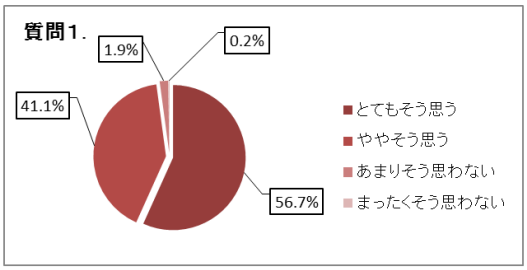
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 208 | 名 | 49.3 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 15 | 名 | 3.6 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 166 | 名 | 39.3 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 28 | 名 | 6.6 | % |
| 関心があまりない | 5 | 名 | 1.2 | % |

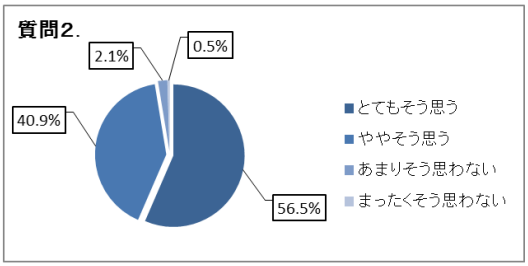
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

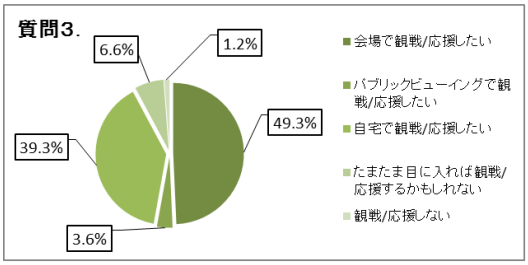
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 139 | 名 | 32.9 | % |
| ややそう思う | 228 | 名 | 54.0 | % |
| あまりそう思わない | 52 | 名 | 12.3 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.7 | % |

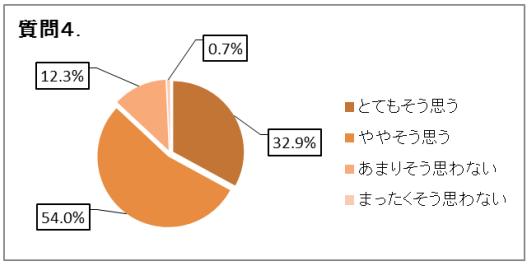
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

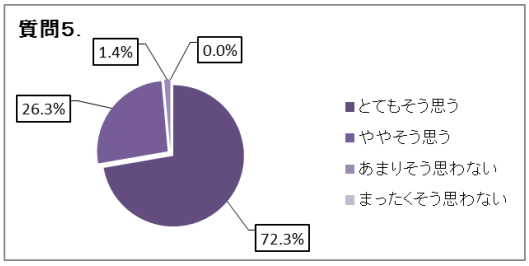
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 305 | 名 | 72.3 | % |
| ややそう思う | 111 | 名 | 26.3 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 1.4 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## （7）広島県立世羅高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立世羅高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 24 日（火）

３　対象：全校生徒 354 名

４　派遣オリンピアン：大山加奈さん（バレーボール：アテネオリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 1 月 24 日（火）に広島県立世羅高等学校にて、バレーボールでアテネオリンピック（2004 年）に出場された大山加奈さんが、全校生徒 354 名を対象に、「スポーツから学んだこと」というテーマでご講演されました。

187cm という恵まれた体格の大山さんですが、幼少期は喘息を患っていたため、ずっと家にこもって本を読んだり絵を描いたりする日々を送っていたそうです。しかし、バレーボールと出会ってから次第に喘息も治り、一緒に遊ぶ仲間という大きな存在もでき、バレーボールが心身ともに強くしてくれたとお話されました。小学校・中学校・高等学校のいずれにおいても全国大会で優勝経験があるという輝かしい経歴をお持ちの一方で、アテネオリンピック出場後は腰の怪我に苦しめられ、練習はおろか日常生活にも支障をきたす状態が長く続き、多くの挫折も経験したそうです。しかし、苦しいときにチームの仲間が声をかけ続けてくれたおかげで、困難にも立ち向かい怪我を乗り越え、再びコートに立つことができました。仲間の存在は非常に大きく、高校生のみなさんも仲間を思いやれるように、そして仲間のために頑張れる人になってくださいとメッセージをいただきました。

実技では、女子バレー部員 14 名とともにサーブやレシーブを披露していただきました。また、強いチームは特別な練習をしているのではなく、誰にでもできる練習を、手を抜かず丁寧にやっているのだというアドバイスもしていただきました。

事後アンケートでは、「スポーツは勝つことが全てではなく、努力することやチームワークなど様々なことも学ばせてくれるものだと思った」「自分も周りから応援されるような人になりたい」という感想が多く見られ、部活動だけでなく自身の考え方や生活面なども改善しようとする生徒が多くみられました。また、「自分も怪我の経験があるので大山さんの辛さがよく分かるし、長い時間がかかっても怪我を乗り越えた努力の過程は本当に尊敬する。」といったコメントも多くみられ、困難に直面したときも直向きに努力し続けた大山さんの姿勢は、多くの生徒の心に残ったようでした。

6　事業の様子

講演の様子（全ての生徒が熱心に講演を聴いていました。）

質疑応答の様子

実技の様子

花束贈呈

謝辞

集合写真

女子バレー部員との記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 183 | 名 | 55.3 | % |
| ややそう思う | 140 | 名 | 42.3 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 2.1 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.3 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 199 | 名 | 60.1 | % |
| ややそう思う | 130 | 名 | 39.3 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 0.3 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.3 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

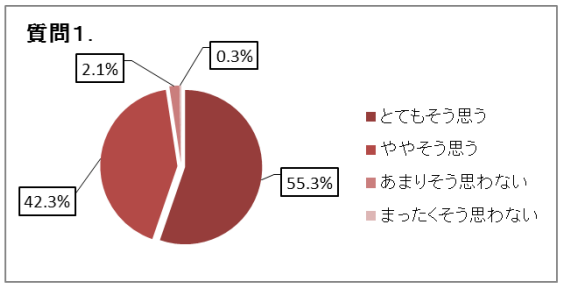
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 134 | 名 | 40.6 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 10 | 名 | 3.0 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 146 | 名 | 44.2 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 36 | 名 | 10.9 | % |
| 関心があまりない | 4 | 名 | 1.2 | % |

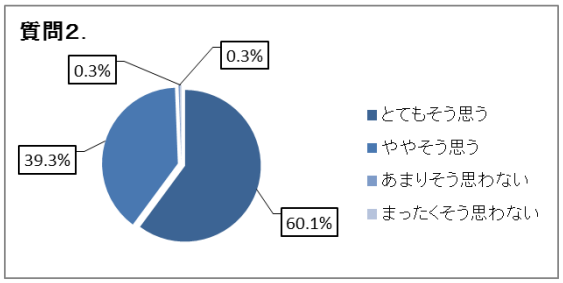
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

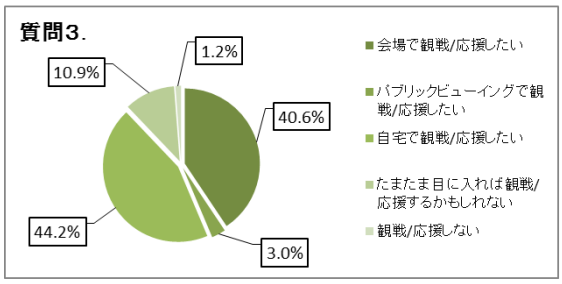
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 98 | 名 | 29.7 | % |
| ややそう思う | 190 | 名 | 57.6 | % |
| あまりそう思わない | 38 | 名 | 11.5 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 1.2 | % |

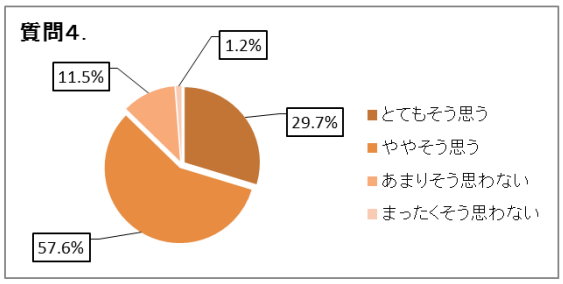
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

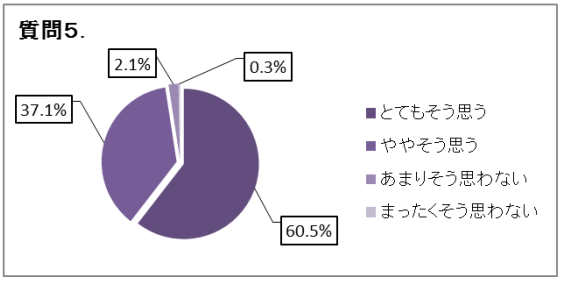
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 199 | 名 | 60.5 | % |
| ややそう思う | 122 | 名 | 37.1 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 2.1 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.3 | % |



## （8）広島県立尾道商業高等学校　事業報告

1　学校名：広島県立尾道商業高等学校

2　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 25 日（水）

3　対象：全校生徒 590 名

4　派遣オリンピアン：大山加奈さん（バレーボール：アテネオリンピック出場）

5　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 1 月 25 日（水）に広島県立尾道商業高等学校にて、バレーボールでアテネオリンピック（2004 年）に出場された大山加奈さんが、全校生徒 590 名を対象に、「スポーツから学んだこと」というテーマでご講演されました。

187cm という恵まれた体格の大山さんですが、幼少期は喘息を患っていたため、ずっと家にこもって本を読んだり絵を描いたりする日々を送っていたそうです。しかし、バレーボールと出会ってから次第に喘息も治り、一緒に遊ぶ仲間という大きな存在もでき、バレーボールが心身ともに強くしてくれたとお話されました。小学校・中学校・高等学校のいずれにおいても全国大会で優勝経験があるという輝かしい経歴をお持ちの一方で、アテネオリンピック出場後は腰の怪我に苦しめられ、練習はおろか日常生活にも支障をきたす状態が長く続き、多くの挫折も経験したそうです。しかし、苦しいときにチームの仲間が声をかけ続けてくれたおかげで、困難にも立ち向かい怪我を乗り越え、再びコートに立つことができました。仲間の存在は非常に大きく、高校生のみなさんも仲間を思いやれるように、そして仲間のために頑張れる人になってくださいとメッセージをいただきました。

実技では、女子バレー部員 8 名と、飛び入り参加の男子野球部員 5 名を相手に、サーブやレシーブを披露していただきました。大山さんの力強いサーブは、男子生徒でもたじろいでしまうほどで、大山さんが強烈なサーブを打つたびに会場は大いに沸きました。

事後アンケートでは、「自分も、自身の夢にふさわしい人間になり、仲間を大切にしたい」「目標は誰でも持てるが、それに向けて練習し続けることが大切だと思った」という感想が見られたほか、「栄光の経験しかない方と思っていたが、大変な困難を乗り越えて笑顔でいる大山さんは、とても強いと思った」「自分も今怪我をしているが、今日の講演を聞いて勇気が出た」といったコメントもあり、大山さんの講演を自身の成長の糧として受け取った感想が多くみられました。

6　事業の様子

講演の様子

質疑応答の様子

実技の様子

実技の様子（オリンピック出場選手の力に会場は圧倒されました。）

謝辞

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 338 | 名 | 64.6 | % |
| ややそう思う | 167 | 名 | 31.9 | % |
| あまりそう思わない | 14 | 名 | 2.7 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 0.8 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 330 | 名 | 63.2 | % |
| ややそう思う | 174 | 名 | 33.3 | % |
| あまりそう思わない | 13 | 名 | 2.5 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 1.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

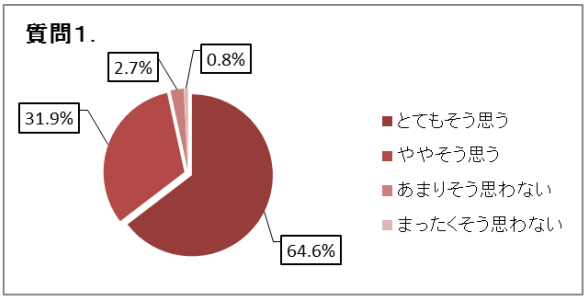
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 193 | 名 | 37.3 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 14 | 名 | 2.7 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 263 | 名 | 50.8 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 41 | 名 | 7.9 | % |
| 関心があまりない | 7 | 名 | 1.4 | % |

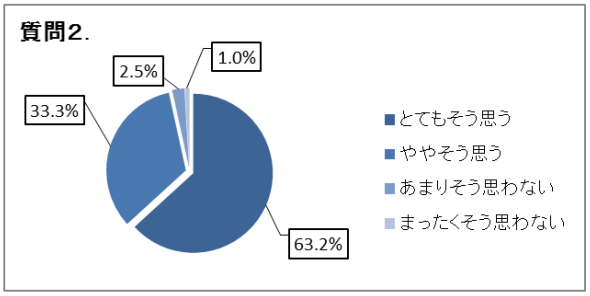
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

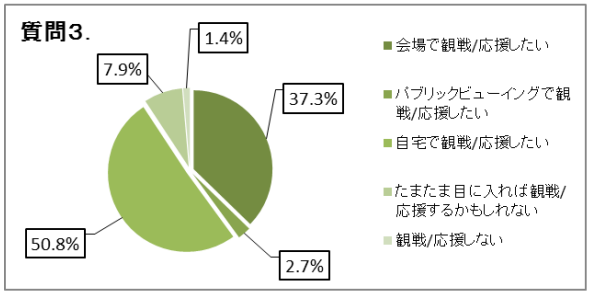
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 187 | 名 | 35.8 | % |
| ややそう思う | 262 | 名 | 50.1 | % |
| あまりそう思わない | 63 | 名 | 12.0 | % |
| まったくそう思わない | 11 | 名 | 2.1 | % |

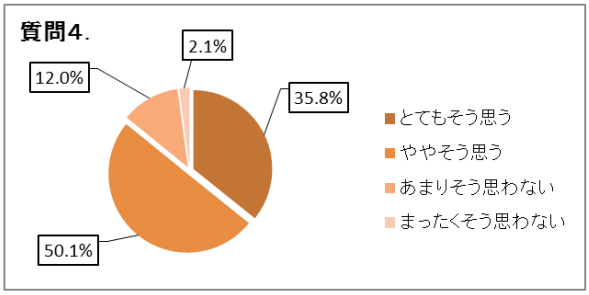
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

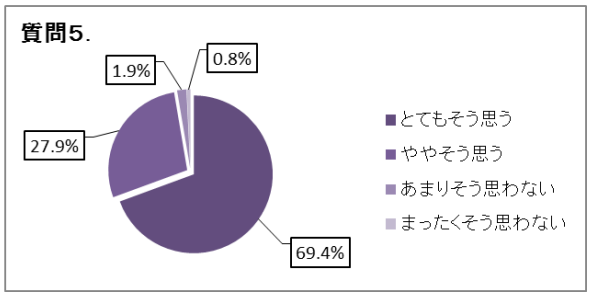
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 363 | 名 | 69.4 | % |
| ややそう思う | 146 | 名 | 27.9 | % |
| あまりそう思わない | 10 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 0.8 | % |



## （9）広島県立広島皆実高等学校　事業報告

１　学校名：広島県立広島皆実高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 26 日（木）

３　対象：体育科生徒 117 名

４　派遣オリンピアン：市橋有里さん（陸上競技　女子マラソン：シドニーオリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 1 月 26 日（木）に広島県立広島皆実高等学校にて、陸上競技　女子マラソンでシドニーオリンピック（2000 年）に出場された市橋有里さんが、体育科生徒 117 名を対象に、ご自身の選手時代のエピソードなどについてご講演されました。

市橋さんは、中学校に入り陸上競技と出会い、その面白さに惹かれていきました。また、始めて出場した試合は長距離走ではなく、意外にも 800mだったそうです。その後、徐々に距離を伸ばしていき、最終的に長距離選手として練習に打ち込むようになりました。練習しても、なかなか思うような成績が出せなかったそうですが、地元の徳島駅伝でメダリストの選手と交流したことによって、より一層、世界で活躍できる選手になりたいという思いを強く持ったそうです。小さな私でも努力すればきっとオリンピックに出ることができると信じ続け、辛いことがあっても練習を欠かさなかったと話していただきました。広島皆実高校は、非常にスポーツが盛んな学校であり、ＯＢにも多くのスポーツ選手がおり、スポーツ選手が来校する機会もあるそうで、身近にすごい選手がいて刺激をもらいながら練習ができることはとても恵まれているので、この環境を活かしてみなさんもがんばってほしいとメッセージをいただきました。

実技では、まず動的ストレッチを生徒とともに実施しました。ストレッチは全てのスポーツに適用でき、怪我の予防のために欠かせないものであるため、生徒たちは真剣に取り組んでいました。また、長距離走は苦手と感じている子が多いため、ゲーム的な要素を取り入れて手つなぎ鬼をしながら走るという活動をしました。

事後アンケートでは、「競技は違っても、心構えや取り組み方を学ぶことができた」「世界で闘った人の考え方は違うと思った」という感想が多く見られ、市橋さんの実践を自身のスポーツへ活かしていこうとする姿勢が伺えました。また、「マラソンは苦手だったけど身近に感じることができた」といった、この実践をきっかけに長距離走の苦手意識を払拭した感想も多くみられました。

6　事業の様子

講演の様子（陸上部員３名とサッカー部員１名が代表で質問を展開しました。その他の生徒からも多くの質問があり、市橋さんの話から熱心に学ぼうとする姿勢が伺えました。）

実技の様子（動的ストレッチやランニングフォームについて丁寧に指導していただきました。）

ジョギングやゲームでは、生徒たちは楽しみながら走る面白さを体感していました。

謝辞

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 78 | 名 | 68.4 | % |
| ややそう思う | 34 | 名 | 29.8 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.8 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 78 | 名 | 68.4 | % |
| ややそう思う | 32 | 名 | 28.1 | % |
| あまりそう思わない | 3 | 名 | 2.6 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.9 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

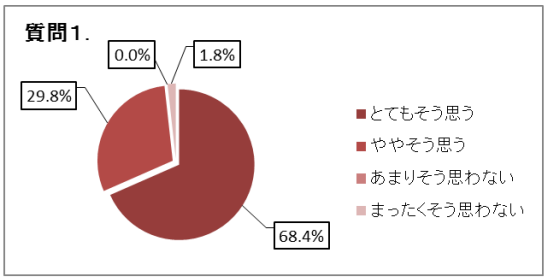
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 75 | 名 | 66.4 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 5 | 名 | 4.4 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 29 | 名 | 25.7 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 4 | 名 | 3.5 | % |
| 関心があまりない | 0 | 名 | 0.0 | % |

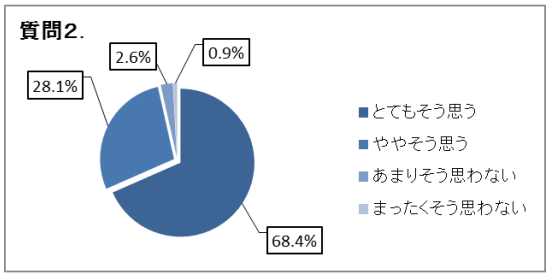
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

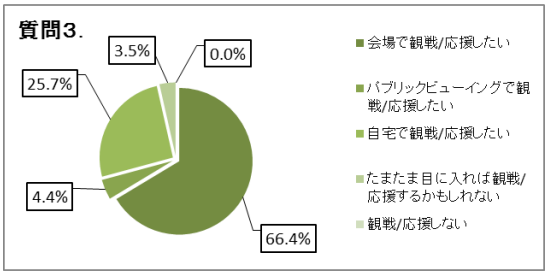
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 47 | 名 | 41.2 | % |
| ややそう思う | 64 | 名 | 56.1 | % |
| あまりそう思わない | 2 | 名 | 1.8 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.9 | % |

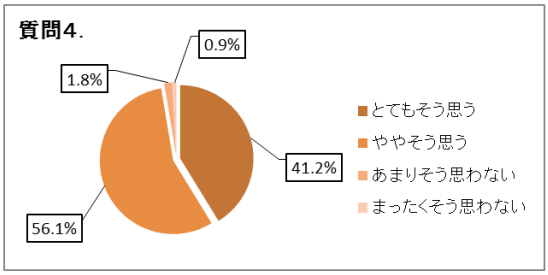
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

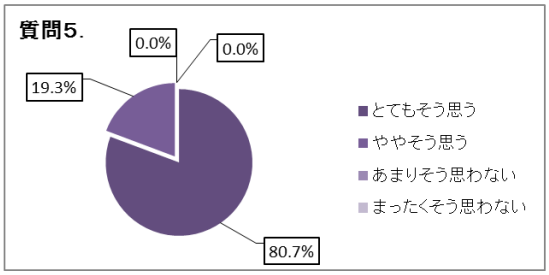
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 92 | 名 | 80.7 | % |
| ややそう思う | 22 | 名 | 19.3 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## ３．熊本県 オリンピック・パラリンピック教育推進校 実施報告

### （1）2016 年度熊本県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧

| | |
|---|---|
| 小学校<br>（１２校） | 菊陽町立菊陽中部小学校<br>小国町立小国小学校<br>甲佐町立甲佐小学校<br>甲佐町立白旗小学校<br>甲佐町立乙女小学校<br>甲佐町立龍野小学校<br>水俣市立袋小学校<br>熊本市立力合西小学校<br>熊本市立長嶺小学校<br>熊本市立白山小学校<br>熊本市立北部東小学校<br>熊本市立白坪小学校 |
| 中学校<br>（９校） | 宇土市立鶴城中学校<br>南関町立南関中学校<br>甲佐町立甲佐中学校<br>八代市立第一中学校<br>あさぎり町立あさぎり中学校<br>天草市立本渡中学校<br>山鹿市立山鹿中学校<br>熊本市立長嶺中学校<br>熊本市立帯山中学校 |
| 高等学校<br>（２校） | 熊本県立鹿本高等学校<br>熊本県立八代東高等学校 |
| 特別支援学校<br>（１校） | 熊本県立盲学校 |

（計２４校）

## （２）熊本県熊本市立白山小学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立白山小学校

２　実施日時：2016（平成 28）年 9 月 8 日（木）

３　対象：3～6 年生 380 名（※3・4 年生は講演のみ）

４　派遣オリンピアン：伊藤華英さん
（競泳　北京オリンピック 100m背泳ぎ 8 位入賞
ロンドンオリンピック 4×100mリレー7位入賞＆4×200m8位入賞）

５　事業内容：講演・実技

2016（平成 28）年 9 月 8 日に熊本市立白山小学校において、水泳選手として北京オリンピック（2008 年）の 100m背泳ぎで 8 位に入賞、ロンドンオリンピック（2012 年）の 4×100mリレーで 7 位、4×200mで 8 位に入賞されました伊藤華英さんによる講演ならびに実技指導が行われました。白山小では健康教育が継続的に取り組まれており、今回のオリンピック・パラリンピック教育を連動させることによって子供たちの健康づくりをさらに推進していくことをねらいとしていました。子供たちは事前（夏休み）に「オリパラ新聞」の作成に取り組み、オリンピックやパラリンピックについて関心を高めていました。

講演ではまず、伊藤さんの子供の頃について話をされました。ベビースイミングで始め、歩き始めるよりも泳ぎ始めるのが先だったそうです。高校進学後、インターハイや国体で活躍するなど順調な水泳人生でしたが、2004（平成 16）年のオリンピック代表選考レースでは 3 位に終わってしまい、アテネオリンピックの出場を逃してしまいました。そのときに味わった挫折から、自分が本当にやりたいことは水泳であるという自覚や、周りで支えてくれている人々への感謝の気持ち、そして必ずオリンピック選手になるという目標を持ったそうです。そして、子供たちに対して、「もし壁が目の前にあっても必ずやれるという気持ち」が大切で、その信念が自分の夢の実現につながっていくというメッセージを子供たちに送られていました。後日子供たちによって書かれた感想文の中にも、何事にも自信を持って取り組むことや夢を持ち続けることが大切であるということを学んだという記述がみられました。

講演後は場所をプールに変えて、5・6 年生を対象に水泳の実技指導が行われました。まずは伊藤さんが模範泳法で背泳ぎやクロールなどを披露しました。元オリンピック選手の速くて美しい泳ぎに、子供たちは大きな歓声を上げていました。その後、子供たちはクロールや平泳ぎの練習を行い、クロールのときの手の使い方や平泳ぎのキックの仕方などについて伊藤さんから直接指導を受けました。最後は、伊藤さんと（代表で選ばれた）子供たちとの間で（100m）リレー対決が行われました。結果は伊藤さんが大差をつけてゴールする形になりましたが、会場は大歓声に包まれました。

６　事業の様子

事前学習で子供たちが作成したオリパラ新聞

オリンピックでの経験を語る伊藤さん

速くて美しい模範の泳ぎ

伊藤さんから直接泳ぎの指導を受ける

伊藤さんにリレーで勝負を挑む子供たち

児童から御礼のあいさつ

7　新聞掲載記事

# 世界の泳ぎ 学んだよ

## 元五輪選手伊藤さん 白山小で指導

北京とロンドンの両五輪に出場した元競泳選手、伊藤華英さん(31)＝東京都＝を講師に招いた水泳教室が8日、熊本市中央区の白山小であった。

世界で活躍したトップレベルのアスリートの技術に触れて、スポーツの楽しさを知ってもらう、スポーツ庁の教育事業。5、6年の210人がクロールや平泳ぎを習った。

伊藤さんはまず、児童の前で泳ぎを披露。背泳ぎなどで25メートルプールを往復すると、「速い、圧倒的に速い」と児童から歓声が上がった。

実技指導では、「平泳ぎは足の裏が空を向くように」「クロールは手を真っすぐ伸ばして」などと一人一人に声を掛けていた。

最後は、児童チームがリレーで伊藤さんと100メートルのクロール対決。伊藤さんが大きく差をつけてゴールした。5年の前田知佳さんは「負けると分かっていても悔しかった。いつか勝ってみたい」と話していた。

伊藤さんは「水泳だけでなく、いろんな事に挑戦してほしい」とエールを送った。

（植木泰士）

児童にクロールのこつを教える元競泳選手の伊藤華英さん＝熊本市中央区

熊本日日新聞　平成28（2016）年9月9日付　朝刊

## （３）熊本県菊池郡菊陽町立菊陽中部小学校　事業報告

１　学校名：熊本県菊池郡菊陽町立菊陽中部小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 17 日（火）

３　対象：4～6 年生 400 名

４　派遣パラリンピアン：副島正純さん（車いすマラソン　アテネパラリンピック※4×400m リレーにて銅メダル獲得、北京パラリンピック、ロンドンパラリンピック、リオデジャネイロパラリンピック出場）

５　事業内容：講演

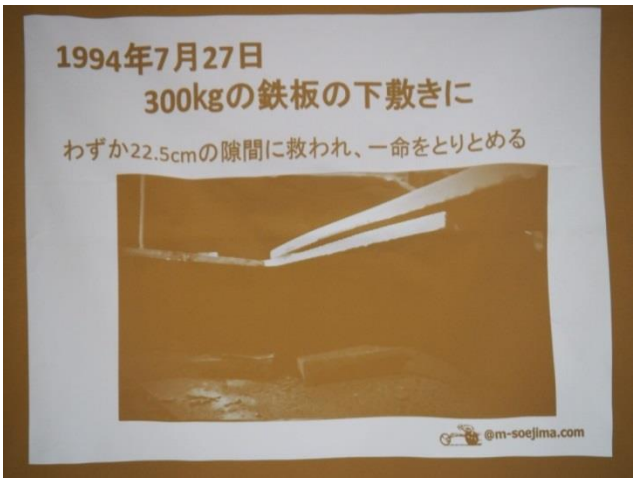
2017（平成 29）年 1 月 17 日に菊陽町立菊陽中部小学校にて、車いすマラソン選手としてパラリンピックに 4 大会（アテネ：2004 年、北京：2008 年、ロンドン：2012 年、リオデジャネイロ：2016 年）連続出場された副島正純さんによる講演が行われました。

講演ではまず、副島さんが 23 歳のときに仕事中に鉄板落下事故に遭い、脊椎損傷によって車いす生活になったことを話されました。それまでと生活が一変し、「この先どうやって生きていけばいいのか」と絶望する日々が続いたそうですが、母親の「諦めるな」という言葉によって障がい者として生きていくことを受け入れたということでした。そして、入院中に障がい者スポーツのことを知って車いすマラソンに取り組まれるようになり、2000（平成 12）年のシドニーパラリンピックで仲間がメダルを獲得したことに触発され、自らもパラリンピックを目指すことになったということでした。練習時間を確保するために仕事を正社員からパートタイム勤務に変更し、どんなに苦しい練習も、パラリンピック出場の夢を叶えるために乗り越えていった結果、2004（平成 16）年に、念願であった（アテネ）パラリンピックに初めて出場し、4×400m リレーで銅メダルを獲得されました。その後も 3 大会連続してパラリンピックに出場されていますが、マラソンではまだメダルを獲得できていないことから、2020（平成 32）年の東京パラリンピックでメダルを獲得すること、そして亡き母親との約束である世界記録を出すことを目標に、今でも日々のトレーニングに励んでいるとのことでした。副島さんは「今はとにかく人生が楽しい」と述べられ、車いすマラソンから夢や目標をもらったこと、そして車いすマラソンで頑張ったことによって得られた自信が現在の支えになっていると語られました。最後に、「頑張ることで自分の人生が変わるし、それを楽しんでほしいと思います」と子供たちにメッセージを送られていました。

講演後は、副島さんが持参されたレース用の車いすに何人かの子供たちが試乗し、ハンドル操作の難しさを感じたりするなど、障がい者スポーツを知る良い機会になっていました。

6　事業の様子

自らの経験を語る副島さん




当時の事故の様子について

持参していただいたレース用の車いす

アドバイスもらいながら車いすを操作する児童

試乗の様子を見つめる子供たち

児童と記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 244 | 名 | 68.3 | % |
| ややそう思う | 101 | 名 | 28.3 | % |
| あまりそう思わない | 11 | 名 | 3.1 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.3 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 244 | 名 | 68.3 | % |
| ややそう思う | 99 | 名 | 27.7 | % |
| あまりそう思わない | 11 | 名 | 3.1 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.6 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

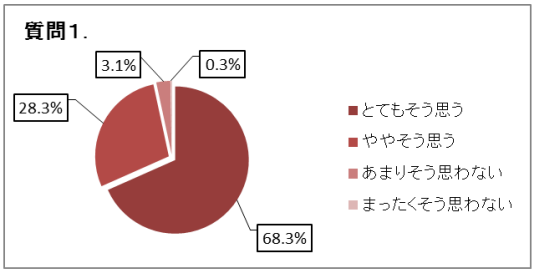
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 91 | 名 | 25.5 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 12 | 名 | 3.4 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 207 | 名 | 58.0 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 46 | 名 | 12.9 | % |
| おうえんしない | 1 | 名 | 0.3 | % |

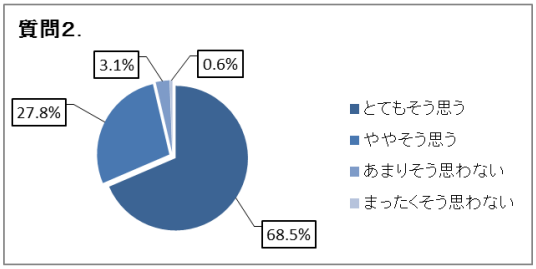
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

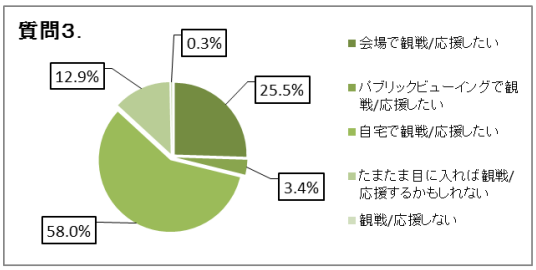
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 204 | 名 | 57.0 | % |
| ややそう思う | 135 | 名 | 37.7 | % |
| あまりそう思わない | 16 | 名 | 4.5 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.8 | % |

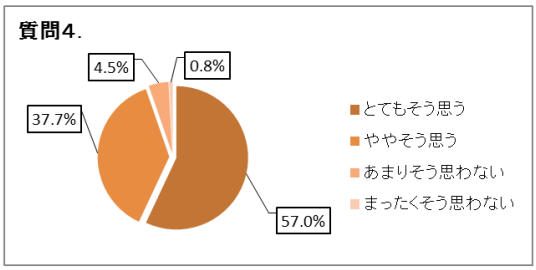
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

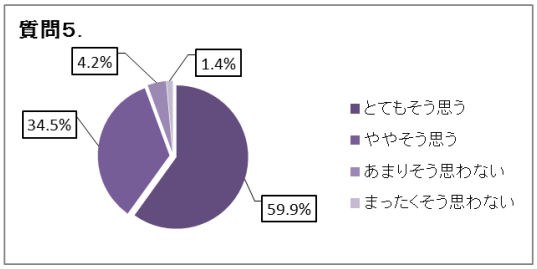
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 214 | 名 | 59.9 | % |
| ややそう思う | 123 | 名 | 34.5 | % |
| あまりそう思わない | 15 | 名 | 4.2 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 1.4 | % |



## （4）熊本県阿蘇郡小国町立小国小学校　事業報告

１　学校名：熊本県阿蘇郡小国町立小国小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 1 月 31 日（火）

３　対象：4～6 年生 330 名

４　派遣オリンピアン：勅使川原郁恵さん（ショートトラックスピードスケート
長野・ソルトレイク・トリノオリンピック　出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 1 月 31 日（火）に、小国町立小国小学校にて、4・5・6 年生 330 名を対象とし、長野（1998 年）・ソルトレイク（2002 年）オリンピックのショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターや日本各地でウォーキングの指導を行うなど、様々な方面で精力的に活動されている勅使川原郁恵さんにご講演いただきました。

講演の冒頭では、児童たちに質問をしながら、オリンピックのスケート競技には、フィギュアスケート、スピードスケート、ショートトラック等複数の種目があるということを紹介されました。また、講演では、児童たちと同じ年齢だった頃の勅使川原さんの 1 日のスケジュールが紹介されました。小学生時代の勅使川原さんは、まず、起床後に 1 時間走り、朝食をとった後、再び徒歩 30 分の通学路を走って学校に向かい、毎日 1 番に教室に入り、掃除を行っていたようです。授業の時間には、一生懸命先生のお話を聞いて、文武両道を目指して勉強も頑張っていたとお話されました。さらに、放課後は、走って帰宅し、夜の 10 時までスケートリンクで練習を行ったそうです。練習後夜 11 時に帰宅し、そこから宿題を行っていたようです。上記の小学生時代の勅使川原さんの多忙な 1 日のスケジュールを聞いた児童たちは、驚きを隠せない様子でした。

講演中、勅使川原さんは、児童たちと頻繁にコミュニケーションを図りながらお話しされ、児童たちの心にも大変響いているようでした。

講演後には、体育館にてウォーキングの実技指導が行われました。最初に、勅使川原さんが学年ごとに用意した 3～4 種類の動きの模範演技を示され、児童たちはそれを真似しながら取り組む形ですすめられました。児童だけでなく先生方も参加され、和気あいあいとした雰囲気でした。実技指導の進行に伴って、徐々に綺麗なウォーキングができるようになっていく姿は圧巻でした。

実技指導後、勅使川原さんは、自身が引退後にも夢を持ち続けていることについてお話しされ、生涯にわたって夢は持ち続けることができるものであるというメッセージを児童たちに送ってくれました。

事後アンケートでは、「文武両道を目指してがんばりたい」、「ショートトラックを観戦してみたいと思った」、「夢を持つことの大切さを学んだ」、「自分も毎朝走って登校しようと思った」、「勅使川原さんから教わったウォーキングのフォームを普段から意識していきたい」といった記述がみられ、勅使川原さんのお話が児童たちの心にも確かに響いているようでした。

６　事業の様子

講演する勅使川原さん

講演後の質疑応答の様子

ウォーキングの実技指導の様子

実技指導終了後の集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 76 | 名 | 48.7 | % |
| ややそう思う | 74 | 名 | 47.4 | % |
| あまりそう思わない | 4 | 名 | 2.6 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.3 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 87 | 名 | 55.8 | % |
| ややそう思う | 65 | 名 | 41.7 | % |
| あまりそう思わない | 3 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.6 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

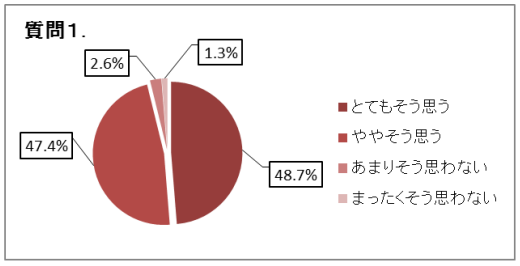
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 38 | 名 | 24.4 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 9 | 名 | 5.8 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 94 | 名 | 60.3 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 15 | 名 | 9.6 | % |
| おうえんしない | 0 | 名 | 0.0 | % |

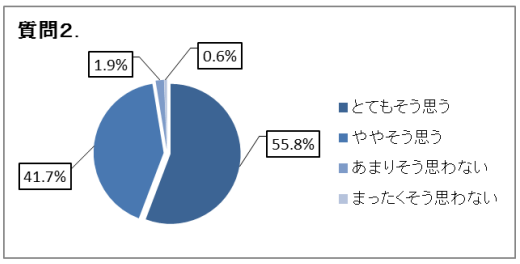
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

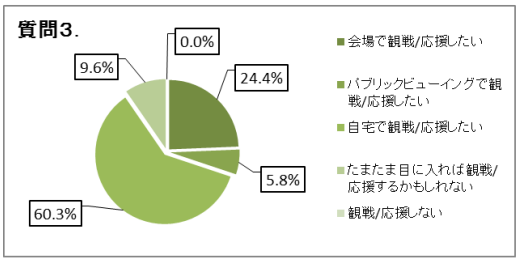
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 75 | 名 | 48.1 | % |
| ややそう思う | 73 | 名 | 46.8 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 3.8 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.3 | % |

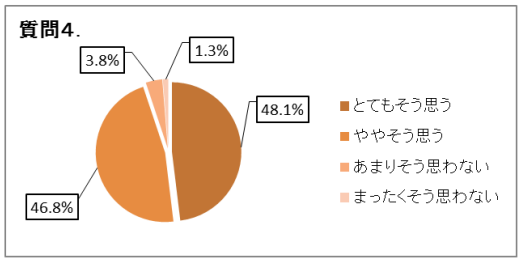
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

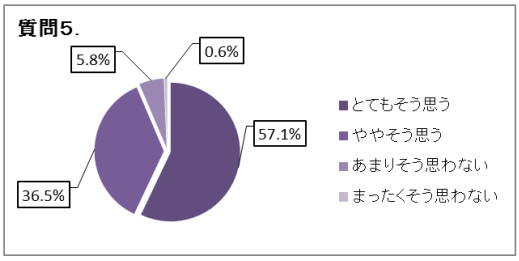
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 89 | 名 | 57.1 | % |
| ややそう思う | 57 | 名 | 36.5 | % |
| あまりそう思わない | 9 | 名 | 5.8 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.6 | % |



## （5）熊本県熊本市立北部東小学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立北部東小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 1 日（水）

３　対象：6 年生 105 名

４　派遣オリンピアン：勅使川原郁恵さん（ショートトラックスピードスケート
長野・ソルトレイク・トリノオリンピック　出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 1 日（水）に、熊本市立北部東小学校にて、6 年生 105 名を対象とし、長野（1998 年）・ソルトレイク（2002 年）オリンピックのショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターや日本各地でウォーキングの指導を行うなど、様々な方面で精力的に活動されている勅使川原郁恵さんにご講演いただきました。

講演の冒頭では、勅使川原さんから児童たちに対する質問形式で進行していきました。その中で、ショートトラックの選手のスピードが時速約 40km であり、陸上選手よりも速いというお話をされた際には、児童たちも大変驚いておりました。

その後、勅使川原さんは、小学生時代の勅使川原さんの 1 日の生活のスケジュールや、競技中に前方を滑っていた選手が転倒し、その選手のスケートの刃が顔に刺さり、14 針を縫う大怪我をしたことなどについてお話をされました。これらのお話から、現役時代の勅使川原さんが、常に「自分に勝つ」という気持ちを持ちながら競技に取り組まれていた様子が窺えました。

講演の後半は、質疑応答の時間が設けられました。質疑応答では、多くの児童が積極的に手を挙げている様子がみられました。

「なぜ怪我をしても競技をやめなかったのか」という児童の質問に対して、勅使川原さんは、何の迷いもなく「スケートが大好きだったから」と答えられました。そして、「好き」という気持ちを持つことが、夢を実現していく上で大切であるというお話をされました。他にも、「なぜ引退後にたくさんの資格を取っているのか」という質問に対しては、「健康」に関わる資格を多く取得することで、自身のウォーキング指導に活かしていくためであると答えられました。競技生活を引退されても、新たな夢の実現に向けて走り続けている勅使川原さんの姿から学ぼうと、児童たちは真剣に勅使川原さんのお話を聞いていました。

事後アンケートでは、「人に勝とうじゃなくて、自分に勝とうという気持ちは私にはなかったので、そのようなことをいかしたいと思います」、「実際にオリンピックを見に行くのは少し難しいけれど、せめて、テレビで応援しようと思います」、「オリンピックに出ている方々のがんばっている姿を見て学んでいこうと思いました」、「はじめは、オリンピックにはぜんぜん興味がなかったけど、今日、お話を聞いて、テレビで見てみようと思った」、「スピードスケートショートトラックについて調べてみたいと思いました」といった記述がみられました。多くの児童にとって、勅使川原さんのお話は、オリンピック・パラリンピックをはじめとするスポーツの価値について考えるきっかけになったようです。

6　事業の様子

ショートトラックについて説明する勅使川原さん

質疑応答の際、積極的に挙手する児童たち

勅使川原さんに質問する児童

勅使川原さんにお礼の言葉を述べる児童

講演後勅使川原さんを囲んでの集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 80 | 名 | 86.0 | % |
| ややそう思う | 12 | 名 | 12.9 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 1.1 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 65 | 名 | 69.9 | % |
| ややそう思う | 27 | 名 | 29.0 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 1.1 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

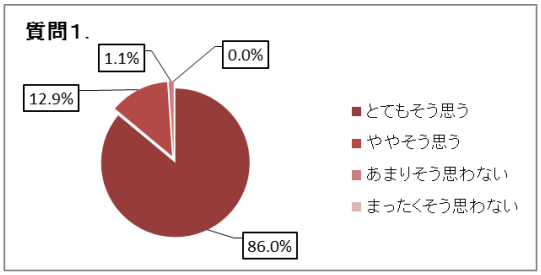
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 30 | 名 | 32.3 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 3 | 名 | 3.2 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 55 | 名 | 59.1 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 5 | 名 | 5.4 | % |
| おうえんしない | 0 | 名 | 0.0 | % |

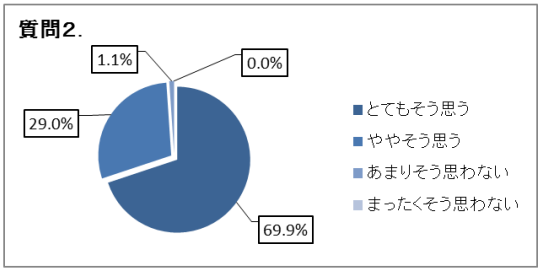
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

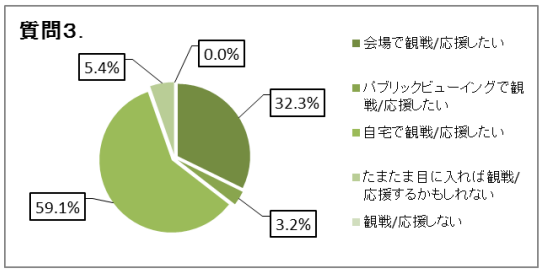
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 57 | 名 | 62.0 | % |
| ややそう思う | 35 | 名 | 38.0 | % |
| あまりそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

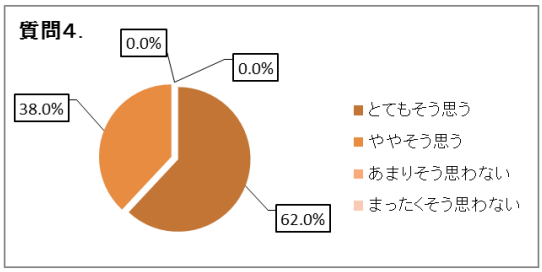
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

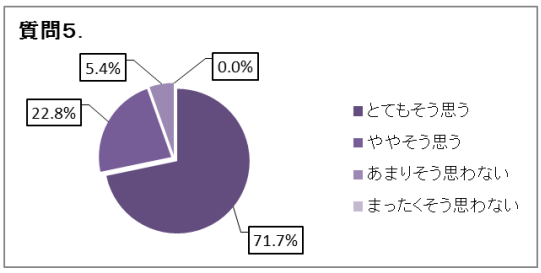
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 66 | 名 | 71.7 | % |
| ややそう思う | 21 | 名 | 22.8 | % |
| あまりそう思わない | 5 | 名 | 5.4 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## （5）熊本県宇土市立鶴城中学校　事業報告

1　学校名：熊本県宇土市立鶴城中学校

2　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 6 日（月）

3　対象：1・2 年生 515 名

4　派遣オリンピアン：川上優子さん
（陸上競技　女子 10000m　アトランタ・シドニーオリンピック出場）

5　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 6 日（月）に、宇土市立鶴城中学校にて、1・2 年生 515 名を対象とし、陸上競技　女子 10000m の日本代表選手として 2 度のオリンピック（アトランタ：1996 年、シドニー：2000 年）に出場された川上優子さんにご講演いただきました。

講演では、「失敗には 2 種類ある」、「チャンスは自分で決める」、「自分を信じ続ける」という 3 つのキーワードを軸にお話しされました。

1 つ目のキーワード「失敗には 2 種類ある」では、挑戦した上での失敗と挑戦しなかった失敗とを比較し、何事にも挑戦することの大切さについてお話しされました。川上さんは、具体的に 10000m のレースを例にしながら、必死に首位の選手にくらいついた結果の 2 位と守りのレース展開での 2 位とは、同じ 2 位であっても全く違うと述べられました。その理由について、川上さんは、前者は、今後の課題が具体的にわかる一方で、後者は、わからない点を挙げられました。このように、何事に対しても、積極的に挑戦することによって、自らが主体的に次々と課題を見つけ出し、それを克服するプロセスの大切さについてお話しされました。

2 つ目のキーワード「チャンスは自分で決める」では、チャンスは「つかむ」ものではなく、「決める」ものであるという川上さん自身のお考えについてお話しされました。川上さんは、何かに取り組む際に、なんとなくではなく、自分の夢や目的を実現するために今何ができるかということを主体的に考えて行動することの大切さについて語られました。

3 つ目のキーワード「自分を信じ続ける」では、川上さん自身の怪我の経験を交えながらお話しされました。川上さんは、怪我で大会に出場できない期間も自分だけは勝てると信じていたそうです。たとえ誰からも信じられない状況であったとしても、自分だけは自分のことを信じてリハビリに取り組まれていたとお話しされました。

講演後の質疑応答では、生徒から「どうやって自分を追い込むのか」という質問がありました。この質問に対して、川上さんは、まずは今の自分にできることを 1 つでもいいから全力で取り組むことが大切だと述べられました。そして、できることを 1 つずつ増やしていくことで、少しずつ自分を追い込んでいくことができるとお話しされました。

生徒の事後アンケートでは、「心が折れそうになったり、自分に自信をなくしたりしたときは、自分を信じて目標を立てて頑張ろうと思いました」、「失敗してもいいから挑戦してみようと思いました」といった記述が多くみられ、生徒たちが、川上さんのお話を通して、目標をもつことや挑戦することの大切さを学んでいる様子が窺えました。

６　事業の様子

講演の様子

質疑応答の様子

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

### 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 201 | 名 | 42.8 | % |
| ややそう思う | 242 | 名 | 51.5 | % |
| あまりそう思わない | 23 | 名 | 4.9 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 0.9 | % |

### 2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 205 | 名 | 43.6 | % |
| ややそう思う | 231 | 名 | 49.1 | % |
| あまりそう思わない | 33 | 名 | 7.0 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

### 3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか

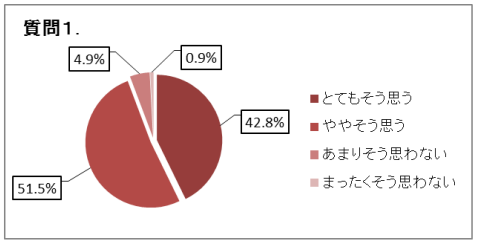
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 152 | 名 | 32.4 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 23 | 名 | 4.9 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 227 | 名 | 48.4 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 53 | 名 | 11.3 | % |
| 関心があまりない | 14 | 名 | 3.0 | % |

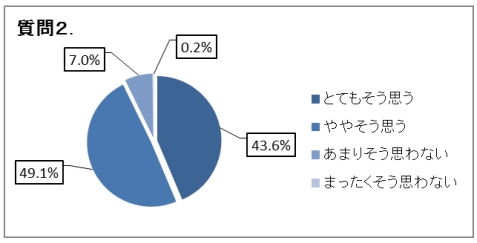
### 4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか

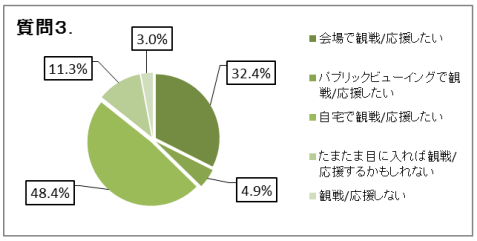
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 110 | 名 | 23.5 | % |
| ややそう思う | 260 | 名 | 55.4 | % |
| あまりそう思わない | 93 | 名 | 19.8 | % |
| まったくそう思わない | 6 | 名 | 1.3 | % |

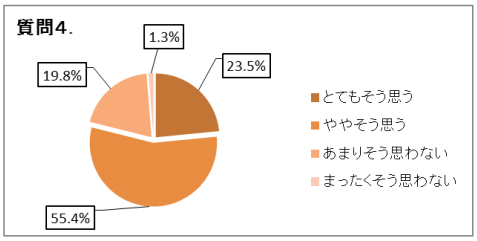
### 5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか

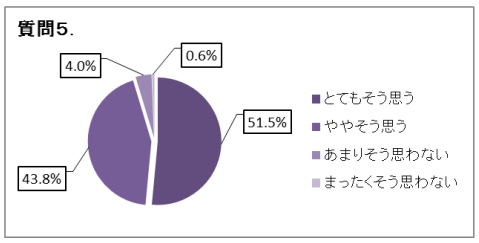
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 242 | 名 | 51.5 | % |
| ややそう思う | 206 | 名 | 43.8 | % |
| あまりそう思わない | 19 | 名 | 4.0 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.6 | % |



8　新聞掲載記事

若者コーナー

## 五輪講演聞き 陸上を再開へ

石川詩音美14＝中学生（宇土市）

6日に鶴城中学校でオリンピックパラリンピック講演会がありました。講師は元オリンピック陸上選手で、今はスポーツインストラクターの川上優子さんです。

川上さんは中学の時、陸上を始めました。強くなるためには、三つの大事なことがあるそうです。一つ目は失敗には二つあるということです。挑戦したができなかった失敗と挑戦をしなかった失敗です。

二つ目はチャンスは自分でつかむのではなく、自分で決めるものです。身近なものでも自分の考え方次第でチャンスになります。

三つ目は自分を信じることです。川上さんはオリンピックのスタートラインに立ったとき、緊張で足が震えたそうです。しかし、「緊張しているな。自分ならできる」と思ったそうです。

しかし、川上さんも一時期、けがで陸上をやめたくなったそうです。でも陸上を始めた理由を考え、もう1回頑張ろうと決めて、また陸上を始めたそうです。

私も昨年まで陸上をやっていましたが、けがをしてしまい、そこから陸上をする気がなくなりました。そして、自分の部活や勉強もあると思うと、やっぱりできないなと思っていました。しかし、川上さんの話を聞いて、もう1回頑張ろうと思いました。

2017（平成29）年2月23日付　熊本日日新聞　朝刊（生徒からの投書）

## （6）熊本県八代市立第一中学校　事業報告

1　学校名：熊本県八代市立第一中学校

2　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 7 日（火）

3　対象：全校生徒 730 名

4　派遣パラリンピアン：廣瀬誠さん（柔道　アテネパラリンピック銀メダル・北京パラリンピック第 7 位･ロンドンパラリンピック第 5 位･リオデジャネイロパラリンピック銀メダル）

5　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 7 日（火）に、八代市立第一中学校にて、全校生徒 730 名を対象とし、パラリンピックの柔道競技に 4 大会連続で（アテネ：2004 年・北京：2008 年・ロンドン：2012 年・リオデジャネイロ：2016 年）出場し、2 つの銀メダル（アテネ・リオデジャネイロ）を獲得された廣瀬誠さんにご講演いただきました。

廣瀬さんは、高校時代から柔道を始められ、柔道の楽しさに惹かれていったそうです。また、高校時代には、試合でなかなか勝つことができなかったため、他の選手よりも少しでも多く練習するように心がけていたと述べられました。一方で、高校 2 年生の頃から病気で徐々に目が見えなくなっていき、日常生活を送る上でこれまでにできていた様々なことができなくなっていったそうです。しかし、目が見えなくなっていっても、柔道だけは今まで通りにできたと言います。そのため、廣瀬さんにとって柔道は、自身の生きがいとなっていったとお話しされました。

講演では、4 つのキーワードを用いて、生徒たちに伝えたいことについてお話しされました。1 つ目のキーワードは、「ありがとう」で、感謝することの大切さについて述べられました。廣瀬さんは、自身の経験から、目が見えたり、手足があったり、友達がいたりすることが、「当たり前」のことではないことに気づき、すべてのことに対し「有難さ」を感じることができるようになったといいます。そして、日常の「当たり前」を「ありがとう」に変えることで、人生がより豊かになるのではないか、というお考えを述べられました。廣瀬さん自身も「当たり前」を「ありがとう」に変えることを実践することによって、自身の障がいに対して「不便だけど不幸ではない」と思うようになったといいます。2 つ目のキーワードは、「やらない後悔よりもやった後悔」で、失敗を恐れずに挑戦することの大切さについて語られました。3 つ目のキーワードは、「日々の努力の大切さ」で、日々の努力によって生涯の宝物になる「仲間」が生まれ、人生がより豊かになると述べられました。4 つ目のキーワードは、「自分を好きになる」で、自分を大切にすることで他人も大切にできるようになることについてお話しされました。

講演後の質疑応答の時間では、「やらない後悔よりもやった後悔」という廣瀬さんのお言葉を早速実践しようと、多くの生徒が積極的に挙手しておりました。廣瀬さんのお言葉が多くの生徒たちの心に響いていたことを実感できた瞬間でした。

事後のアンケートでは、「後悔しないように何事にも挑戦していきたい」といった記述が多くみられ、廣瀬さんのメッセージが生徒たちにも届いているようでした。

6　事業の様子

講演する廣瀬さん

銀メダルを掲げる廣瀬さん

視覚障がい者用の時計を見せる廣瀬さん

廣瀬さんに質問する生徒

廣瀬さんに銀メダルをかけてもらう様子

銀メダルをかけた感想を述べる生徒

代表生徒によるお礼の言葉

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 115 | 名 | 48.7 | % |
| ややそう思う | 108 | 名 | 45.8 | % |
| あまりそう思わない | 10 | 名 | 4.2 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 1.3 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 108 | 名 | 45.8 | % |
| ややそう思う | 116 | 名 | 49.2 | % |
| あまりそう思わない | 10 | 名 | 4.2 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

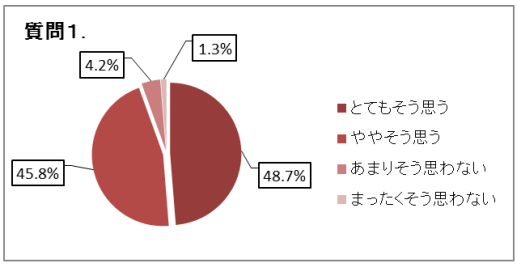
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 50 | 名 | 21.2 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 10 | 名 | 4.2 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 124 | 名 | 52.5 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 46 | 名 | 19.5 | % |
| 関心があまりない | 6 | 名 | 2.5 | % |

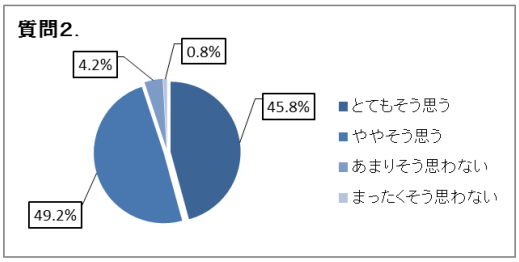
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

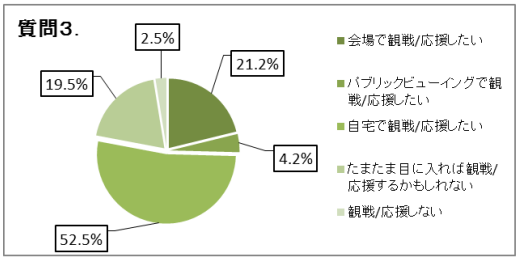
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 55 | 名 | 23.3 | % |
| ややそう思う | 122 | 名 | 51.7 | % |
| あまりそう思わない | 51 | 名 | 21.6 | % |
| まったくそう思わない | 8 | 名 | 3.4 | % |

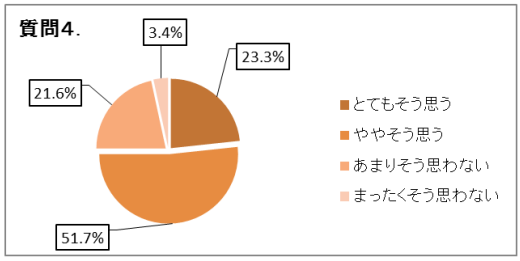
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

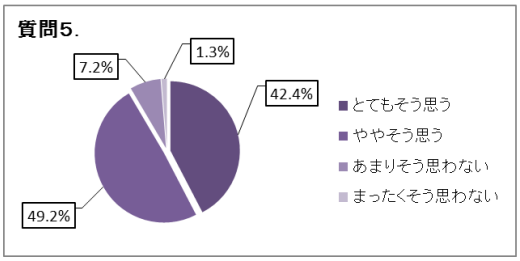
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 100 | 名 | 42.4 | % |
| ややそう思う | 116 | 名 | 49.2 | % |
| あまりそう思わない | 17 | 名 | 7.2 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 1.3 | % |



## （7）熊本県熊本市立長嶺小学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立長嶺小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 8 日（水）

３　対象：6 年生 160 名

４　派遣パラリンピアン：廣瀬誠さん（柔道　アテネパラリンピック銀メダル・北京パラリンピック第 7 位･ロンドンパラリンピック第 5 位･リオデジャネイロパラリンピック銀メダル）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 8 日（水）に、熊本市立長嶺小学校にて、6 年生 160 名を対象とし、パラリンピックの柔道競技に 4 大会連続で（アテネ：2004 年・北京：2008 年・ロンドン：2012 年・リオデジャネイロ：2016 年）出場し、2 つの銀メダル（アテネ・リオデジャネイロ）を獲得された廣瀬誠さんにご講演いただきました。

講演では、パラリンピックのメダルは、目が見えない人でも色の違いがわかるように、メダルを振ると金銀銅でそれぞれ異なる音が出ることを紹介されました。そして、実際に、廣瀬さんがリオデジャネイロパラリンピックで獲得した銀メダルを振って、児童たちにメダルの音を聞かせていらっしゃいました。廣瀬さんは、児童たちに対して、人生をより楽しいものにしていく上で大切なことを、2 点紹介されました。

1 点目は、「自分が好きなものをみつけたら、それを毎日一生懸命続けていく」ということでした。そのためには、規則正しい生活を送って、丈夫な体を手に入れること、それと同時に休むときはしっかりと休むことをすすめられました。

2 点目は、「周りの人たちに感謝の気持ちを忘れずに持つこと」でした。そのためには、「当たり前」だと思われることもすべて「有難い」ことだと考えるようにすることが大切であるといいます。

講演後の質疑応答では、多くの児童が積極的に挙手して、廣瀬さんを質問攻めにして、お話を熱心に聞いて学ぼうとする様子が窺えました。

また、講演後には、廣瀬さんによる実技の実践も行われました。廣瀬さんと柔道を習っている児童が組み合って、児童が廣瀬さんを背負い投げした際には、他の児童たちから驚きの声があがりました。その後、柔道二段の教員の方にご協力いただき、廣瀬さんの得意技である巴投げが披露されました。繊細かつダイナミックな技に会場全体から歓声が湧きおこりました。世界トップレベルの技を間近でみた児童たちは、終始興奮して、大満足の様子でした。

生徒への事後アンケートでは、「今日さわった銀メダルの感覚は忘れられないと思います」、「仲間がいないと、大変だし、できないことがあると分かり、私もこれからは、こまっている人などを助けていけたらいいなぁと思います」、「障がいをもっている人は運動ができないと思っていたけど、廣瀬さんのお話を聞いてイメージがかわりました」、「何事もあたりまえと思わずに、今学校に行くことができるのも、私が好きなダンスができるのも『ありがとう』なんだなぁと改めて実感しました」、「パラリンピックをみてみたい」といった記述が多々みられ、廣瀬さんのお話が児童たちの心に響いている様子が窺えました。

６　事業の様子

入場する廣瀬さん

廣瀬さんの講演を聴くご家族

実技実践にて廣瀬さんに背負い投げをかける児童

廣瀬さんの得意技巴投げの披露

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 90 | 名 | 84.1 | % |
| ややそう思う | 16 | 名 | 15.0 | % |
| あまりそう思わない | 1 | 名 | 0.9 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 86 | 名 | 80.4 | % |
| ややそう思う | 19 | 名 | 17.8 | % |
| あまりそう思わない | 2 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

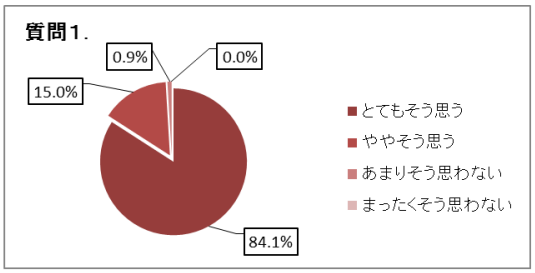
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 33 | 名 | 30.8 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 7 | 名 | 6.5 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 57 | 名 | 53.3 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 10 | 名 | 9.3 | % |
| おうえんしない | 0 | 名 | 0.0 | % |

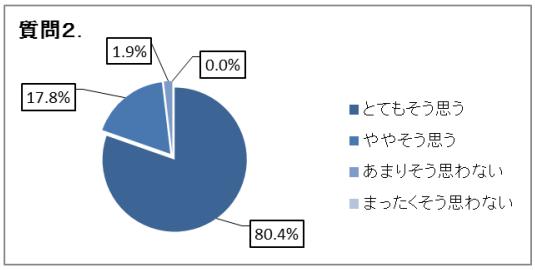
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

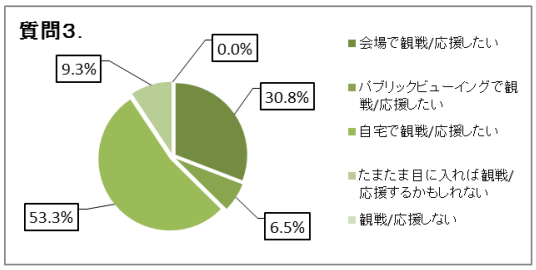
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 74 | 名 | 69.2 | % |
| ややそう思う | 30 | 名 | 28.0 | % |
| あまりそう思わない | 2 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.9 | % |

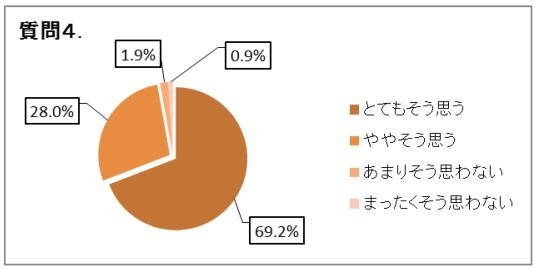
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

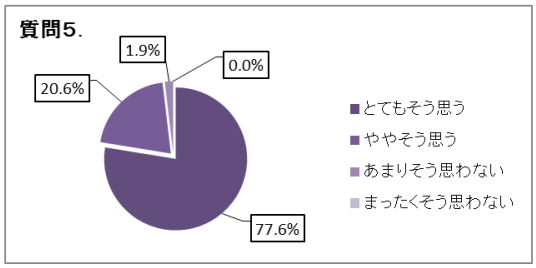
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 83 | 名 | 77.6 | % |
| ややそう思う | 22 | 名 | 20.6 | % |
| あまりそう思わない | 2 | 名 | 1.9 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## （8）熊本県熊本市立力合西小学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立力合西小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 9 日（木）

３　対象：5・6 年生 145 名

４　派遣オリンピアン：高橋千恵美さん（陸上競技　女子 10000m シドニーオリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 9 日に、熊本県熊本市立力合西小学校にて、シドニーオリンピック（2000 年）に陸上競技 女子 10000m の代表として出場された高橋千恵美さんをお招きし、ご講演ならびに実技体験を実施していただきました。

はじめに講演では、「夢に向かって」をテーマとし、高橋さんがシドニーオリンピックに出場されるまでの道のりを紹介する DVD を映しながら、当時の思いなどを振り返ってお話しされました。その中で、高橋さんが陸上競技の長距離走に没頭していくようになったきっかけとしては、小学生時代に校内マラソンで 1 年生の時以外の 5 年間すべて優勝したことがとても嬉しかったことがあったそうで、小学 5 年生で既にオリンピックに出場したいという夢を持つようになったと言います。

また、中学生の時には、当時 10000m の代表としてオリンピックなどで活躍していた松野明美選手が、小柄な体格ながら精一杯走っている姿をテレビで観て強く感動し、自分も誰かに感動を与えられるようになりたいと、オリンピックに出場するという夢への意欲をさらに高めたと言います。また、この時に受けた感動が契機となり、競技に対する姿勢も変わり、苦しい練習でも決して諦めないようになったことで少しずつ記録が伸びるようになっていったと語りました。

その後は、中学 2 年生で全国都道府県駅伝大会の宮城県代表に選ばれるなど、着実に競技力を伸ばしていきますが、高校 3 年生の時の地区総体でライバルの選手に負けた時には、走るのを辞めたいと、初めて壁にぶつかったそうです。しかし、自分にはやはり走ることしかないとの思いから、実業団に所属して再びオリンピック出場を目指して練習に励み、ケガや貧血に悩まされながらもついにシドニーオリンピックへの出場を果たしたと、15 年越しの夢を叶えた当時の思いを振り返りながらお話しされました。

そして講演の最後には児童に対し「みなさん、夢を持っていますか？」と質問を投げかけながら、夢を持ち、それを自分の周りの人に宣言すること、そして“自分ならできる”と信じて諦めずに努力することが、夢を実現させる原動力になるのだと語られました。また、ご自身も小中学校時代には水泳や卓球をしていたことから、自分の可能性を広げるためにも、色んなスポーツに挑戦してほしいと、講演を聞く児童への願いも伝えられました。

6　事業の様子

「夢に向かって」をテーマにご講演された高橋千恵美さん

講演の後には、ランニングの基本について実技指導もされました

熊本にも寒波が押し寄せた寒い中での実技でしたが、児童は高橋さんと一緒に笑顔で走っておりました

代表児童からの謝辞

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 89 | 名 | 62.2 | % |
| ややそう思う | 48 | 名 | 33.6 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 4.2 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 91 | 名 | 63.6 | % |
| ややそう思う | 43 | 名 | 30.1 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 4.9 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 1.4 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

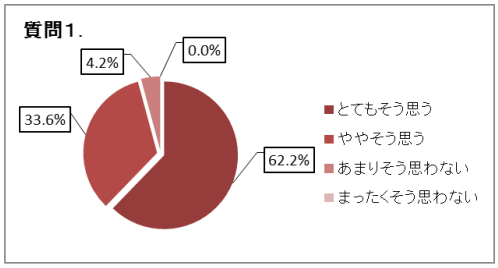
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 40 | 名 | 28.0 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 8 | 名 | 5.6 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 85 | 名 | 59.4 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 9 | 名 | 6.3 | % |
| おうえんしない | 1 | 名 | 0.7 | % |

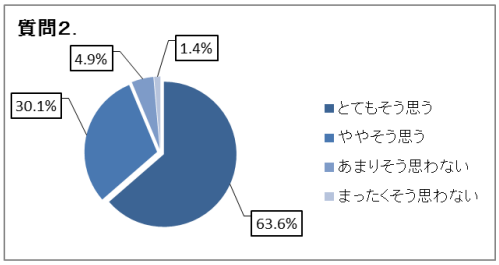
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

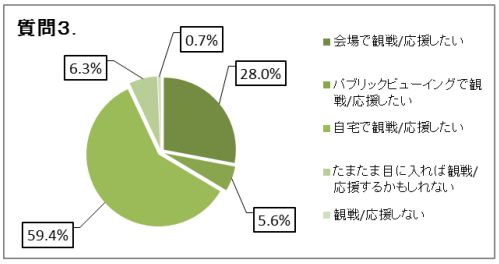
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 85 | 名 | 60.3 | % |
| ややそう思う | 47 | 名 | 33.3 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 5.7 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |

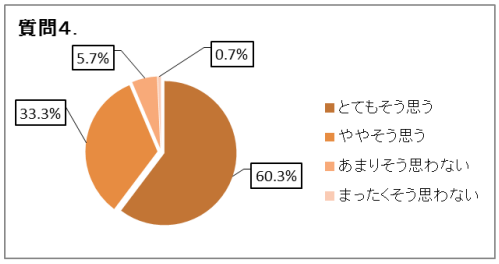
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

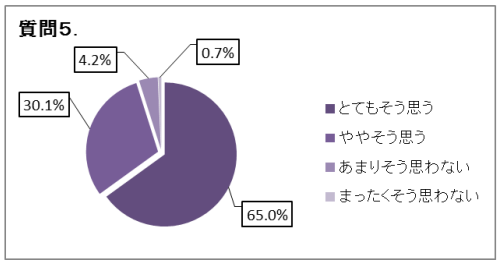
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 93 | 名 | 65.0 | % |
| ややそう思う | 43 | 名 | 30.1 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 4.2 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.7 | % |



## （9）熊本県熊本市立白坪小学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立白坪小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 10 日（金）

３　対象：全校児童 561 名

４　派遣オリンピアン：高橋千恵美さん（陸上競技　女子 10000m シドニーオリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 10 日に、熊本県熊本市立白坪小学校にて、シドニーオリンピック（2000 年）に陸上競技 女子 10000m の代表として出場された高橋千恵美さんをお招きし、ご講演ならびに実技体験を実施していただきました。

講演では、「夢に向かって」をテーマに、高橋さんが長距離走でオリンピックを目指すようになったきっかけをはじめ、オリンピック出場を果たすまでの努力の過程や途中で経験した挫折などについてお話しされました。

高橋さんは、小学校時代には水泳や卓球など多くのスポーツをしていたそうですが、1 年生の時以外 5 年間すべて校内のマラソン大会で優勝するなど、長距離走も得意だったことから、5 年生の時にはオリンピック出場の夢を抱いていたと言います。また、中学校時代には、当時オリンピックの 10000m 代表として活躍していた松野明美選手が、小柄な体格ながらも精一杯世界のトップ選手と競い合う姿に憧れ、自分も誰かに感動を与える選手になりたいと、オリンピック出場の夢を一層強めたとお話しされました。

その後、強豪高校や実業団に所属しながら着実に夢の実現へと近づいていく過程には、怪我や貧血に悩まされたり、ライバルに競り負け、走ることを辞めようと思った経験をされたりするなど、壁に突き当たることもあったそうですが、小学生のころに抱いた夢を決して諦めず、“自分ならできる”と信じて練習に励み、ついにシドニーオリンピックへ出場し、15 年越しの夢を叶えることができたと振り返られました。

また、高橋さんはオリンピック後に現役を引退され、自身が現役時代に栄養管理の難しさで貧血に悩まされた経験から、大学に入学して管理栄養士の資格をとられました。また白坪小学校は、健康教育推進校の指定を受けていることもあり、講演の後半では、朝ご飯を摂る重要性や、成長期に必要な栄養素とそれらを食事によって効果的に摂取する方法など、具体的なアドバイスを交えながら成長期における食事による栄養摂取の重要性について児童にお話しされました。

講演の最後には、夢をもつ事の大切さをお話しされるとともに、その夢を周囲に宣言すること、“自分ならできる”と信じて諦めずに努力を続けることが夢の実現につながることを児童に伝えられました。

6　事業の様子

「夢に向かって」をテーマにご講演された高橋千恵美さん
現在管理栄養士としてもご活躍されていることから成長期の食事の重要性についてもお話しされました

「陸上競技の専門家（プロフェッショナル）として大切にしていることは何ですか？」との質問には、
「諦めない気持ちです」と答えられました

講演後には 4 年生児童を対象に、ランニングの基本などの実技指導もされました

最後には全員でリレーをするなどして大いに盛り上がりました

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 141 | 名 | 41.3 | % |
| ややそう思う | 163 | 名 | 47.8 | % |
| あまりそう思わない | 30 | 名 | 8.8 | % |
| まったくそう思わない | 7 | 名 | 2.1 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 161 | 名 | 47.2 | % |
| ややそう思う | 149 | 名 | 43.7 | % |
| あまりそう思わない | 28 | 名 | 8.2 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.9 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

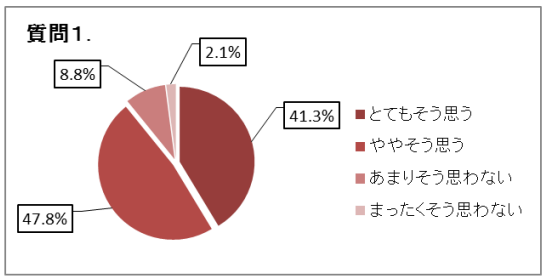
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 92 | 名 | 27.2 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 19 | 名 | 5.6 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 157 | 名 | 46.4 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 62 | 名 | 18.3 | % |
| おうえんしない | 8 | 名 | 2.4 | % |

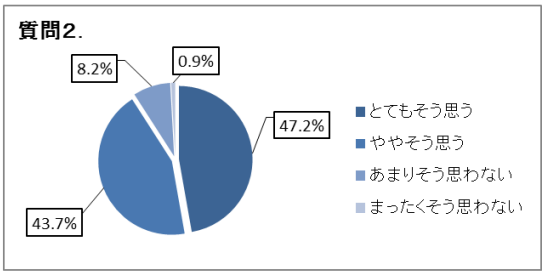
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

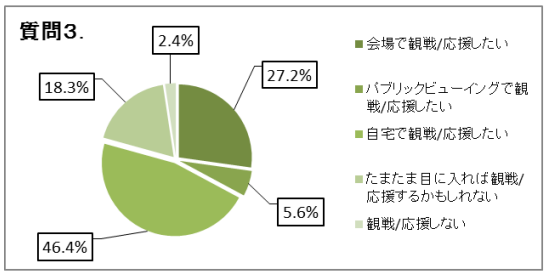
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 143 | 名 | 42.1 | % |
| ややそう思う | 168 | 名 | 49.4 | % |
| あまりそう思わない | 27 | 名 | 7.9 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.6 | % |

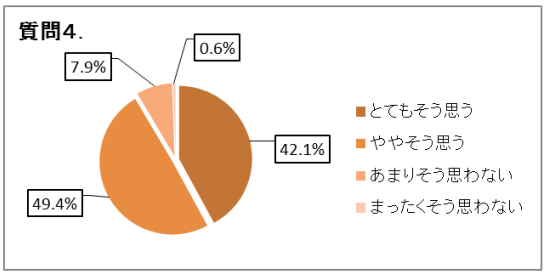
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

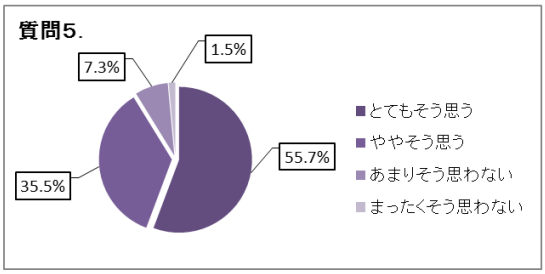
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 190 | 名 | 55.7 | % |
| ややそう思う | 121 | 名 | 35.5 | % |
| あまりそう思わない | 25 | 名 | 7.3 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 1.5 | % |



## （１０）熊本県球磨郡あさぎり町立あさぎり中学校　事業報告

１　学校名：熊本県球磨郡あさぎり町立あさぎり中学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 13 日（月）

３　対象：全校生徒 486 名

４　派遣パラリンピアン：花岡伸和さん（車いすマラソン　アテネ・ロンドンパラリンピック出場）

５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 13 日にあさぎり町立あさぎり中学校にて、車いすマラソン選手としてアテネパラリンピック（2004 年）で 6 位に入賞、ロンドンパラリンピック（2012 年）で 5 位に入賞されました花岡伸和さんによる講演が行われました。

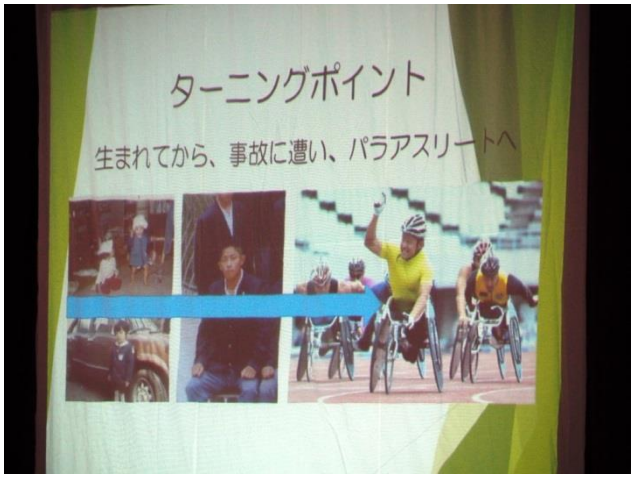
講演ではまず、花岡さんが高校 3 年生のときにバイク事故で脊椎損傷となり、車いす生活になったときのことを話されました。事故にあったときのヘルメットを見せられたときの気持ちや、それまでは当たり前のようにできていたことが突然できなくなってしまったことなど、思い悩む日々が続いたということでした。そのような中で、たまたま病院に置いてあった資料を見て、車いすスポーツのことを知り、その中で“一番かっこいい”と思ったのが陸上競技だったと述べられていました。それをきっかけに車いすマラソンに取り組むようになったそうですが、現実はそれほど甘くはなく、パラリンピックに出場するまでには 10 年かかったということでした。そして、初めて出場したパラリンピック（2004 年アテネ大会）では日本人最高の 6 位に入賞し、その後も順調に日本の車いすマラソン界を牽引していく存在になっていったそうですが、2008（平成 20）年の北京大会で日本代表から落選してしまったときは、「もう諦めようかと思った」ということでした。しかし、「ここで逃げてしまえば、あのときの事故とまた同じようになってしまうのではないか」と自分自身を奮い立たせ、そして幼い息子に「自分がパラリンピックで走る姿を見せてあげたい」との強い思いから、もう一度パラリンピックにチャレンジすることを決意されたということでした。その結果、見事に 2012（平成 24）年のロンドンパラリンピックの出場権を獲得され、本番ではメダルを獲得することはできなかったものの、トップからわずか 6 秒差の 5 位に入賞されたということでした。

これらの経験を踏まえながら、自己肯定感について取りあげられ、「事故後初めて自分でごはんを食べたときも、初めてパラリンピックに出場したときも、そしてロンドンパラリンピックの出場権を獲得できたときも、自己肯定感が高められ、そして今の自分がいる」と述べられ、このような積み重ねが、また次の目標に向かって進んでいく原動力になっていくことから、「（生徒の）みなさんも、ぜひ自己肯定感を高められるように頑張ってほしいと思います」と生徒たちにメッセージを送られていました。

6　事業の様子

講演会場の様子

生徒たちに問いかける花岡さん




車いすマラソンを始めるきっかけ

生徒からの質問に耳を傾ける花岡さん

生徒たちと記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 276 | 名 | 62.4 | % |
| ややそう思う | 147 | 名 | 33.3 | % |
| あまりそう思わない | 16 | 名 | 3.6 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 0.7 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 258 | 名 | 58.4 | % |
| ややそう思う | 164 | 名 | 37.1 | % |
| あまりそう思わない | 19 | 名 | 4.3 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

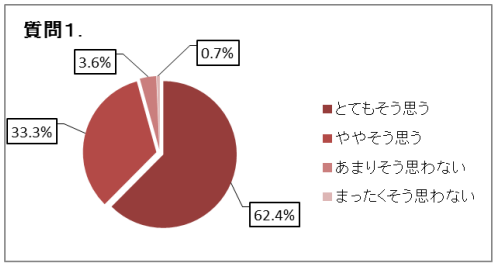
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 164 | 名 | 37.4 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 11 | 名 | 2.5 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 193 | 名 | 44.0 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 57 | 名 | 13.0 | % |
| 関心があまりない | 14 | 名 | 3.2 | % |

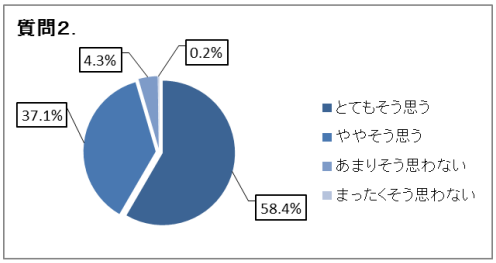
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

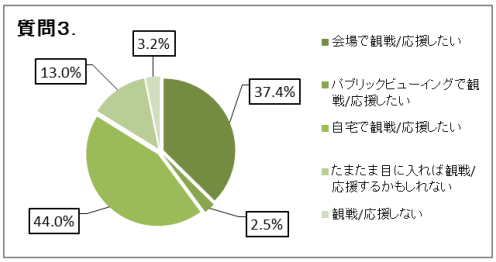
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 139 | 名 | 31.4 | % |
| ややそう思う | 236 | 名 | 53.4 | % |
| あまりそう思わない | 58 | 名 | 13.1 | % |
| まったくそう思わない | 9 | 名 | 2.0 | % |

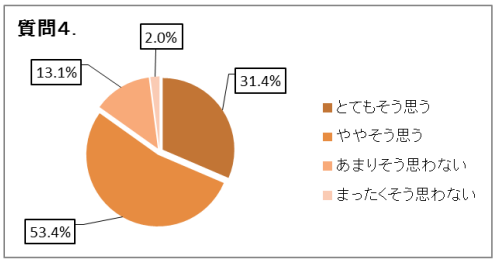
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

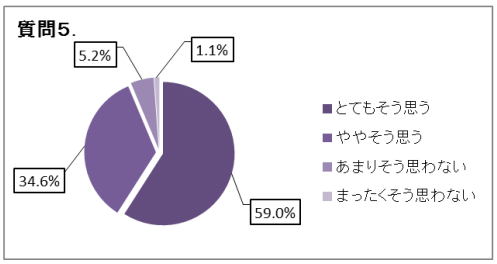
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 261 | 名 | 59.0 | % |
| ややそう思う | 153 | 名 | 34.6 | % |
| あまりそう思わない | 23 | 名 | 5.2 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 1.1 | % |



## （１１）熊本県山鹿市立山鹿中学校　事業報告

１　学校名：熊本県山鹿市立山鹿中学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 14 日（火）

３　対象：1・2 年生 400 名

４　派遣パラリンピアン：花岡伸和さん（車いすマラソン　アテネ・ロンドンパラリンピック出場）

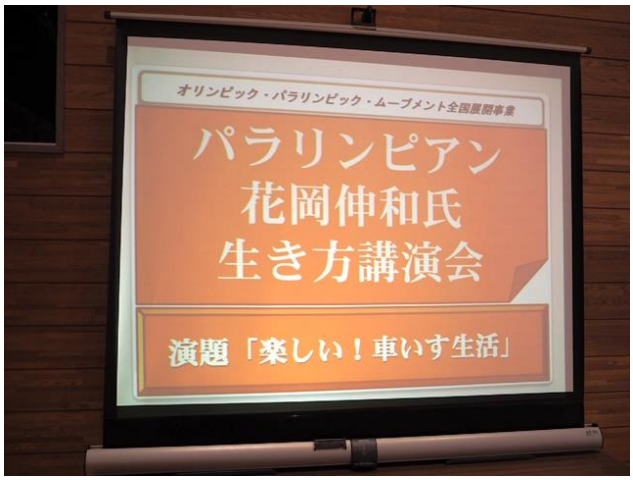
５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 13 日に山鹿市立山鹿中学校において、車いすマラソン選手としてアテネパラリンピック（2004 年）で 6 位に入賞、ロンドンパラリンピック（2012 年）で 5 位に入賞されました花岡伸和さんによる講演が行われました。生徒たちは事前学習として、パラリンピックの語源や、車いすスポーツである車いすマラソンやハンドサイクリングなどについて学んでいました。

講演ではまず、花岡さんが高校 3 年生のときにバイク事故で脊椎損傷となり、車いす生活になったときのことを話されました。そして、病院に置いてあった資料で車いすスポーツのことを知り、その中で陸上競技が“一番かっこいい”と感じたのがきっかけで車いすマラソンに取り組むようになったということでした。初めて出場したパラリンピック（2004 年アテネ大会）では日本人最高の 6 位に入賞し、その後も順調に日本の車いすマラソン界を牽引していく存在になっていったそうですが、2008（平成 20）年の北京大会で日本代表から落選してしまったときは「もう諦めようかと思った」と語られていました。しかし、「ここで逃げてしまえば、あのときの事故とまた同じようになってしまうのではないか」と自分自身を奮い立たせ、もう一度パラリンピックにチャレンジすることを決意されたということでした。そして、2012（平成 24）年のロンドンパラリンピックの出場権をかけた当時のレースが VTR で紹介され、花岡さんがトップでゴールした瞬間には会場から歓声が上がり、拍手が送られていました。花岡さんはこれらの経験を踏まえながら自己肯定感について取りあげられ、「事故後初めて自分でごはんを食べたときも、初めてパラリンピックに出場したときも、そしてロンドンパラリンピックの出場権を獲得できたときも、自己肯定感が高められ、そして今の自分がいる」と述べられ、このような積み重ねが、また次の目標に向かって進んでいく原動力になっていくことから、「（生徒の）みなさんも、ぜひ自己肯定感を高められるように頑張ってほしいと思います」と生徒たちにメッセージを送られていました。

さらに、パラリンピックを紹介する映像も流され、その映像にはパラアスリートだけではなく、さまざまな障がい者（例えば、足の指でスティックを持ってドラムを叩くミュージシャンから、足の指で車や小型飛行機を操作する一般の人々まで）も登場していたことから、その映像を通して生徒たちは障がいを持つ人々の可能性についても学びました。

6　事業の様子




講演のタイトル「楽しい！車いす生活」

笑顔で生徒たちに語りかける花岡さん

花岡さんに質問する生徒

生徒から御礼の挨拶

生徒たちと記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 280 | 名 | 68.5 | % |
| ややそう思う | 121 | 名 | 29.6 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 1.7 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 240 | 名 | 58.7 | % |
| ややそう思う | 158 | 名 | 38.6 | % |
| あまりそう思わない | 10 | 名 | 2.4 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

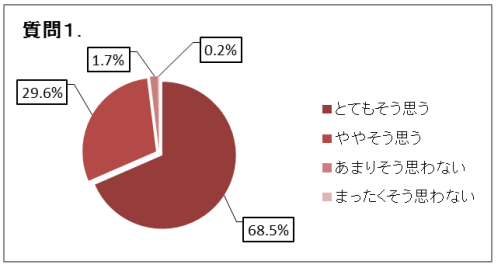
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 118 | 名 | 29.1 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 22 | 名 | 5.4 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 234 | 名 | 57.8 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 25 | 名 | 6.2 | % |
| 関心があまりない | 6 | 名 | 1.5 | % |

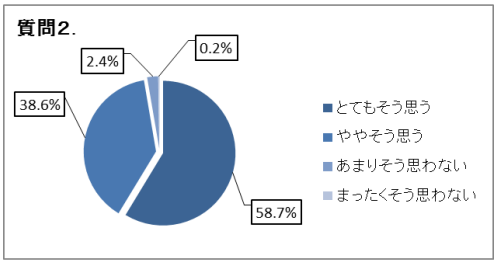
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

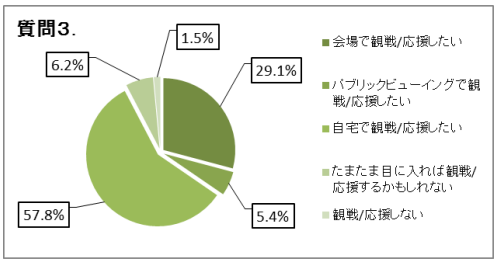
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 134 | 名 | 32.8 | % |
| ややそう思う | 228 | 名 | 55.7 | % |
| あまりそう思わない | 43 | 名 | 10.5 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 1.0 | % |

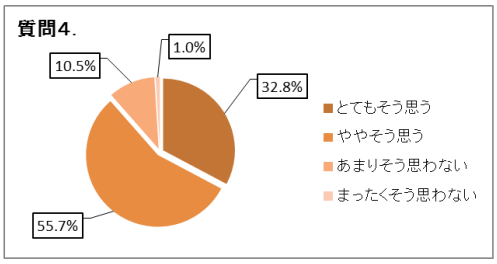
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

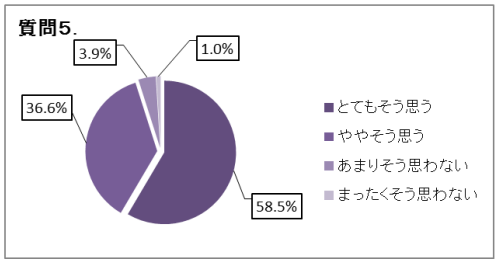
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 238 | 名 | 58.5 | % |
| ややそう思う | 149 | 名 | 36.6 | % |
| あまりそう思わない | 16 | 名 | 3.9 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 1.0 | % |



8　新聞掲載記事

講演の途中で、山鹿中の生徒にマイクを向ける花岡伸和さん＝山鹿市

車いすマラソン競技で活躍

## 花岡さん 山鹿中生に訴え

## 「成功は日々の積み重ねから」

パラリンピックの車いすマラソン競技で活躍した花岡伸和さん(40)＝千葉県在住＝が14日、山鹿市の山鹿中で講演し、生徒らに「成功には、日々の小さな積み重ねが欠かせない」と訴えた。

高校３年の時、バイク事故で脊髄を損傷。へそから下がまひした。花岡さんは「人に頼らず、ごはんを口に運んだ。できることは自分で。この小さな一歩が今につながっている」と振り返った。

2004年のアテネ大会で６位に入賞したが、４年後の北京大会は出場を逃した。「やめたら終わり」と競技を続け、12年のロンドン大会はアテネ大会を超える５位に入賞。「あきらめずに積み重ね続けたことで結果を残せた」と語った。

花岡さんは「失ったものを数えるな、残されたものを生かせ」という言葉を紹介。「障害者だけでなく、誰にでも当てはまる。自分の可能性を狭めず、好きなことに向かって歩んでほしい」とメッセージを送った。　（潮崎知博）

熊本日日新聞　平成 29（2017）年 2 月 21 日付　朝刊

## （１２）熊本県水俣市立袋小学校　事業報告

１　学校名：熊本県水俣市立袋小学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 21 日（火）

３　対象：全校児童 197 名

４　派遣オリンピアン：勅使川原郁恵さん（ショートトラックスピードスケート
長野・ソルトレイク・トリノオリンピック　出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 21 日に、長野オリンピック（1998 年）とソルトレイクオリンピック（2002 年）のショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターなどで活躍されている勅使川原郁恵さんを水俣市立袋小学校にお招きし、講演ならびに実技指導を行っていただきました。

講演ではまず、勅使川原さんの子供時代についてお話をされました。小学校時代は、毎朝約 1 時間のランニングを行ってから登校していたこと。そして、少しでも早くスケートの練習をしたくて、学校が終わってからも走って家まで帰っていたこと。そのような毎日の努力の積み重ねが実を結び、中学 2 年生のときには全日本選手権で優勝し、高校 1 年生からは 5 連覇を成し遂げたことなどが紹介されました。このような経験を踏まえながら、「努力を積み重ねることによって力がついていきますので、みんながいま頑張っていることをぜひ続けてほしいです」というメッセージを子供たちに送られていました。

また、「ショートトラックでは何キロスピードが出ると思いますか？」（答えは 100 キロ以下）や「トラックは 1 周何メートルだと思いますか？」（答えは 111 メートル）などと、質問を交えながらショートトラックスピードスケートについて理解を深めたり、「オリンピックは何年に 1 回開催されると思いますか？」などの質問を通して、オリンピックに対する子供たちの関心を高めたりしていきました。

質疑応答では、低学年の児童から「何回転びましたか？」という質問が出され、少し笑いながら「100 回以上かな」（子供たちからは「えー！」と驚きの声が上がる…）と答えた後、「でも転ぶことで強くなっていくので、みんなも勇気を持っていろいろなことにチャレンジしてほしいです」と述べられていました。また、特に印象的だったのは、「（ショートトラックスピードスケートをやっていて）楽しかったことは何ですか？」という質問に対して、「世界大会に出場すると、世界中の人たちと友達になれることです。だから、みんなもチャンスがあれば世界に行ってほしい」というメッセージを送られていました。まさに、オリンピック教育が子供たちの国際理解につながっていくことを実感する瞬間でもありました。

講演後は、ショートトラックスピードスケートの体勢をみんなでチャレンジしてみたり、色々な姿勢でウォーキングをしたりしながら実技指導を楽しみました。

6　事業の様子

子供時代のことを語る勅使川原さん

質疑応答ではたくさんの児童が手を挙げる

実技ではショートトラックの姿勢を紹介

みんなでウォーキングの練習

児童から御礼のあいさつ

全校児童と記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 57 | 名 | 64.0 | % |
| ややそう思う | 24 | 名 | 27.0 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 9.0 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**2. オリンピック・パラリンピックならびにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 59 | 名 | 66.3 | % |
| ややそう思う | 25 | 名 | 28.1 | % |
| あまりそう思わない | 5 | 名 | 5.6 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のおうえんについて、あなたはどのように考えていますか**

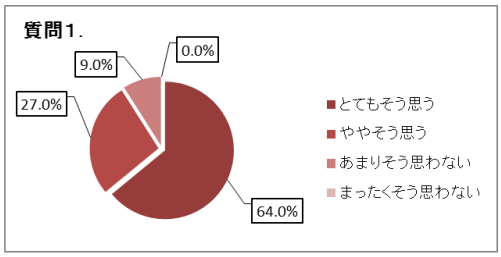
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場にいっておうえんしたい | 15 | 名 | 16.9 | % |
| スタジアムや広場の会場に用意された大きな画面を見て、みんなでおうえんしたい | 9 | 名 | 10.1 | % |
| 自分の家のテレビなどでおうえんしたい | 52 | 名 | 58.4 | % |
| テレビなどでたまたま見ることがあれば、おうえんするかもしれない | 13 | 名 | 14.6 | % |
| おうえんしない | 0 | 名 | 0.0 | % |

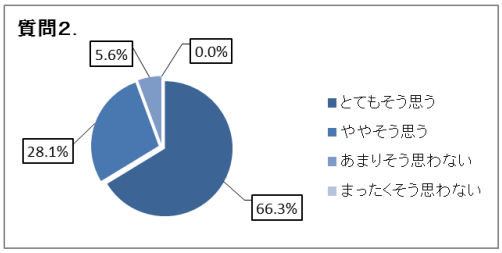
**4. これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思えましたか**

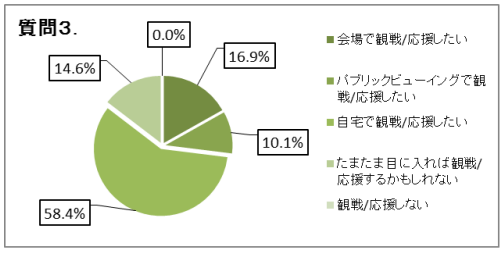
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 53 | 名 | 59.6 | % |
| ややそう思う | 30 | 名 | 33.7 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 6.7 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

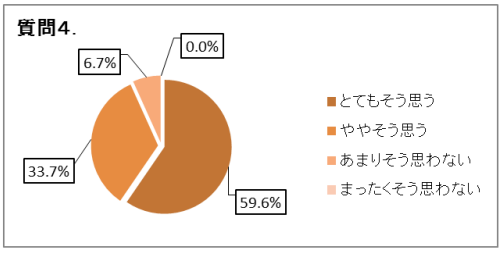
**5. スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちをつくったりすることができると思いますか**

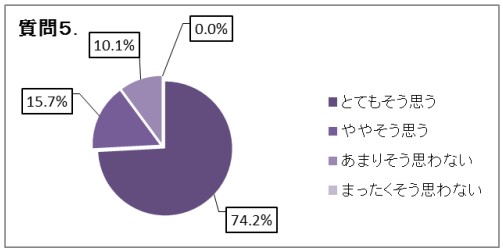
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 66 | 名 | 74.2 | % |
| ややそう思う | 14 | 名 | 15.7 | % |
| あまりそう思わない | 9 | 名 | 10.1 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |



## （１３）熊本県熊本市立長嶺中学校　事業報告

１　学校名：熊本県熊本市立長嶺中学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）

３　対象：1・2 年生 658 名

４　派遣オリンピアン：大谷佐知子さん（バレーボール　ロサンゼルスオリンピック銅メダル）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）、熊本市立長嶺中学校において、1・2 年生 658 名を対象に、ロサンゼルスオリンピック（1984 年）のバレーボールで銅メダルを獲得された大谷佐知子さんをお招きし、ご講演いただきました。

講演のはじめに、大谷さんの紹介映像として現役引退後に公立高校のバレーボール部の指導を行った際のドキュメンタリー映像が流されました。大谷さんの厳しい熱血指導に対して、生徒たちは戸惑いながらも、厳しさの裏にある優しさを感じ取っているようでした。

講演の最後には、どんなことでも良いから自分の好きなもの、「これだけは人に負けない」というものを見つけて、努力を重ねていけば、必ず夢は実現できると述べられました。

講演後には、各部活動の主将を集めて、バレーボールの実技指導をしていただきました。男女にわかれてそれぞれが 1 列になり、地面にボールを落とさないように男女で交互にパスを回していく実践をされました。この実践の中で、大谷さんはプレーをみればその人の性格がみえてくるというお話をされました。たとえば、飛び込めば拾えたかもしれないボールをすぐに諦める生徒に対しては、自分の格好ばかりを気にしていて、相手を思いやる気持ちに欠けているのではないか、と述べられました。また、一人のプレーを全員でカバーすることは、スポーツに限らず、人生において大切なことであるということを熱心に伝えられました。

生徒への事後アンケートでは、「ビデオでは鬼コーチという感じで少し怖かったのですが、今日、話している姿をみるとやさしさがあふれていて、ON と OFF の切り替えがしっかりしているんだなと思いました」、「男子ソフトテニス部のキャプテンとして、これからは、恥をかくことを恐れずにガムシャラに部活に取り組もうと思いました」、「私はまだそんなに夢を持っていないけれど、大谷さんのお話を聞いて『自分も早く夢を見つけて、それに向かってがんばっていきたい』と思いました」、「スポーツは、人と人とをつなぐことができるんだなと感じました」、「大谷さんのように約 1 年半の間に練習をぎっしり行い、日本代表になるということはできないかもしれないけど、身近にふれあえるスポーツで熱中できるものを見つけ、どんどん自分の趣味、特技の世界を広げていきたいです」、「相手のために自分から行動するということを学んで、自分はまだまだできていないと思いました。私は文化部だけど、自分から積極的に行動できることはたくさんあるので、部活や日々の生活に生かしていきたいです」といった記述がみられました。大谷さんの熱い思いが生徒たちにも伝わっているようでした。

6　事業の様子

大谷さん入場の様子

講演の様子

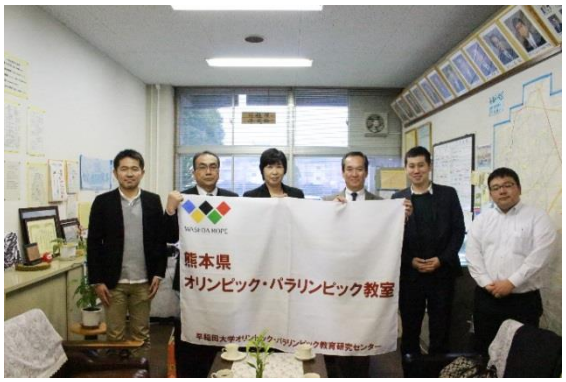
講演する大谷さん

各部活動の主将を集めての実技指導

各部活動主将によるバレーボールのパス回し

目標達成に向けて円陣を組む生徒たち

生徒代表によるお礼の言葉




校長室にて記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 308 | 名 | 54.4 | % |
| ややそう思う | 223 | 名 | 39.4 | % |
| あまりそう思わない | 23 | 名 | 4.1 | % |
| まったくそう思わない | 12 | 名 | 2.1 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 323 | 名 | 57.1 | % |
| ややそう思う | 209 | 名 | 36.9 | % |
| あまりそう思わない | 28 | 名 | 4.9 | % |
| まったくそう思わない | 6 | 名 | 1.1 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

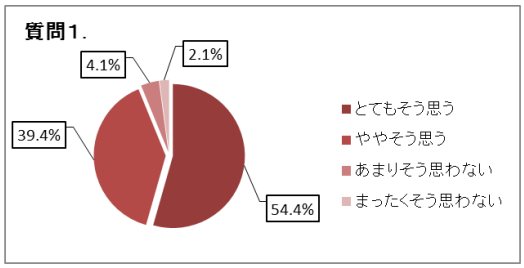
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 175 | 名 | 31.2 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 24 | 名 | 4.3 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 282 | 名 | 50.3 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 62 | 名 | 11.1 | % |
| 関心があまりない | 18 | 名 | 3.2 | % |

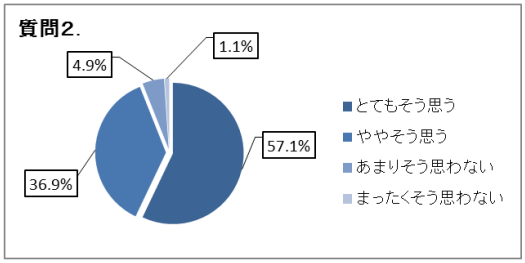
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

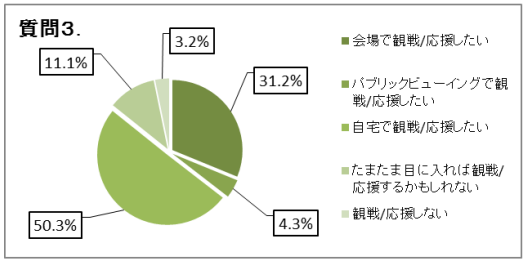
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 175 | 名 | 30.9 | % |
| ややそう思う | 284 | 名 | 50.2 | % |
| あまりそう思わない | 88 | 名 | 15.5 | % |
| まったくそう思わない | 19 | 名 | 3.4 | % |

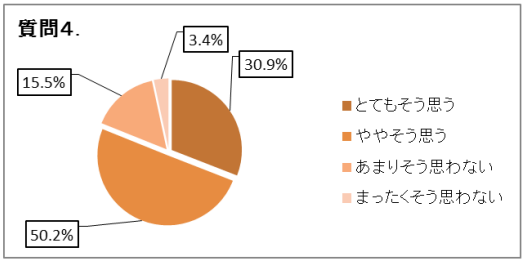
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

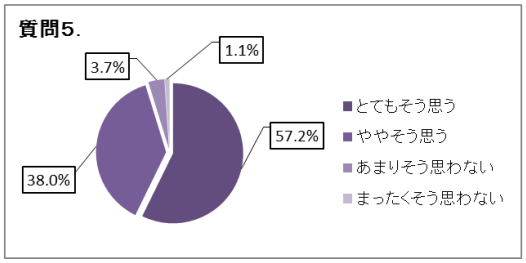
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 324 | 名 | 57.2 | % |
| ややそう思う | 215 | 名 | 38.0 | % |
| あまりそう思わない | 21 | 名 | 3.7 | % |
| まったくそう思わない | 6 | 名 | 1.1 | % |



## （１４）熊本県立鹿本高等学校　事業報告

１　学校名：熊本県立鹿本高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）

３　対象：全校生徒 472 名

４　派遣パラリンピアン：副島正純さん（車いすマラソン　アテネパラリンピック出場）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）に熊本県立鹿本高等学校にて、車いすマラソンでアテネパラリンピック（2004 年）に出場された副島正純さんが、全校生徒 472 名を対象にご講演されました。

副島さんは、23 歳のときに仕事中の事故で脊椎を損傷し、車いすでの生活となりました。怪我をした直後は、この先何を目標にどうやって生きていこうかと、毎日思い悩み苦しむ日々が続いたそうです。そんなとき、いつも家族が「絶対に大丈夫だから諦めないで」と支え続けてくれたおかげで、少しずつ現状を受け入れ、ここから新しい世界を見つけようと前向きになれたと話していただきました。

新しい人生のスタートとして車いすマラソンを始めましたが、仕事と練習の両立が非常に困難で、金銭的にも時間的にもハードな日々を送りました。そのような厳しい環境下でも、自分の好きなことを続けたいという強い思いと、自分で何とか生計を立てて暮らしていかなくてはならないという思いで、どんなに苦しくても車いすマラソンでパラリンピックに出場するという夢を追い続けました。副島さんが車いすマラソンを始めたころは、まだ世間ではパラスポーツが浸透しておらず、なかなか理解を示してもらえなかったそうです。そこで、自分が日本代表になって活躍し、世間の人々にもっとパラスポーツの存在を知ってほしい、そしてサポートしてもらえるような環境をつくっていきたいという新しい目標も持つようになったそうです。

そして並々ならぬ努力のおかげでアテネパラリンピックに出場したり、海外のレースで優勝したことで、メディアにもその活躍が取り上げられパラスポーツや障がい者について世間の人々に知ってもらう機会を作れたことが、すごく嬉しかったと話していただきました。車いすマラソンを始めたことで、自分自身に自信が持てるようになり、また、副島さんの活躍を見た子供たちから応援を受け取ることも増え、自分の存在意義もできました。障がい者でも、どのような人でも、誰かに何かを伝えることができるのだというお言葉は、多くの生徒たちの心に深く刻み込まれたようでした。パラリンピックという枠組みを超え、共生社会をいかに実現するかというメッセージをいただいたご講演でした。

6　事業の様子

講演の様子

初めてレース用の車いすを見た生徒が多く、皆興味津々の様子で話を聞いていました。

質疑応答の様子

花束贈呈

記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 343 | 名 | 74.1 | % |
| ややそう思う | 112 | 名 | 24.2 | % |
| あまりそう思わない | 7 | 名 | 1.5 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 326 | 名 | 70.4 | % |
| ややそう思う | 131 | 名 | 28.3 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 1.3 | % |
| まったくそう思わない | 0 | 名 | 0.0 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

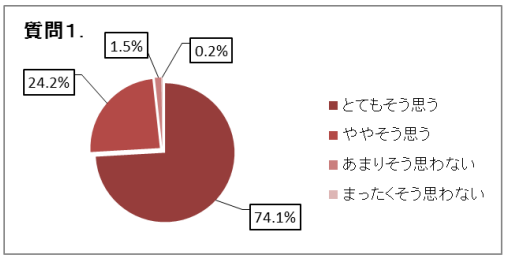
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 246 | 名 | 53.1 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 19 | 名 | 4.1 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 166 | 名 | 35.9 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 29 | 名 | 6.3 | % |
| 関心があまりない | 3 | 名 | 0.6 | % |

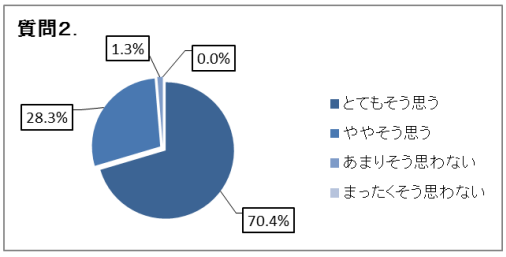
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

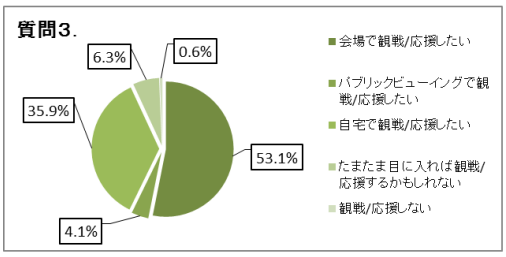
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 182 | 名 | 39.3 | % |
| ややそう思う | 250 | 名 | 54.0 | % |
| あまりそう思わない | 30 | 名 | 6.5 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |

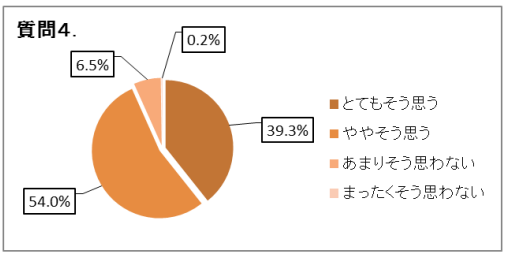
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

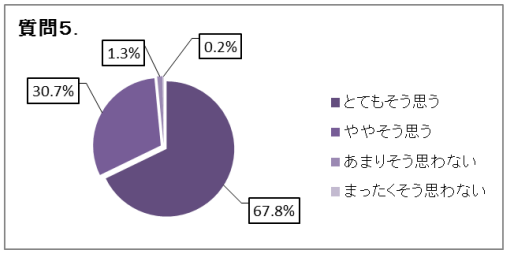
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 314 | 名 | 67.8 | % |
| ややそう思う | 142 | 名 | 30.7 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 1.3 | % |
| まったくそう思わない | 1 | 名 | 0.2 | % |



## （１５）熊本県立八代東高等学校　事業報告

１　学校名：熊本県立八代東高等学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）

３　対象：2 年生 280 名

４　派遣オリンピアン：勅使川原郁恵さん（ショートトラックスピードスケート
長野・ソルトレイク・トリノオリンピック　出場）

５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）に、熊本県立八代東高等学校にて、2 年生 280 名を対象とし、長野（1998 年）・ソルトレイク（2002 年）オリンピックのショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターや日本各地でウォーキングの指導を行うなど、様々な方面で精力的に活動されている勅使川原郁恵さんに「オリンピックをとおして学んだこと」という演題でご講演いただきました。

講演の冒頭では、ショートトラックの競技者は、下半身の筋肉が発達することやカーブ時には地面すれすれまで身体を傾けて滑るため、腹筋が斜めにつくこと等についてお話しされました。その後、勅使川原さんは、実際にステージに上がってカーブ時の姿勢を披露されました。地面すれすれまで身体を傾けた状態をキープする勅使川原さんに対して、生徒からは歓声があがりました。

講演の中盤は、勅使川原さんが生徒たちに質問を投げかけ、答えを聞きながら勅使川原さん自身の考えを生徒たちに伝えていく形ですすめられました。はじめに勅使川原さんは、生徒たちに「夢がある人はいますか？」と質問されました。そして、スケートが大好きであることを原動力に、様々な困難や苦しい練習を乗り越えて中学 2 年生の時に初めて日本選手権で優勝したという自身のエピソードについてお話しされ、「夢に向かって努力を続ければ良いことが必ずある」ということを生徒たちに伝えられました。続いて、「ライバルはいますか？」という質問をされた際には、「自分自身」をライバルにすることで、周囲の目が気にならなくなり、日本選手権の優勝を機に周囲から感じていた重圧をはねのけることができたというお話をされました。さらに、「今一番目標にしているテストや大会はありますか？」という質問を通して、試験や試合の当日にピークを持っていくためには、周到なスケジュール管理が必要となることを力説されました。

講演の最後には、競技引退前の段階で、引退後にはスポーツの魅力をより多くの人に伝えていくためにスポーツキャスターになるという夢をもっていたというお話をされました。そして、現在はその夢を実現し、さらに「健康」をキーワードに多くの資格取得に向けて努力を続けていると述べられました。生徒たちは、競技引退後も夢や目標の実現に向けて努力を続けられている勅使川原さんの姿に感銘を受けているようでした。

事後アンケートでは、「夢の実現に向けて、まずはスケジュール管理を徹底していきたい」、「平昌オリンピックでショートトラックを観てみようと思った」といった記述が多くみられ、勅使川原さんのお話が生徒たちの心に響いている様子が窺えました。

6　事業の様子

演題と講演の様子

講演の様子（ショートトラックのカーブ時の姿勢を披露する勅使川原さん）

勅使川原さんに質問する生徒

代表生徒によるお礼の言葉

花束贈呈

集合写真

元五輪選手の勅使川原さん

# 「夢持って挑戦を」

## 八代東高で講演

八代市の八代東高で22日、元スピードスケート・ショートトラック選手で長野五輪などに出場した勅使川原郁恵さん(38)＝岐阜県出身＝が講演し、夢と目標を持ち、頑張り続けることの大切さを伝えた。

国の東京オリンピック・パラリンピック推進教育ムーブメント事業の一環で1、2年の約270人が聞いた。

同高は普通科体育コースを中心にスポーツが盛んで、県の五輪強化指定選手（バドミントン）も4人いる。

勅使川原さんは長野、ソルトレーク、トリノの3五輪出場の経験を踏まえ、「自分自身に挑戦してきた。練習も勉強もやらされるのではなく、自分で納得してやることで身に着き、人間的にも成長できる」と述べた。

生徒からの質問には「負けたときは原因を見つめ直し、すぐに対処して」「緊張しないためにはイメージトレーニングが大事。深呼吸も試してみて」などと丁寧にアドバイスした。（平井智子）

▶競技に打ち込み、学んだことを話す元スピードスケート・ショートトラック五輪選手の勅使川原郁恵さん＝八代市

熊本日日新聞　平成 29（2017）年 2 月 24 日付　朝刊

## （１６）熊本県玉名郡南関町立南関中学校　事業報告

１　学校名：熊本県玉名郡南関町立南関中学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 23 日（木）

３　対象：全校生徒 226 名

４　派遣オリンピアン：山本洋祐さん（柔道：ソウルオリンピック　銅メダル）

５　事業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 23 日（木）に南関町立南関中学校にて、柔道でソウルオリンピック（1988 年）に出場された山本洋祐さんが、全校生徒 226 名を対象に、「人間力を高めるには」というテーマでご講演されました。

山本さんは冒頭で、「人間力なくして競技力向上はない」と話されましたが、このような考えに至るまでには多くの時間を要したそうです。中学校時代は、やらされて柔道の練習をしていることが多かったのですが、高校に進学すると自分で練習メニューを考えるという学校だったため、そこから自分で考える柔道をするようになりました。負担もあったそうですが、この積み重ねのおかげで大学に進学したときには、すでに自分で自分の状態を知り不足部分を補うような練習を考える基礎が身についていたため、練習についていけず退部する人がいた中でも耐え抜くことができたと話していただきました。

大学生のとき、ロサンゼルスオリンピックに出場するチャンスを掴んだものの、補欠となり出場する選手を見守ることしかできなかったときは、大変悔しい思いをしたそうです。その後は、それまで以上に自分を見つめ直し、自分に打ち勝つよう練習を積み重ねた結果、ソウルオリンピックで銅メダルを獲得されました。自分の立てた目標に向かって努力し、達成することが、みなさんにとっての金メダルだというメッセージもいただき、生徒からは、早速自分の考え方や生活習慣を見直そうと思ったという感想を聞くことができました。

実技では、柔道部員 4 名に技の指導をしていただきました。部員の中には、まだ中学生になってから柔道を始めたばかりの生徒もいましたが、生徒の実態に合わせて基礎を丁寧に説明していただきました。また、生徒からの「背負投げをしてほしい」というリクエストに応え、背負投げを披露していただきました。オリンピック出場選手の迫力ある技を目の前で見ることができ、この講演で一番の大歓声が沸き起こりました。

中学生という発達段階は、どんなことでも大きく成長できる可能性を秘めており、一番伸びる時期でもあるので、試行錯誤しながら有意義な日々を送ってほしいというメッセージは、実技に参加していない他の多くの生徒の心にも残ったようでした。

６　事業の様子

講演の様子

実技の様子（柔道を始めたばかりの部員もいましたが、丁寧に技の指導をしていただきました）

花束贈呈　　記念撮影

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 102 | 名 | 47.9 | % |
| ややそう思う | 96 | 名 | 45.1 | % |
| あまりそう思わない | 12 | 名 | 5.6 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 1.4 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 90 | 名 | 42.3 | % |
| ややそう思う | 105 | 名 | 49.3 | % |
| あまりそう思わない | 15 | 名 | 7.0 | % |
| まったくそう思わない | 3 | 名 | 1.4 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

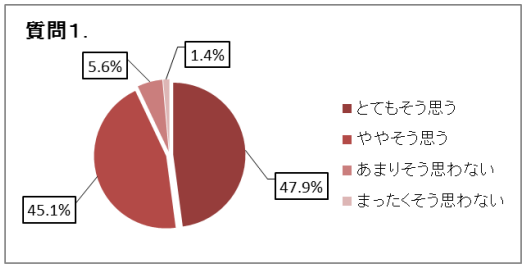
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 70 | 名 | 32.9 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 5 | 名 | 2.3 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 91 | 名 | 42.7 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 40 | 名 | 18.8 | % |
| 関心があまりない | 7 | 名 | 3.3 | % |

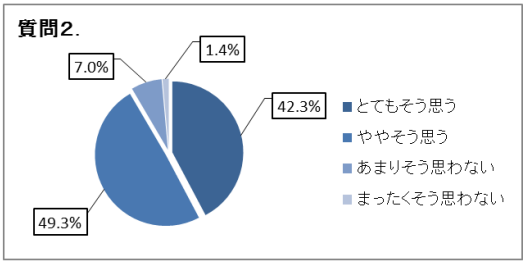
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

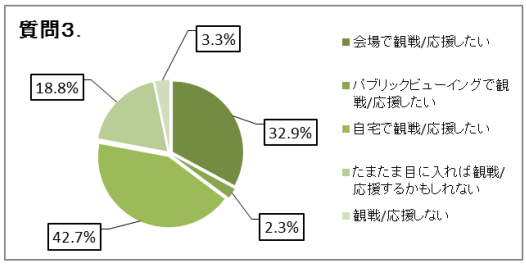
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 65 | 名 | 30.7 | % |
| ややそう思う | 95 | 名 | 44.8 | % |
| あまりそう思わない | 46 | 名 | 21.7 | % |
| まったくそう思わない | 6 | 名 | 2.8 | % |

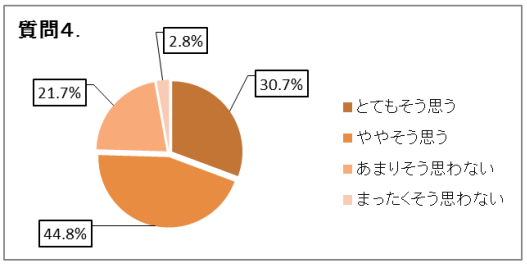
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

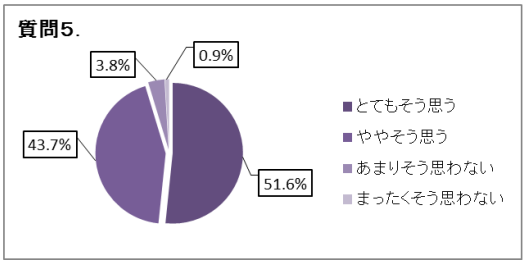
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 110 | 名 | 51.6 | % |
| ややそう思う | 93 | 名 | 43.7 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 3.8 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.9 | % |



## （１７）熊本県天草市立本渡中学校　事業報告

１　学校名　：熊本県天草市立本渡中学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 2 月 23 日（木）

３　対象：2 年生 262 名

４　派遣オリンピアン：秋山エリカさん（新体操　ロサンゼルス・ソウルオリンピック出場）

５　事業内容：講演

2017（平成 29）年 2 月 23 日（木）に、天草市立本渡中学校にて、2 年生 262 名を対象とし、ロサンゼルス（1984 年）・ソウル（1988 年）オリンピックに新体操競技の代表として出場された秋山エリカさんをお招きし、ご講演いただきました。

講演では、「新体操に学ぶ」というテーマで、幼少期に運動が大の苦手であった秋山さんが、新体操競技でオリンピックに出場するまでの過程や、その際に学んだことなどについてお話しされました。

はじめに、秋山さんによる新体操の模範演技がなされました。秋山さんは、新体操の種目である、ロープ、フープ、クラブ、ボール、リボンを順に披露されました。初めて新体操の演技を生でみる生徒たちからは、大きな歓声があがりました。

模範演技の後には、秋山さんがオリンピックに出場するまでのエピソードについてお話しされました。秋山さんは、幼少期に、怪我のリハビリを兼ねてバレエを習い始め、中学時代からは器械体操にも取り組むようになり、高校入学後、器械体操から新体操に転向したといいます。

高校時代の秋山さんは、何度も新体操をやめたいと思いながらも、指導者に「やめたい」と言い出せずに、大会に出場するようになったといいます。そして、出場した大会では、何度も失敗を繰り返し、「ミス秋山」というニックネームを付けられていたようです。さらに新体操が嫌いになっていった秋山さんは、高校 3 年の最後の大会でノーミスの演技をして、競技を引退しようと考えていたそうです。結局、最後の大会では、フープを観客席に投げてしまい、大失敗に終わってしまったといいます。

しかし、秋山さんは、この大失敗によって、一度で良いからノーミスの演技がしたい、と強く思ったそうです。そこで、秋山さんは、東京女子体育大学入学後にも新体操を続けることになったといいます。そして、大学 1 年のとき、幼少期に習っていたバレエで身につけた美しい動きが評価されて、130 名中 6 名しか選ばれないレギュラーの座を獲得し、その後出場した競技会で、初めてノーミスで演技を終え、結果、秋山さんは、無名の選手でありながらも優勝したそうです。この優勝を機に秋山さんは日本代表に選ばれ、オリンピックへの出場を果たしたといいます。これらの経験から、「失敗」は、普通は嫌なことであるけれど、長い目で見ると良いこともある、ということに気づいたといいます。そして、「失敗」することを恐れず、気にせず、むしろ「失敗」に感謝することでより大きな成功をつかめるのではないかとお話しされました。

事後アンケートに記入された生徒たちの自由記述からは、「失敗」を恐れずに挑戦することの大切さについて学び取った様子が窺えました。

6　事業の様子

講演する秋山さん

ロープの演技披露

フープの演技披露

クラブの演技披露

ボールの演技披露

リボンの演技披露

生徒代表によるお礼の言葉

集合写真

## 7　事業後アンケート集計結果

**1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 125 | 名 | 51.9 | % |
| ややそう思う | 103 | 名 | 42.7 | % |
| あまりそう思わない | 8 | 名 | 3.3 | % |
| まったくそう思わない | 5 | 名 | 2.1 | % |

**2. オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 110 | 名 | 45.6 | % |
| ややそう思う | 117 | 名 | 48.5 | % |
| あまりそう思わない | 12 | 名 | 5.0 | % |
| まったくそう思わない | 2 | 名 | 0.8 | % |

**3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか**

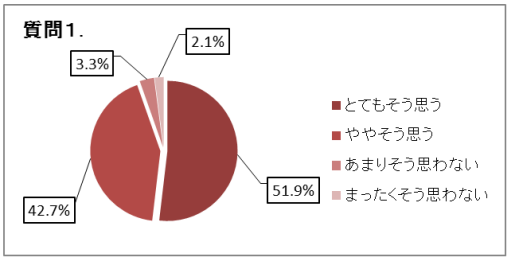
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 試合会場に行って観戦したい | 109 | 名 | 46.0 | % |
| パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい | 1 | 名 | 0.4 | % |
| 自宅のテレビなどで観戦したい | 89 | 名 | 37.6 | % |
| テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない | 31 | 名 | 13.1 | % |
| 関心があまりない | 7 | 名 | 3.0 | % |

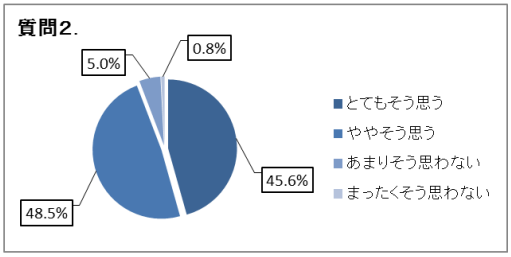
**4. 障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか**

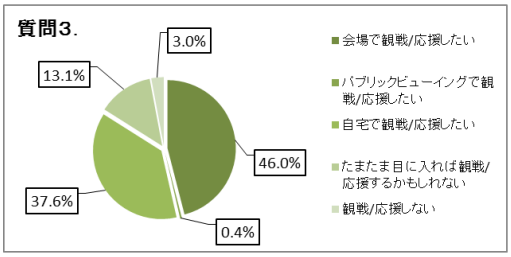
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 53 | 名 | 22.1 | % |
| ややそう思う | 132 | 名 | 55.0 | % |
| あまりそう思わない | 49 | 名 | 20.4 | % |
| まったくそう思わない | 6 | 名 | 2.5 | % |

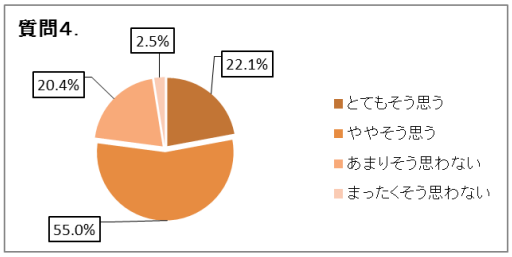
**5. スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか**

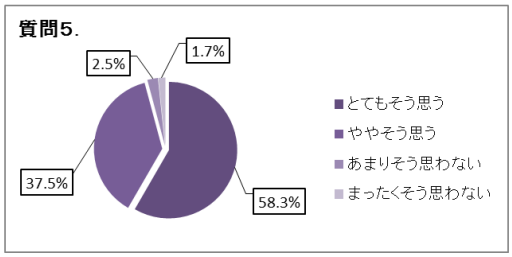
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| とてもそう思う | 140 | 名 | 58.3 | % |
| ややそう思う | 90 | 名 | 37.5 | % |
| あまりそう思わない | 6 | 名 | 2.5 | % |
| まったくそう思わない | 4 | 名 | 1.7 | % |



## （１８）熊本県立盲学校　事業報告

１　学校名：熊本県立盲学校

２　実施日時：2017（平成 29）年 3 月 3 日（金）

３　対象：小学部 6 名・中学部 4 名・高等部 1 名　計 11 名

４　派遣パラリンピアン：ゴールボール日本代表選手 2 名
小宮正江さん（アテネパラリンピック　銅メダル､ロンドンパラリンピック　金メダル）
浦田理恵さん（ロンドンパラリンピック　金メダル）

５　事業内容：講演・実技

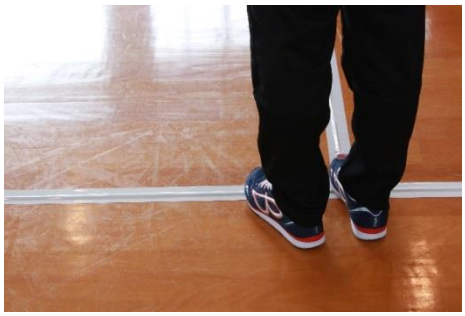
2017（平成 29）年 3 月 3 日（金）に、熊本県立盲学校にて、ゴールボールの日本代表であり、パラリンピックに 4 大会（アテネ：2004 年、北京：2008 年、ロンドン：2012 年、リオデジャネイロ：2016 年）連続出場し、アテネパラリンピックで銅メダル、ロンドンパラリンピックで金メダルを獲得された小宮正江さんと、3 大会（北京、ロンドン、リオデジャネイロ）連続出場し、ロンドンパラリンピックで金メダルを獲得された浦田理恵さんをお招きし、ご講演と実技指導を行っていただきました。

講演では、小宮さん、浦田さん、そして講演を聴くすべての児童・生徒の自己紹介の後、ゴールボールのルールなどの説明のほか、お二人がゴールボールをはじめたきっかけやゴールボールをする中で経験したことなどについてお話しいただきました。特に浦田さんにとっては 20 歳で視力を失って以来、自分にはできないことばかりだと限界を決めていた日々が続いたそうです。しかし、そうした日々の中で、学校の先生に「目が見えなくてできないことを探すのではなく、できることをたくさん見つけたらとても楽しくなるよ！」と言われたことが転機となり、失敗してもいいから挑戦してみようと思えるようになったと言います。そしてこの時、テレビで小宮さんが活躍するパラリンピックのゴールボール競技を視聴したことで、目が見えなくてもできることへの可能性を感じ、強く憧れを抱いたことがゴールボールをはじめたきっかけだったとお話しされました。

浦田さんは、このように見えないからこそできるスポーツに出会えたことを、神様からのごほうびだと思うと語り、壁にぶつかった時こそ成長の機会になると信じて笑顔で乗り切ることが大事だと児童・生徒にメッセージを送られました。また小宮さんは､「やってやれないことはない、やらずにできるわけがない」という言葉を紹介され、ご自身もこの言葉を胸に常に目標や夢を持ちながら、失敗から学ぶ姿勢を大切にしているとお話しされました。そして最後には、失敗してもいいからまずは一歩踏み出すこと、そして何回も何回も失敗する中でうまくいかない時には周りに助けを求めて良いから、まずは色んなことに挑戦してみて欲しいと力強く児童・生徒に語りかけられました。

６　事業の様子

「夢への挑戦」をテーマに、挑戦することの大切さや、挑戦してきたことで得ることができた素晴らしい経験などについてお話しされた小宮さんと浦田さん。お二人の力強いメッセージは、講演を聴く児童・生徒にきっと大きな夢や希望を持たせたものと思います。



実技指導では、ゴールボールのコートラインの下に通してある紐を手や足で触りながら自分の位置を把握すること、ディフェンスでは全身を大きく使ってゴールを守ることなど、ルールや大事なポイントなどについて、丁寧にご指導くださいました。

実技指導の後半では、児童・生徒同士で試合を行いました。全員ゴールボールは初めてでしたが、お互いにコミュニケーションをとりながら必死にゴールを守る様子がとても印象的でした。また、中学部・高等部ともなると、ボールにも勢いがあり、さながら本物の選手の試合のような迫力がありました。

代表で挨拶をした生徒は、お二人のお話を踏まえ、自分の持つ夢について語ってくれました。また、集合写真では全員の笑顔がとても輝いており、児童・生徒にとって良い事業になったことが窺えました。

## 資料　推進校実施アンケート自由記述（抜粋）

### （1）小学校実施アンケート自由記述抜粋（50 件）

※オリンピアン・パラリンピアンの個人名は【オリンピアン】または【パラリンピアン】として伏せてあります。

| |
|---|
| やりたいことがやれないつらさが分かった。今日、講演会で話をしてもらって、自由にいろいろな事がやれなかったりする人もいるので、体を動かせることに感謝しようと思った。 |
| みんな挫折してもそれを乗り越えて成功しているんだなと思った。僕も挫折しても諦めないで頑張りたいと思った。 |
| 今日のお話を聞いて、諦めないことで自信がついて夢に一歩ずつ近づけるんだなぁと思いました。【オリンピアン】が言っていたように、夢は心の中で思っているのではなく、紙などに書いて夢に一歩近づこうと思います。走るときの注意点を次の持久走などでやってみようと思います。 |
| オリンピックに出場するために、たくさんの努力や苦労があったんだなぁと知り、すごいなぁと思いました。「強い精神」があってこそのものだと、改めて感じられました。 |
| 人の話を聞く授業があまりなかったりするので、すごくよかったです。パラリンピックの話だけではなくて、自分の人生のことも語ってくださったので、わかりやすかったです。ぼくは、もし車いすの生活と言われたら、話に出たように絶望すると思います。でも、そこから立ち上がってしかもパラリンピックの選手になるのはすごいと思いました。 |
| 今日の話を聞いてとても勉強になりました。「ありがとう」の反対の意味は「当たり前」などの言葉を教えてくださってありがとうございました。【パラリンピアン】の技を目の前で見てとてもすごいと思いました。銀メダルを触ってとても重いのがわかりました。 |
| 自分が障がい者になった気持ちで話を聞くことが出来た。もっとオリンピック、パラリンピックの選手がどのような気持ち、過去で出場しているのかを知りたい。障がい者の気持ちも少しは分かったと思う。 |
| 諦めない心が大切であると思った。自分はスポーツをしており、元々パラリンピックにも興味があった。そして今回のお話を聞いてさらに興味が高まった。 |
| 自分で努力するということで夢は叶うということがわかりました。栄養や食事もトレーニングと聞いてびっくりしました。リオオリンピックでは長距離の人の走りを見て感動しました。東京オリンピックでは会場で見たいと思います。 |
| 小さい時からの夢をつらくても諦めないで、努力して夢を叶えることができて、すごいと思いました。自分も夢を諦めないで努力できるようにしたいです。 |
| 丁寧に説明していただいてわかりやすかった。【パラリンピアン】の話を聞いて、車いすに乗っている人や障がいを持った人がすごい努力をしていることが分かった。だからこそ、その人たちを励ましたり、力を貸してあげたりしなくてはならないと思った。 |
| 2020 年は普段見られない競技にも注目をして観戦したい。どんな夢を持ったとしても、失敗を恐れず諦めないで追い続けようと思いました。 |

| |
|---|
| 僕は目が見えるのは当たり前だと思っていたけど、【パラリンピアン】のお話を聞いて、当たり前なんかじゃないし、幸せなんだと、改めて思いました。 |
| 「諦める」ではなく、「受け入れる」という言葉が心に残った。これからの人生の中で起こることを「受け入れて」いきたい。 |
| 車いすになってしまったのに人生を前向きに生きていけることがすごいと思った。マラソン用の車いすは曲がるのも難しそうだったけど、これで毎回走っていると思うと、すごいと思った。 |
| 剣道をやっているので【オリンピアン】の気持ちがよく分かりました。これからも相手に勝つことではなく、自分の気持ちに勝つことをがんばりたいです。 |
| 【パラリンピアン】は、自分が好きなことは上手になりたいと思えるから、毎日練習して、成長するんだなと思いました。目が不自由でも、支えてくれる家族や相手がいるから柔道ができるとおっしゃっていたので、何事も当たり前と思わずに、今学校に行くことができるのも、私が好きなダンスができるのも「ありがとう」なんだなと、改めて実感しました。ダンスをやめたいと思う大きな壁も、家族、友達、色々な人に支えられて乗り越えられたので、これからも好きなことを頑張っていきたいです。 |
| 私は、すぐ諦めたり、最後までやり通さないことがあるので、選手の事を見習って、諦めないことを大切にしようと思いました。 |
| オリンピックに出場された方からお話が聞けて楽しかった。同じスポーツをしているので、毎日できることを考えて行動していきたいと思った。今日のことは忘れずにしたい。 |
| 【オリンピアン】は諦めない気持ちを持つといっていました。将来バスケ選手になるために諦めない気持ちを大切にし、忘れないようにしたいです。 |
| まず小さいことからたくさん努力してオリンピック出場の夢が叶ってすごいと思いました。食事管理もちゃんとやっていきたいです。とても勉強になりました。 |
| 「努力すれば必ず夢はかなう」という大切なことを教えてくれました。朝練や、勉強などを頑張っていたんだなぁと思いました。 |
| すごくいい話が聞けて良かったです。絶対に触ることがないメダルを触ることもできてよかったです。【パラリンピアン】が言っていた「ありがとう」の反対は「当たり前」という言葉がとても心に残りました。いつも当たり前だと思っていることをありがとうに変えていきたいと思いました。 |
| 話をきけて本当によかった。スポーツには関心がなかったけど、スポーツは苦手でも応援することはできると思いました。 |
| 今日は、楽に走れる方法などが分かったので、ちょっと走るのが好きになりました。これから長距離を走る機会があったら、今日のことを生かして楽しく走りたいです。 |
| 私は、すぐに諦めてやる気をなくしていくタイプだけど、【パラリンピアン】の話を聞いて、変わりたいと思いました。 |
| 長距離を走るときは空き缶を踏むつもりで足の裏全体で地面を踏むということがわかってよかったです。早く、今日習ったやり方で運動場を走りたいです。 |

| |
|---|
| とてもいい体験ができたので良かった。オリンピック、パラリンピックの選手と会ったことが初めてだったので、とても楽しみで、競技用の車いすは体験できなかったけど、とても大変なことをしているのだと思いました。 |
| 【パラリンピアン】はレーベル病で目が不自由になり、私はそれを嫌がっているのかなと思っていたけれど、【パラリンピアン】は「逆に目が悪くなったおかげで、友達と一緒にいたりするのはあたりまえではなく、ありがとうだということがわかりました」とおっしゃっていました。そして、周りの人がいるからこそ、自分ももっともっと成長できること、周りの人を大切にすること、自分が好きなことを一生懸命するということを知り、とても納得しました。 |
| パラリンピックに対しての関心が深まって、とてもいい授業だったと思います。できるなら、オリンピック･パラリンピックを試合会場に行って直接応援したいとも思いました。今日の授業で学んだことを、今後の生活にも生かしていきたいです。 |
| 僕もプロ野球選手になるという夢があるので、【オリンピアン】のように僕も頑張りたいです。 |
| 私は失敗した時すぐにやめてしまいます。だけど今日のお話を聞いて失敗しても頑張ってみようかなと思えました。 |
| どんなに辛いことがあっても、諦めずに夢を持ち続けることが大切だと思った。東京オリンピック・パラリンピックは、必ず応援に行きたい。 |
| 足を自由に動かせなくなって、心に深い傷を負ったのに、車いす生活を自分の短所ではなく長所として受け止めて目標などを達成するために頑張っているのがすごいと思った。障がいを持っても自分の未来は切り開けるんだと思った。 |
| スポーツは苦手だけど、障がい者と一緒にスポーツをしたいと思いました。私も諦めないでがんばろうと思います。 |
| オリンピック･パラリンピックには私はあまり興味がなかったのですが、今日の話を聞いて、東京である時はテレビなどで見てみようと思いました。【パラリンピアン】の技もすごかったし、楽しかったです。障がいを持っている人は運動できないと思っていたけど、【パラリンピアン】の話を聞いてイメージが変わりました。今日の講話を聞けて良かったです。 |
| 夢をコツコツ叶えていくという言葉が素敵だなと思いました。私もコツコツ頑張って【オリンピアン】のような大人になりたいです。 |
| スポーツは笑顔になれるものだと思いました。 |
| 有名な選手と会う機会なんてめったにないので、今日は貴重な体験になりました。どんなに難しいことがあっても諦めずにいきたい。 |
| 夢を諦めなければ、何でもできることが心に残りました。私は、障がい者も一緒にスポーツをして仲が良くなる場が作れればいいなと思いました。 |

| |
|---|
| 【オリンピアン】はとてもすごいなと思いました。どんなに苦しくてもどんなに困難でも弱音をはかないで乗り越えられてすごいなと思いました。そして宮城の高校に家族とはなれて寮生活ができてすごいと思います。私には夢があります、その夢を絶対に諦めないという精神は前からあったのですが、今日のことでもっと強くなりました。【オリンピアン】のように世界で活躍できる大人になりたいです。これからも夢を諦めずに、実現させようと思います。 |
| スポーツに対してあまり興味がなかったけどお話を聞いて興味がわきました。スポーツはただ体を強くするんじゃなく心も強くなることを知りました。東京オリンピックはテレビで家族と一緒に応援したい。 |
| この授業を受けて、努力することと、協力することが大切ということがわかりました。今日触った銀メダルの感覚は忘れられないと思います。仲間がいないと大変だし、できないことがあるとわかり、私もこれからは、困っている人などを助けていけたらいいなあと思います。友達の大切さをずっと覚えておきたいと思います。 |
| 今日の授業で、私は、努力をすることと好きなことを続ける大切さを学びました。それに、応援してくれる家族や友達などを大切にしていきたいと思いました。【パラリンピアン】は高校から柔道を始めたのに、こんなに強くなっているので、本当に努力は大切だと思いました。今日学んだことを活かしていきたいです。 |
| スポーツの厳しさ、オリンピックの辛さを学びました。だけどいつかオリンピックの舞台を経験したいと思いました。オリンピックを目指し頑張りたいと思います。 |
| やっぱり、スポーツは色々な人の支え合いなどで成り立っているのだと思いました。とても迫力のある実演は見ごたえがあり、あんなすごいのを生で見れてとても良かったと思います。 |
| 障がいを抱えてからも夢を持ちチャレンジし続けたことをすごいと思った。諦めるのではなく受け入れることで新たな希望が見えたということは大きな勉強になった。 |
| スポーツには体の管理も必要だということがわかりました。これからスポーツをする時は体調管理もしっかりしていきたいと思いました。 |
| サッカーのプロになりたいという夢があってこそ、夢がかなうんだなと思いました。私もパティシエになりたい夢がかなうと良いです。 |
| 【パラリンピアン】の話を聞いて、人々に夢を与えられるのはすてきだなと思いました。だから私も人々に夢を与えられるような人になれたらいいなと思います。 |

（２）中学校実施アンケート自由記述抜粋（50 件）

※オリンピアン・パラリンピアンの個人名は【オリンピアン】または【パラリンピアン】として伏せてあります。

| |
|---|
| 私はバレーボールをしていて、走ったりすることがあります。でも、きついと思ったら、諦めてしまったり、ペースを落として先輩たちについていけないときもあります。でも、今日お話を聞いて、自分を信じることの大切さや、チャンスは自分で決めるということも学びました。あとちょっと頑張ろうと思って取り組む気持ちが大事だと知ったので、あと 1 周ついていこうと思い、最後まで諦めずに頑張ろうと思いました。 |
| 辛い事故であったはずなのにずっと笑顔でお話をしていて凄く勇気づけられたし、オリンピック、パラリンピックへの関心が高まった。大好きなことができなくなるのはつらいことだけど、それと向きあい前向きに物事を考える【パラリンピアン】は凄い人だと思った。 |
| 障がい者は生きる希望を持ち、前向きに生きていることについて今日は深く考えることができました。障がい者の競技用の車いすを自分の目で見ることができて良かった。 |
| 自分自身を信じるということが大切だとわかった。緊張してもいいと教えていただいた。これからは失敗を恐れずに自分の限界以上に頑張っていこうと思った。 |
| 障がい者だから、あれもできない、これもできないとなるのではなく、障がい者だからこそできることがあるんだなと感じました。手も足も私は自由に動かすことが出来るので、障がい者のできないをできるに変えてあげられるような人になっていきたいと思いました。 |
| 失敗後の考え方によってただの失敗に終わるか成功の糧にすることができるかに分かれるとわかった。失敗を役立てていきたいと思った。 |
| パラリンピックのメダルは音が鳴ったり、点字があったりしてとてもびっくりした。 |
| 私は 800m を走りました。スタートのとき、すごく緊張していました。【オリンピアン】の話を聞いて、みんなも緊張しているということをおっしゃってくれたので、色々な場所で緊張したときは、みんな一緒だと思い、自分の精一杯の力を出したいと思いました。走っているときなど、勝手に自分の限界をつくらないようにしたいです。 |
| 私もよく「できないことさがし」をしてしまうので「できることさがし」をしてもう少し自分に自信をもってチャレンジしたいなあとおもいました。【パラリンピアン】のように頑張っている姿を見ると、自分も頑張れる！と思いました。 |
| 障がい者スポーツをテレビであまり見たことがなかったけど、今日のお話をきいて、みてみたいと思ったし、障がいをもっている方への見方が変わったので、障がいをもっている方が困っていたら助けあって生活をしていかなければいけないと思いました。 |
| 自分自身を受け入れるのが大切だなと思いました。私はよくネガティブな考え方をしてしまいます。例えば、運動でも勉強でも「どうせ私は～」という考え方ばかりしてしまいます。でも、今日の【オリンピアン】の講話を聞き、「私はこうだから、それなりに頑張ろう！」と思えるようになりました。私は今、水泳部の中で遅いほうです。でも、それなりに頑張り、自分にあった成功の道を歩みたいなと思いました。ポジティブに頑張ります！ |

| |
|---|
| 今までは、主にオリンピックを見ていたけれど、今日の授業で、障がいがあってもスポーツに命をかける姿を見てみたいと思いました。今まで関心が少なかったパラリンピックも2020年は絶対に見ようと思いました。 |
| 僕も、これから傷ついたりすることがあっても、自分ができることをやって、自分の進む道をしっかりと決めていきたいと思いました。そして、2020年のオリンピック･パラリンピックはテレビなどで見たいと思いました。 |
| 障がいのある人でもスポーツができると分かった。そのような人ともスポーツを通して仲よくなりたい。 |
| オリンピック・パラリンピックに興味がわいてきた。障がいがあっても全力で取り組み、自ら行動する人たちがとても格好良かった。 |
| 「～になりたい」ではなく「～になる」という強い目標を見つけようと思った。【オリンピアン】の「できる、できないじゃない。行動することが大事」という言葉にものすごく感動しました。これからはまずやってみるという考え方で生活していきたいと思います。 |
| たとえ、何かを失ったとしても、残されたものを大切にして頑張るなど、努力の大切さを学ぶことができた。自分もスポーツをしているので、あまりうまくいかないことも諦めずにがんばろうと思った。 |
| パラリンピックに対する関心があまりありませんでしたが、今回の授業で障がい者に対しての見方が良い意味で変わり、パラリンピックへの関心が高まりました。自分の夢を諦めず、「出来ること探し」をして頑張りたいです。 |
| 過去の体験などの話を聞き、自分一人では生きていけないことが分かった。周りの人の支えがあって今の自分がいるのだから周りの人を大切にしていきたいと思いました。挫折があっても、前を向いて今の出来ることを全力でやることが大事だということが分かりました。この授業で学んだことを進路や今後の生活に活かして【パラリンピアン】のように前向きで元気な人になりたいと思います。 |
| 今までなんとなくしか知らなかったパラリンピックのことについて知ることができ、とてもよかった。これから、テレビなどを通して、障がい者スポーツに関心をもち、もっと自分の知らない世界にふれていきたいと思います。体験型だったことで、見るだけではわからない難しさや、楽しさをやってみた人の表情などからも感じとることができ良い経験となりました。 |
| 率直に、前向きに考えることが大切なのだと思いました。【パラリンピアン】のお話はどれも前に進むことや明るいことでした。そして、物事をいい方向にすることが大切でした。だから、私も前向きに物事を考えていきたいです。 |
| 失敗についての話に自分も共感できた。チャンスは自分で作るという言葉に、自分ではできなかった発想があり、とても勉強になった。 |
| オリンピックなどはたくさんテレビにでているけど、パラリンピックは、詳しく知らなかったので、話を聞いたり、体験することでパラリンピックへの関心が高まるのでこれからもほかの学校でも授業をしてほしいと思いました。 |

| |
|---|
| オリンピック・パラリンピックの会場の様子や選手村を知ることができて良かった。 |
| 「障がい者」という言葉はあまりプラスのイメージがなかったけど、【パラリンピアン】の話を聞いて私よりも自信や勇気に満ち溢れていて人間的に豊かだと感じました。また、出来ないことよりも出来ることをたくさん考えていきたいです。これからは前に進むことを恐れずに進んでいきます。 |
| チャンスは掴むものではなく自分で決めるという言葉が一番心に残った。 |
| 人生のどん底におちても、諦めずに希望をもって前向きにスポーツをやっていてすごいと思いました。「諦めない」ということの大切さをあらためてわかりました。夢はまだ決まっていないけど、たくさんの人とかかわって、本当にやりたいことを見つけて、諦めずに挑戦していきたいです。 |
| 私も小学校 2 年の頃から水泳を始め途中でやめようと思ったことがたくさんあります。しかし、辞めずに続けたことで初めての時から 68 秒もタイムを縮めることができました。今回の話を聞いて共感できる部分がたくさんありました。また、挑戦し続けることの大切さを改めて感じることができました。私も、挑戦し続け、夢を持ちたいと思いました。 |
| 生きていく中で困難なことがあっても、今自分にできることをし、1 つ 1 つの積み重ねによって夢や目標に向かって歩んでいくことを学びました。 |
| 努力の素晴らしさを改めて実感できたような気がした。また、受験に向けて焦っている今の僕にも通じる言葉があり、モチベーションがあがった。 |
| 今回のことで、障がいがある人だからといって甘くみる人もいます。この講演会で、人はこんなにも強くなれるんだなと改めて感じました。オリンピックだけではなく、パラリンピックの方をもっと中心的に見たいなと思いました。私も、つらいことで、何度も心が折れそうになったけど、今回の話で勇気をもらいました。ありがとうございました。 |
| 【パラリンピアン】は事故について話してくださったけど、それはとても辛かったことだと思います。でも、講話の中で、「あの事故がなかったら、今の自分はいない」と話してくださいました。私は今、部活と習い事を頑張っています。楽しい時も苦しい時もあるけど、今日の講話を聞いて、私も【パラリンピアン】のように、何事にも前向きに頑張って生活していきたいです。 |
| 失敗には 2 種類あることを学んだ。きついかもしれないけど、そこを少しでも乗り越えることが大切だなと思った。緊張しやすいので、【オリンピアン】が言っていたことを実際にやってみようと思います。すごくためになる話ばかりでした。今日学んだことをこれからの生活に生かしていきたいです。 |
| 本物のパラリンピック選手の話が聞けてよかったです。今後の生活に生かしたいことがたくさんありました。 |
| 「チャンスを待て」という言葉が心に残りました。私も部活の面で他に人より上手になりたいという気持ちが強すぎて、最近ケガが多くなってきました。焦らずにこつこつと努力していこうと思いました。 |

| |
|---|
| 出来ないことを探すのではなく、出来ることを探すという言葉に心を打たれました。事故で足が動かなくなったら僕は絶望に陥ると思います。けれど出来ることを探し、チェアスキーというスポーツで活躍している。とてもすごいことだと思いました。 |
| 世界で活躍する選手は能力だけではなく考え方からすごいんだなと思いました。その考え方はスポーツ以外にも生かせることができるから、【オリンピアン】をお手本にして色々なことに生かしたいです。 |
| この間行われた、ハンドボールの試合に出ました。試合にでれたのは嬉しかったけど、試合中に先生に怒られてしまって、もう嫌だと思った自分がいました。でも、今日の話を聞いたら、怒られても嫌だと思わず、スイッチを切り替えて、自分はこれだけできるんだと思い、それに向かって一つ一つ丁寧に頑張っていこうという気持ちが持てたので、とても良かったです。 |
| 「失ったものを数えるのではなくて、残ったものを生かせ」という言葉がとても印象深かったです。私は特に障がいはありませんが、障がいのある人たちの分も頑張るということも大事ですが、その人にはその人なりの生き方があると思うので、サポートしながらも、障がいのある方を見守っていけたらいいなと思いました。また、今まであまりパラリンピックへの興味や関心などは少なかったですが、今回の授業でぜひ見てみたい！と感じたので、パラリンピックにも期待して選手を応援していきたいです。 |
| スポーツは平等に競い合えることがいいなと思った。楽しい生き方を教えてもらった。 |
| パラリンピックにでるまで、色々なことを乗り越えていてすごいと思いました。僕は諦めないことが大事だとさりげなく言った言葉がとても心に残りました。出来ることを探すということがどれだけ大事か知りました。人と協力する大切さが改めてわかりました。 |
| 【パラリンピアン】のように、足が不自由になって人生が変わった人はとても頑張ったんだろうなと思います。また、パラリンピックに出場して、5位という好成績を残してすごいなと思いました。障がい者の方も私たちと同じ人間に変わりはなく、少し不自由になっただけ。だから、何でもだるいとか、言っている人も頑張れる。私も目標を持ち、少しずつでもいいから成長していけたらいいなと思います。この世の中から障がい者の方の偏見や差別が少しでも減ったらいいなと思っています。 |
| 【オリンピアン】がおっしゃった、「失敗していい、目標に繋がる失敗を」という言葉を胸に頑張ろうと思う。 |
| 正直、パラリンピックというものがわからなかったので、パラリンピックというものも知れたし、障がいがある方がどのようにしてアスリートになられたかなど、貴重なことを聞けてとてもうれしかったです。 |
| 今回の授業では、【パラリンピアン】がたくさんの人に支えられながら強く生きる姿を見て、私はいつも支えられている側なので、次は障がい者の方々だけではないのですがたくさんの人を支える側になりたいと思いました。一度絶望を味わっても、なにか一度でも小さなやりがいや希望を大きなものに変えなければなと思います。とても貴重な体験をさせてくださったので、これからの夢につなげていきたいです。とても良い体験になりました。 |

| |
|---|
| 最終的に決めるのは「自分自身」だとわかったので、失敗を恐れず、自分で壁をつくらずに１つ１つ頑張っていこうと思った。試合前はとても緊張しますが、自分を信じて「できる」「やるんだ」という思いで、自分の力が出せように一生懸命頑張りたいと思います。 |
| 私はバスケの試合で緊張して、失敗を恐れたり、練習したことが使えなかったりします。でも、今日、「失敗してもいいから、何回もチャレンジすれば必ず成功する」「自分を信じる！」などの話を聞いて、自分も試合などで失敗を恐れず、自分に自信を持って何事にもチャレンジしようと思いました。 |
| 「下半身が動かない」という、大きなハンデを抱えながらも、前向きに、今できることを頑張って、強く生きることに心打たれた。中途半端にすることがあるので、なにか１つのことに集中して努力していきたい。 |
| パラリンピックを見ることはほとんどなかったが今回の授業で関心が高まったので見てみようと思った。障がい者に対して大変そうなどの感情しか持ったことがなかったがそういう人にしかわからないこともあると思うのでもっと話を聞きたいと思った。 |
| 【パラリンピアン】の話を聞いてパラリンピックは身近にあると知った。応援していきたいと思った。 |

（３）高等学校実施アンケート自由記述抜粋（50 件）

※オリンピアン・パラリンピアンの個人名は【オリンピアン】または【パラリンピアン】として伏せてあります。

| |
|---|
| 「志あるところに道ありき」という言葉を忘れずに、これから進路決定していくので頑張ろうと思いました。バレーだけでなく人生でも役に立つ言葉だと思うので心に刻んでおこうと思いました。 |
| 勝ち負けにこだわるのも大切だけど、家族や友人、たくさんの人に支えられているということ、その夢に対してふさわしい人になることをスポーツだけでなく、日々の生活において大切だということを学びました。すごく心に残る講演会でした。2020 年のオリンピックでは選手一人一人のプレーだけでなく、その背景についても考えながら見たいと思う。 |
| 被災した地元である気仙沼市民に感動を与えているところがかっこいいと思った。自分も被災地出身なので【オリンピアン】のように元気を与えられたらいいなと思います。 |
| 諦めずに目標を追い続けることの大切さと、支えてくれる人への感謝の気持ちを持つことの大切さを学ぶことができた。今、自分の納得のいく結果がなかなか出せなくて、辛かったり、大変だったりすることが多いけど、諦めずに今できることをがんばろうと思った。また、私を支えてくれる人への感謝の気持ちを常に持ち、毎日頑張ろうと思った。 |
| オリンピック・パラリンピックを今まであまり見てこなかったけど、今日の話を聞いて見てみようと思った。また、東京オリンピックは近いので直接ボランティアとかそういう形で見て、関わりたいと思った。 |
| 代表になる人でもいろんな苦労を重ねて代表にまで上り詰めていることがわかった。オリンピックはとても夢がある場所で、どういう形であれ、オリンピックに関わることができたらいいなと思った。 |
| 自分だけでどうにかしようと考えるのではなく、時には人に頼ったり、支えてもらうことも必要だということが分かりました。目標に向かってふさわしい人間を目指します。 |
| 最初から最後までとても興味深いお話だった。誰でも“できる力”を持っていること、それを信じて前進し続けること、自分の周りの支えてくれている人が多くいることを知ること、とても自分に当てはめることができる内容だった。「まずはやってみる。限界を自分できめない」自分に言い聞かせて、これからの自分の行動に生かしていきたい。 |
| 【オリンピアン】がおっしゃっていた、「叶えたい夢や目標があるのなら、その夢や目標にふさわしい人になる」ということがとても印象に残りました。これは、運動をする人にも、そうでない人にも言えることだと思います。自分も夢や目標ができた時は、それにふさわしい人になれるよう、一生懸命頑張っていきたいと思います。 |
| 私は何でも諦めずに一生懸命努力し続けることの大切さを学びました。自分の目標に向かって、目標を達成したいと思いそうなることを信じ続けることって本当に大切なんだと改めて感じました。今回学んだことは、スポーツに限った話ではなく、どんなことにでもいえることだと思います。自分を信じ、目標を信じて何事も頑張っていきたいです。 |

| |
|---|
| 自分の人生は自分だけのものではなく、周りの人に支えられる中で成長していくことで自分自身が成長していけるから、周りの人への感謝や恩返しをすることはとても大切だなと思った。たとえ自分が諦めたくなっても、本当にそれでいいのか、心残りになったりしないのか、と考えるようにして、自分があるべき人になれるようにしていきたいと思った。自分は今まで出会った人との出会いを大切にして、今日から感謝の気持ちを忘れることなくいろんなことにチャレンジしていきたい。2020 年の東京オリンピックがとても楽しみになった。 |
| オリンピックに出るような選手になるためには、休むことなど考える暇もないくらい練習しなければならないということが分かって、尊敬しました。それくらいそのスポーツが好きで、生活の一部となるほどそのスポーツをしている【オリンピアン】が羨ましいです。私も人生をかけてするくらいの気持ちで、スポーツをしているけど、私は足元にもおよばないと思いました。この講演で【オリンピアン】の話を聞けて自分ももっと頑張ろうと思えました。 |
| 今やっていることが上手くいかなくてもとりあえず続けてみると結果はどうであれ、その目標に向かってやっていく過程が大事だということを教わりました。来年度からは受験生ですが、思うような成績が出ないときもくじけずに目標に向かって頑張ろうと思います。今回のお話を聞いて勇気をもらうことができました。貴重なお話ありがとうございました。 |
| 【オリンピアン】のお話を聞いて、自分にも夢があるので、これまでいい加減にしてきたことをきちんと改めて行動して、【オリンピアン】のように自分の夢が叶うように頑張りたいと思いました。どんなことにでも一生懸命になっていこうと思います。ありがとうございました。 |
| 様々な失敗と成功と挑戦で人は変わるんだなと思いました。全日本の人や、東レの人が試合を観に来ててオファーされたりするのを聞いて、自分の行動やがんばりは誰かに見られているものだなと思いました。周りはプロばっかりの中、オーバーとアンダーがやっとのできる状態で、とても練習して、試合を観に来て靴を投げたお客さんが拍手をしてくれたことにびっくりしました。私も中学校でバレーボールをしていたので、レギュラーになれなかった気持ちなどが共感できました。講演を聞いてよかったです。 |
| 人には、その人だけのエピソードがあり、自分で悩んだり、成し遂げたり、思い返したりして大切な人生になっていく。自分の人生は自分の運命を決めていく。それを忘れないようにしたい。 |
| スポーツで大きな大会に出るためには周りの人々の支えや自分の目標がしっかりしていることが大切なことだと思ったし、社会でも通用するための力になることなので、自分の気持ちに負けず、嫌なことから目を背けずに生きていくことが大切であると思った。よい意味で開き直りたい。 |
| 自分の中に志を持ってこれからも大切にしていきたいと思いました。何回も挫折した末にオリンピック選手として競技にでれたのは最後まで諦めない心とバレーが好きという気持ちが変わらなかったからで、私も熱中できることを見つけて続けていきたいと思う。 |

| |
|---|
| 【オリンピアン】のお話を聞いて、少しのことですぐ諦めたり、弱い気持ちに負けたりせず、自分と向き合って頑張っていこうと思いました。【オリンピアン】の１つ１つの言葉が説得力があり、心に残るものでした。「相手ではなく、自分に負けない強い気持ち」という言葉が好きで、これから先、自分が負けそうになったらこの言葉を思い出して頑張ろうと思いました。 |
| 自分のしている競技がオリンピックの種目にはないのでオリンピック自体にあまり興味はありませんでしたが、他のスポーツのことを知り、東京オリンピックは興味を持って試合を観てみようと思いました。 |
| 今回の講演を通して改めて、スポーツのかっこよさ、素晴らしさを感じました。スポーツにはたくさんの種目があってそれぞれで面白さは違ってくると思いますが、人々を魅了し、強くする一体にさせるのは、同じだと思いました。 |
| スポーツをすることで、経験、自信、仲間、成長、健康を得ることができる。けがをすることで普段、経験しなかった裏方や元気にプレーをできることの幸せを気付くことができるのも大切なことだと思った。私も身長が高いのでイヤだと思ったけど、スポーツで生かせることができる【オリンピアン】はすごいと思いました。 |
| 何事も全力でやることで、夢に近づき、達成できたりするということが１番印象に残りました。勉強など必死に行うことで、神様は見てくれていて、夢を叶えることができることを学んだ。 |
| 【オリンピアン】はテレビでよく拝見していた方で、とても今日を楽しみにしていました。スポーツをしているので、今後に活かしたいなとすごく思いました。2020 年の東京オリンピックの時には自分たちは 20 歳となり、すごく身近に感じるので、一緒になって盛り上がって、何らかの形でサポートしていく立場になりたいなと思いました。 |
| 今日の授業で学んだことは、夢や目標があるのなら、その夢や目標にふさわしい人になり、たくさんの人に応援してもらえる人になることと、オリンピックバリューの「エクセレンス・フレンドシップ･リスペクト」を初めて知ることができたことです。 |
| 運動をすることはとても苦手ですが、スポーツを観戦することは大好きなので、今回のお話を聞いて益々２０２０年のオリンピックが楽しみになった。とても貴重な経験することができて良かった。 |
| やるだけではなくかかわることもスポーツにはできると感じることができた。東京オリンピックはサポートでかかわっていきたい。 |
| 努力の仕方で自分の夢が決まるんだなと改めて思いました。これからは壁にぶつかってもそこで諦めずに一生懸命頑張れるようになりたいと思います。そして、感謝するということを忘れないで、残り少ない高校生活を悔いを残すことなく過ごしたいです。 |
| スポーツをすることの意味を改めて感じることができた。決して一人ではやっていけない、周りの人や仲間の支えがあることでもっとスポーツが楽しくなると分かった。自分に支えがあればとても力になるので、今度からは自分が仲間たちの支えになろうと思った。 |

| |
|---|
| 【オリンピアン】は大きなケガをしたり、プレッシャーをうけてバレーを何度もやめようとしていたと聞いて、私は驚きました。それでも、逃げずにケガと戦って、また試合に出ることができた【オリンピアン】はかっこいいと思います。私は逃げたりしてばかりなので、そんな自分が少し情けないなと思う話でした。私はバレーが好きなので、元日本代表の選手に会えてとても嬉しいし幸せでした。今日の日はずっと忘れないです。貴重な体験ができてよかったです。 |
| 何事にも諦めないこと、努力すること。本当に大切なことだと思いました。スポーツを頑張っている方々を「ただ」応援するのではなく、「本気」で応援していきたいと思った。 |
| オリンピックへ行くために重要なことは、努力することと、それを続けることであることがわかった。努力すれば必ずしもできるとは限らないが、続けた分だけ、形になって、それに近いものが手に入ると思った。あと、自分が目指すことに関わった人たちには、必ず感謝をするべきであると改めて思った。 |
| 陸上歴に関係なく「努力をするということはこういうことだ」と感じさせられた。「私は天才でもないけど毎日努力し続けました。」という言葉が一番心に残った。 |
| 「人のために」と思うことで、ものすごい力や勇気が出るということが分かり、自分の得意なことや好きなことだけ頑張るのではなくて、自分の目標にふさわしい人になるということがすごく勉強になりました。スポーツを通して、勉強だけでは学べないことが学べるなと改めて思いました。バレーボールがもっと好きになりました。 |
| 諦めそうになった時こそ、自分に厳しくできる人になりたいと思いました。一つ一つのことは、自分だけでなく、周りの人が支えてくれているということを考えようと思いました。 |
| 私は陸上をしていて、アジアユース日本代表になったことがある。その時は本当に嬉しくて、海外遠征も楽しめた。2020 年は東京オリンピックを見るのではなく、出たいなと思う。夢の場所であり、出た方に話を伺っても、「本当に楽しい！」とおっしゃっていた。【オリンピアン】の言葉にもあったように、自分を信じて努力し、必ず周りの人に感謝の気持ちを忘れないようにこれから部活に取り組んでいきたい。 |
| 私が持つ目標の一つにオリンピックで英語の通訳のボランティアをすることがあります。海外の人と交流することが好きで、英語を上達させたいと思っていたところ、私の叔母からこの提案を受けました。今回【オリンピアン】の講演にあった、こつこつ努力することが大切という言葉や悔しい思いがあたっから努力してきたことを聞き、とても胸にささりました。今自分のもつ夢や目標にどれだけ本気で取り組んでいるかを考えたらなさけなかったからです。自分にとってとてもいい影響を受けることができて良かったです。 |
| スポーツは違うけど、私も周りの人への感謝や自分を信じることを大切にして部活をやっていきたいです。今回の話を聞いて、一番心に残っていることは、結果は後からついてきて、大切なのは今までどれだけ頑張ったかだ、という言葉です。結果ばかりにとらわれず、今できること、目の前のことを精一杯やろうと思いました。 |
| 講演を聴いて勝つことが目的ではなくスポーツを通して人生を豊かにしていくことが目的だと考えることでスポーツに関心を持てるようになった。 |

| |
|---|
| オリンピックはいつもニュースになっているときに見たりしていて、自分が参加しようと思ったことは一度もなかったけど、オリンピックは選手のみではなく、ボランティアなど多方面から関われるのだと思った。私はいつも諦めてしまいがちなので、そこで今度はこの話を思い出して頑張ろうと思った。 |
| 私はオリンピックに出場したバレーボール選手のスパイクをレシーブすることが夢で、さらにあこがれの【オリンピアン】のスパイクがとれて本当に嬉しかったです。講演のほうでもたくさん感動させてもらえてもっとバレーを頑張ろうというふうに思えました。バレーからたくさんの事を学ぶことができてやっててよかったです。夢や目標にふさわしい人になること、たくさんの人に応援してもらえる人になるということを頭に入れて日々の部活動を頑張っていきたいです。 |
| どんなスポーツでも周囲の人に支えられてプレーができていることは変わらず一緒なので、周りの人への感謝は常に忘れないようにしようと思った。基礎ができていることはもちろん大切だが、何か一つでも武器を持っていることも大切であることもわかった。これは、勉強でも部活でも言えることなので、総合的に能力を上げるだけでなく、得意なことはもっと伸ばしていこうと思う。 |
| 私も小さい頃からずっと続けていることがありますが、つらくて苦しいときもたくさんあります。しかし、今日の講演を聞いて、自分の夢は周りの人の夢にもなるということを強く学び、スポーツに限らず様々なことが人と人をつなげる一つの道具となるのだなと思いました。 |
| 普段滅多に聞くことのできないとても貴重なお話を聞くことができて良かった。自分もスポーツが大好きで昔からスポーツをしているが、トップアスリートの方とお会いしたことはほとんどないので、今日このような機会をいただけて非常に嬉しく思う。決して昔から活躍してきたというわけではないのに、全日本のチームに入るのは簡単なことではないし、自分が思っているよりもはるかに苦しい、血のにじむような努力をしてきたのだと思う。それでも、努力をすれば不可能を可能にするということを教えていただいた。今後、何事も諦めずに努力をしたいと思った。 |
| 障がいの有無に関係なく誰でも楽しむことができるのがスポーツだと思うし、スポーツを通して、様々な人たちとコミュニケーションをとることができると思うから、今後もスポーツを続けていきたい。 |
| テレビの前で観戦するときには分からない選手の苦労・努力が伝わってきて、改めて選手を尊敬し応援していきたいと思いました。 |
| 一人の力だけでなく、周りに支えてくれる人の力も大切だと感じることができました。また、大きな試練から得られるものはとても大きな存在であり、生涯にわたっての宝物なんだと考えさせられる授業でした。ありがとうございました。 |

| |
|---|
| 「周りから認められたい」という気持ちを持ち続けたことで結果が出た。この言葉が印象に残っている。オリンピックに出る人は才能のある人ばかりだと思っていたが、その考えは違うなと思った。努力を続ける人、自分の信念を貫ける人がオリンピックのような大舞台に出ることができるということが分かった。そして、周りの人に感謝すること、このことも大切だと思った。周りへの感謝を忘れずに生きていきたい。自分も【オリンピアン】ではないけれど、周りからニックネームをつけてもらえるような、周りの人に愛せれる人間になるために、日常をもう一度見直していこうと思う。 |
| 学生のうちだけではなく、健康な体づくりの一環として大人になってからも何かスポーツを続けるようにしたいなと思った。次のオリンピックでは、いろいろな視点から観戦してみようと思った。 |
| 人生には何度も挫折があるが、自分の長所をバネに頑張っていこうと思いました。また、自分はオリンピックがあまり興味がなく、テレビがついていたら見るくらいでしたが、選手全員が努力してあの場に立っていて、自分たちの国の代表なので応援していこうと思いました。 |

## 今後に向けて

本事業では、地域におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進に向けて、国内３県の県･市教育委員会のご協力を得てそれぞれ３つの事業を遂行いたしました。

まず、オリンピック・パラリンピック教育推進校事業について、岩手県、広島県、熊本県の計３０校の児童・生徒 10,389 名を対象に、延べ２２名のオリンピアン並びに９名のパラリンピアン計３１名を派遣して、オリンピック・パラリンピック教育を実践していただきました。当初の予定ではオリ・パラ推進校に指定したすべての学校にオリンピアン・パラリンピアンを派遣する予定でしたが、日程調整がつかず、関連資料の受け取りのみとなった学校もありました。

なお、事業実施後の児童・生徒のアンケート結果では、オリンピック・パラリンピックやスポーツに対する関心の高まり、夢や目標に向かって挑戦すること、さらには仲間の大切さ等に関する記述が数多くみられ、オリ・パラ教育の効果が確認されました。しかし、オリンピアンを派遣した学校ではオリンピックに関する児童･生徒の理解や関心を向上させることができた一方で､パラリンピックに関する理解や関心は向上させることができず、その逆もまた然りでした。また、いずれの学校においても国際的な視点に関する記述の少なさも目立ちました。今後は、オリンピックとパラリンピック両方の理解や関心をいかにして高めるのかが重要な課題であり、“オリンピック・パラリンピック教育”として一体化した教育プログラムの作成・展開が急務になると考えられます。

また、教員セミナーでは、各県の教員を対象にオリ・パラ教育の概要や具体的な進め方などについて情報共有を行いました。さらに、市民フォーラムでは、オリンピアン・パラリンピアンを交えたシンポジウムを開催し、教員や児童･生徒、さらには市民とともにオリンピック・パラリンピックの意義や価値、今後のムーブメントの高め方などについて考える場を設けました。しかしながら、実際に体育／保健体育や総合学習の授業として、または特別活動として学校で持続可能なオリ・パラ教育をどのように実践していくべきかについては十分に検討できておらず、さらに学校のみならず地域の方々のオリンピック・パラリンピックの理解や関心を十分に高めることができませんでした。

今後は、推進校の数を増やすこと、また学校の授業や特別活動の中でオリ・パラ教育を位置づけていくこと、さらには多くの教員にオリ・パラ教育に関心をもって授業に取り組んでいただくことで、すぐれた授業プログラムの開発につなげていきたいと思います。同時に、学校において実施するオリ・パラ教育についても広く市民への周知を図り、地域と一体となってムーブメントを展開していくことが重要であると考えます。

最後に、本事業の推進メンバーとしてご協力いただいた岩手、広島、熊本各県の教育委員会並びに熊本市の教育委員会の皆様、推進校の先生方、また電通ライブ、ひとづくりくまもとネットの皆様には、年度途中の依頼にもかかわらず本事業を快くお引き受けいただき、たいへんなご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。関係の皆様方に謝意を示しつつ、本事業が 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に寄与することを祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

平成 29 年 3 月

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
副センター長　　深見　英一郎

## 本事業の構成員

| | | |
|---|---|---|
| センター長 | 友添　秀則 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　教授 |
| 副センター長 | 深見　英一郎 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授 |
| 主任研究員 | 吉永　武史 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　准教授 |
| 研究員 | 竹村　瑞穂 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　助教 |
| | 小野　雄大 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　助手 |
| | 鈴木　康介 | 早稲田大学スポーツ科学研究センター　招聘研究員 |
| | 根本　想 | 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 |
| 事務局員 | 青木　彩菜 | 早稲田大学スポーツ科学学術院　研究助手 |

平成２８年度スポーツ庁委託事業
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

平成２９年３月３１日
発行：　早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
埼玉県所沢市三ヶ島２－５７９－１５　早稲田大学所沢キャンパス１００－４２７
TEL/FAX：０４－２９４７－６７２４
Web サイト：https://www.waseda.jp/prj-w-olypara/